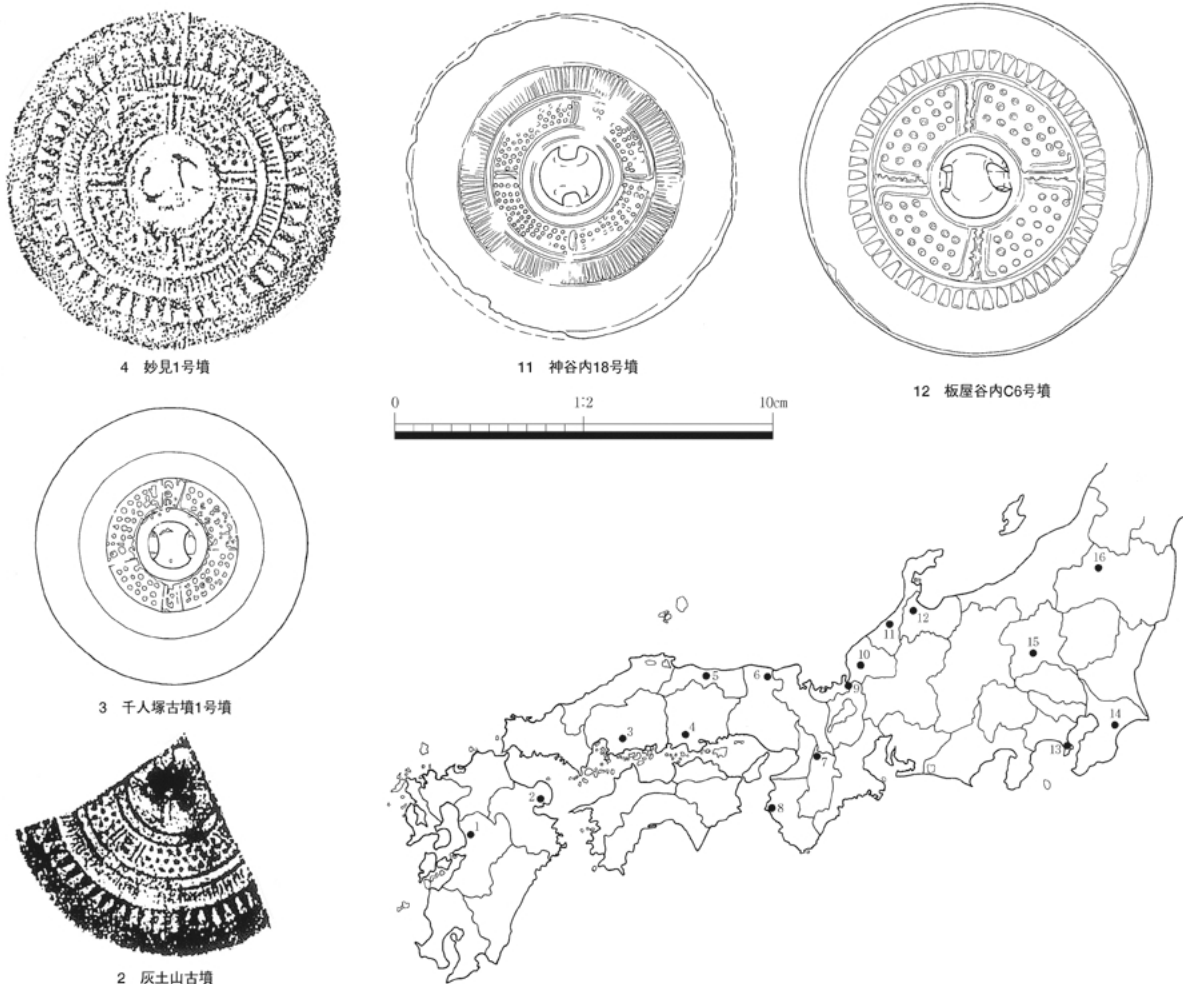


いと推定された。なお、B13号墳で勾玉と考えられる遺物(3)が出土しており、当初琥珀と考えて分析を行ったが、結果は琥珀ではなく、土製の可能性が高いというものであった。土製勾玉は縄文時代から古代にかけ、主に竪穴住居等の集落遺跡から出土することが知られている^{注6}。古墳からの出土例は少ないが、浦辺古墳群(山口県)、吉川古墳群(鳥取県)、横田東古墳群(岡山県)、船来山古墳群(岐阜県)、三方原古墳群(静岡県)、東谷古墳群(千葉県)、熊堂古墳群(岩手県)等^{注7}、全国的にみられ、土製勾玉であれば県内初例となる。

遺跡名	所在地	種類	直径(m)	遺構	時期	直径(m)	外区文様	内区文様
1 経塚古墳	熊本県玉名郡	円墳	45	舟形石棺	4C末~5C初	8.3	櫛歯-三重円	放射状8区画、区画線に沿った細い隆線 区画内珠文4列
2 灰土山古墳	大分県西国東郡太田村	前方後円墳	80	箱式石棺		8.2	櫛歯-櫛歯-円	十字状、珠文を挟んだ2本1組の隆線で4区画 区画内珠文3列
3 千人塚古墳1号墳	広島県東広島市	円墳	25	箱式石棺	5C初	7.2	不明文様帯	十字状、珠文を挟んだ2本1組の隆線で4区画 区画内珠文3列(乱雑)
4 妙見1号墳	岡山県吉備郡	円墳	14	箱式石棺		9.0	櫛歯-櫛歯-円	十字状4区画、区画線に沿った細い隆線 区画内珠文3列
5 鑑山山頂古墳	鳥取県倉吉市	円墳	-	箱式石棺		8.8	不明	不明
6 北浦18号墳	兵庫県豊岡市	円墳	20	木棺直葬	5C前	9.7	櫛歯-櫛歯-円	放射状8区画、区画線に沿った細い隆線 座をもつ乳文1、周囲に珠文3
7 伝あやめ池付近	奈良県奈良市	採取	-	-		7.6	櫛歯-二重円	放射状8区画 区画内珠文3列
8 尾ノ崎遺跡15号周溝墓	和歌山県御坊市	方形周溝墓	6.89	竪穴式石室		9.15	櫛歯-櫛歯-二重円	十字状4区画、区画線に沿った細い隆線 区画内珠文2列、円
9 小谷ヶ洞2号墳	福井県敦賀市	円墳	24	割竹形木棺		6.7	櫛歯	放射状8区画、区画線に沿った細い隆線 座をもつ乳文1、周囲に珠文3
10 長泉寺山9号墳	福井県鯖江市	円墳 (前方後円墳)	17	埋葬施設		12.1	2列の櫛歯-櫛歯-珠文帯	放射状8区画、区画線に沿った細い隆線 座をもつ乳文1、周囲に珠文3
11 神谷内18号墳	石川県金沢市	方墳	5.5	埋葬施設?	4C中~後	8.7	櫛歯-二重円	十字状、2本1組の隆線で4区画 区画内珠文4列、二重円
12 板屋谷内C6号墳	富山県高岡市	円墳	17	埋葬施設	5C初	9.3	櫛歯-円	十字状4区画、区画線に沿った細い隆線 区画内珠文3列、円
13 横須賀市付近	神奈川県横須賀市	不明	-	-		7.2	櫛歯-櫛歯	放射状8区画、区画線に沿った細い隆線 区画内珠文1
14 島戸境1号墳	千葉県山武郡	円墳	20	埋葬施設	4C後葉	8.5	2列の櫛歯-櫛歯	放射状8区画、区画線に沿った細い隆線 乳文1、周囲に乱雑な珠文
15 長者屋敷天王山古墳	群馬県高崎市	前方後円墳	70	不明		8.0	櫛歯	放射状8区画、区画線に沿った細い隆線 珠文(大)1、周囲に珠文(小)4
16 森北1号墳	福島県河沼郡会津坂下町	前方後方墳	42	舟形木棺	4C前	8.4	櫛歯-円	2本1組の突線をもつ隆線で放射状8区画 区画内扇状に隆線で区画、珠文縦2列
17 出土地不明	東京国立博物館所蔵品	-	-	-		7.4	櫛歯	放射状8区画、区画線に沿った細い隆線 乳文1

第7表 放射状区画をもつ珠・乳文鏡一覧



第52図 放射状区画珠・乳文鏡出土地点

(4) 古墳群の時期 (第53図)

今回の調査ではB古墳群の対象となった古墳が少なく、群内の前後関係は不明だが、C古墳群を出土遺物、立地状況等から時期区分し、時間的変化を示したい。

第1段階：(古墳時代前期中葉～後半)

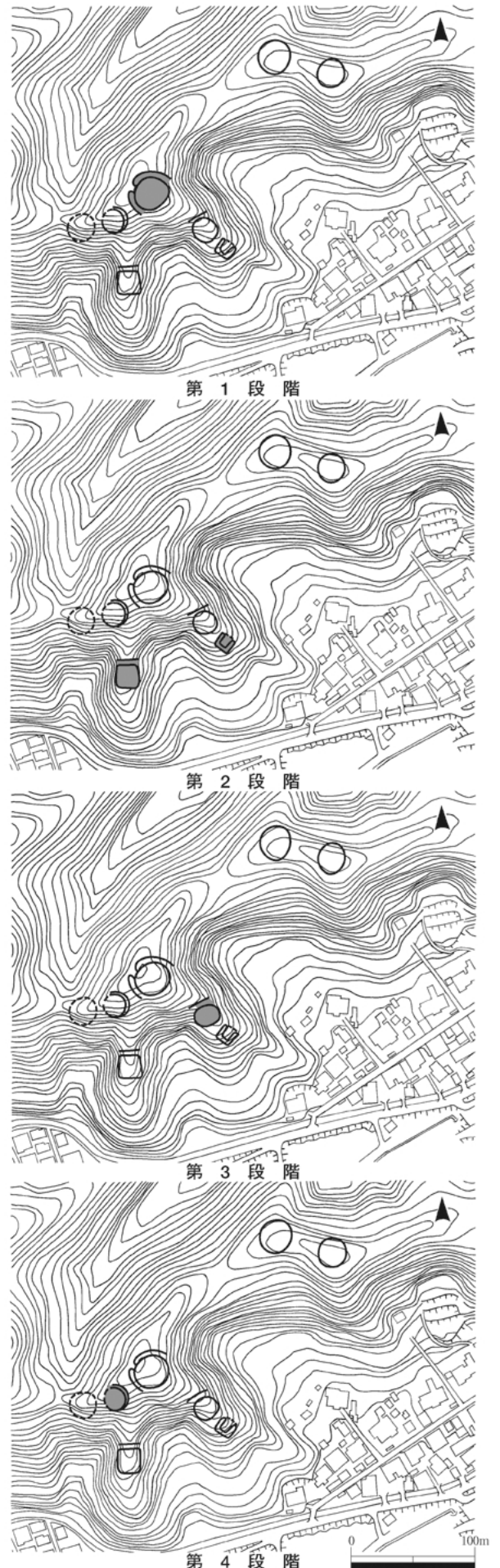
C1号墳が尾根筋上で、かつ3方向への分岐点に築造される。C古墳群中最も高所に位置し、平野側への眺望が最も開けている。古墳の規模は径24mの円墳で、C古墳群内では最も大きな墳丘をもつことから、C古墳群で最初に築造された古墳であろう。埋葬施設は墳頂平坦面のやや西側にずれた位置から墓坑1基を検出しており、割竹形木棺の木棺直葬と推定される。墓坑底に部分的であるが赤色土の堆積が認められ、棺底部内面への塗布か、頭胸部周辺への赤色土(顔料)の散布が行われていたものと考えられる。

副葬品はヤリ・ガラス小玉があり、ヤリは茎部残存の木質と漆膜から4枚合わせの柄木をもつと考えられる。この他周溝からは墳頂からの転落遺物とみられる土師器が出土しており、有段口縁壺は古府クルビ式期(漆町編年8群)前後に位置付けられる。

第2段階：(古墳時代前期後半～末)

尾根筋から南・東方向へ張り出す支丘で古墳築造が始まり、C4・C7号墳が支丘中腹の平坦地に築かれる。C4・C7号墳の下段、支丘先端は削平されており旧地形を留めていないが、丘陵裾まで蛇行する小矢部川が迫っており、第1段階も含め丘陵側・平野側双方からの眺望がきく場所から古墳築造が始まったといえる。古墳の規模はC7号墳が一辺約12mの方墳、C4号墳は南・東側を削平され、西側は調査区外なため一辺18mと推定される方墳である。埋葬施設はC4号墳で、墳頂部のほぼ中央で墓坑1基を検出しており、割竹形木棺の木棺直葬と推定される。C7号墳については墳丘を削平されているため、埋葬施設については不明である。

副葬品には、C4号墳から方形板鍬・鋤先・水



第53図 板屋谷内C古墳群変遷図 (1/5,000)

晶勾玉・緑色凝灰岩管玉がある。方形板鍬・鋤先は富山県内では弥生時代終末～古墳時代中期前半にかけて5例が知られており、C4号墳出土品は刃部幅の広いタイプで、古墳時代前期後半に位置付けられよう^{註8}。その他C4号墳周溝から土師器・須恵器、C7号墳周溝から土師器が出土している。周溝出土土師器は、C4・C7号墳とも墳頂からの転落遺物と考えられ、C7号墳出土の赤彩された有段口縁壺は、古府クルビ式期（漆町編年8・9群）前後と考える。

第1段階と第2段階とは周溝出土土師器の形式的には、ほぼ同時期と考えられるが、C1号墳出土土師器が若干古相とみられる。第1段階・第2段階に分けたが時間的な差はあまりなく、ほとんど連続して築造されたと想定している。

第3段階：（古墳時代中期前半）

東へ張り出す支丘中腹にC6号墳が築造される。C6号墳はC7号墳上段の狭小な平坦地に立地する。古墳の規模は径17mの円墳である。埋葬施設は墳丘中心よりやや北西に偏った地点で落ち込みを検出している。墳丘の流失や立木の根荒らしにより全形を把握していないが、墓坑の北西コーナーにあたとみられる。

副葬品には銅鏡・剣・玉類がある。剣は短剣タイプで、中期前半になると短剣は減少し、長剣が地方の中小古墳に副葬されるまでに一般化する傾向にあることを考慮すると短剣副葬としては終末頃の例となろう。富山県内では短剣の出土例は少なく、関野2号墳例^{註9}と共に最もくだる例の1つとなろう。玉類は材質、種類ともに多様で、県内の中期古墳において滑石製の小玉が多数出土すること、玉類の組み合わせが多様化する傾向^{註10}にあることと合致する。

第4段階：（古墳時代中期？）

尾根筋から南へ張り出す支丘の分岐点にC2号墳が築造される。C2号墳はC4号墳上段の急斜面と尾根筋との接点の狭小な平坦地に立地する。南側平野への眺望はきくが、東側についてはC6・C7号墳のある東支丘により遮られる。古墳の規模は径15mの円墳である。埋葬施設は墳頂部で墓坑を検出したが、全体は把握していない。

副葬品はなく不明である。周溝からは陶器製品の搬入と考えられる須恵器が出土しているが、小片で詳細は不明である。

古墳の築造順に整理すると、C1号墳→C7・C4号墳→C6号墳となり、C1号墳→C7号墳の時間差はそれほどなく、C2号墳についてはC6号墳に後続するものとする。B古墳群については、B13号墳が出土須恵器の時期から中期後半と考えられ、C2号墳と同時期か、C2号墳に後続すると考えられる。板屋谷内古墳群としては、未調査古墳が多く想定域をでないが、丘陵先端の一段下がった位置に全長51mの前方後円墳（A1号墳）が築造されたのを初現とし、標高50～66mの尾根上に中小規模の円・方墳が順次築造されたとみられる。これらの古墳は前期初頭から後期の長期間にわたり営まれたもので、A1号墳以外は突出した墳丘をもたず、少数の20mを超える中規模墳と、20m以下の小規模墳から構成される。C古墳群は板屋谷内古墳群のなかでは比較的早い時期に築造が始まったと考えられよう。

板屋谷内古墳群周辺には、前方後方墳とみられる五十里1号墳や須田不動山古墳群、西海老坂小田谷内古墳群等の出現期古墳が集中しており、今回の調査結果は西山丘陵における地域史解明の好資料となるであろう。古墳とそれを支えた地域集団との関係、土器編年と古墳編年の関係等、検討されるべき問題は多く、今後の資料の蓄積に期待したい。（金三津道子）

注

- 注1 小田木治太郎・田島富慈美 1987「第5章 考察 a土師器」『関野古墳群』小矢部市教育委員会・小矢部市古墳発掘調査団
 宇野隆夫・押川恵子 1988「第5章 考察 a土師器」『谷内16号墳』小矢部市教育委員会・小矢部市古墳発掘調査団
 谷内16号墳において、古府クルビ式に古・新を設定し、古府クルビ式新は漆町編年の8群あるいは7群のごく一部と対応するものとされている。板屋谷内C1・C7号墳出土土器は古府クルビ式新もしくは一段階後に対応するものとする。
- 注2 氷見市教育委員会のご厚意により、園カンデ寮跡出土須恵器の試料提供を得て分析を行った。
- 注3 中山清隆・林原利明 1994「小形倣製鏡の基礎的集成(1)―珠文鏡の集成―」『地域相研究』第21号 地域相研究会
 吉田博行 1999「第4章 放射状区画をもつ珠文・乳文鏡について」『森北古墳群』創価大学・会津版 下町教育委員会
 珠文鏡と乳文鏡との厳密な区別は難しく、内区が珠文を主文様として構成されるもので、乳文鏡のうち珠文をもつものを含めている。また、吉田氏は乳文鏡にも放射状区画を配する一群があることから、放射状区画珠文鏡と類縁な鏡群として集成されている。ここでは中山・林原、吉田氏の集成に一部追加した。
- 注4 清水康二 1994「倣製内行花文鏡の編年―倣製鏡の基礎研究I―」『榎原考古学研究所論集』第11 榎原考古学研究所
- 注5 平尾良光氏の御教示による。
 第V章 自然科学分析「1 板屋谷内B・C古墳群 (5)鏡の分析 D 内行花文鏡の鉛同位体比」に詳しい。
- 注6 的場善行 2005「関東地方出土の土製勾玉について」『埼玉考古』第40号 埼玉考古学会
- 注7 鳥根県古代文化センター 2005『古代出雲における玉作の研究 II』及び各古墳報告書
- 注8 杉山大晋 2005「板屋谷内B・C古墳群の金属製品の一考察」『紀要 富山考古学研究』第8号 財団法人富山県文化振興財団
- 注9 注1『関野古墳群』に同じ
- 注10 酒井聖子 1987「第5章 考察 c小玉」『関野古墳群』小矢部市教育委員会・小矢部市古墳発掘調査団

引用・参考文献

- 池淵俊一 2003「刀剣・矛・戈・ヤリ・素環頭刀」『考古資料大観7 弥生・古墳時代 鉄・金属製品』小学館
 石川県立埋蔵文化財センター 1987『宿東山遺跡』
- 伊藤雅文 1989「石川における前期古墳小考」『北陸の考古学II』石川考古学研究会
- 大賀克彦 2002「弥生・古墳時代の玉」『考古資料大観9 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器』小学館
- 岡村秀典 1993「後漢鏡の編年」『国立歴史民俗博物館研究報告』第55集
- 岡本淳一郎 2003「越中西部地域における古墳出現期の土器様相」『庄内式土器研究会X XVI』庄内式土器研究会
- 小黒智久 2006「越中における古墳編年」『北陸の古墳編年の再検討』富山大学人文学部考古学研究室
- 加賀市教育委員会 1979『分校古墳発掘調査報告』
- 河合 忍・林 大智 1999「方形板刃先・U字形刃先」『石川県考古資料調査・集成事業報告書 農耕具』石川考古学研究会
- 岸本雅敏 1994「弥生・古墳時代遺跡出土鏡データ集成13 富山県」『国立民俗博物館研究報告』第56集
- 車崎正彦 1994「3 倭鏡雑感」『鳥戸境1号墳』財団法人山武郡市文化財センター
- 河野清寶 1915「豊後西国東郡田原灰土山の古墳」『考古学雑誌』第5巻11号 日本考古学会
- 小西昌志 2004『神谷内古墳群 C支群』金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 財団法人富山県文化振興財団 2003『勅使塚古墳・永代遺跡・安居寮跡群・中山中遺跡発掘調査報告』
- 酒井重洋 1982「板屋古墳」『昭和56年度富山県埋蔵文化財調査一覧』
- 篠原祐一 1995「白玉研究私論」『研究紀要』第3号 (財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 杉山大晋 2006「北陸の弥生後期～古墳中期の短剣・ヤリ類の検討」『紀要 富山考古学研究』第9号
 財団法人富山県文化振興財団

- 大門町教育委員会 1998『二口油免遺跡発掘調査概要 庄川右岸改修関連住宅団地事業に係る調査』
- 高岡市教育委員会 1984『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅰ』
- 高岡市教育委員会 2002『倉谷古墳群調査報告』
- 高橋浩二 2002「能越地域における古墳の展開 前期を中心として」『富山市日本海文化研究所紀要』第16号
富山市日本海文化研究所
- 田口俵太郎・古岡英明 1951『国分山古墳群調査報告書』
- 田嶋明人 1986「考察 漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
- 田中 琢編 1981『日本の美術 No.178 古鏡』至文堂
- 辰口町教育委員会 2004『下開発茶白山古墳群Ⅱ』
- 寺井町教育委員会 1997『加賀 能美古墳群』
- 富田和氣夫 1996「刀剣類」『石川県考古資料調査・集成事業報告書 武器・武具・馬具Ⅰ』石川考古学研究会
- 富山県 1972『富山県史 考古編』
- 富山考古学会 1999『富山考古学会創立50周年記念シンポジウム 富山平野の出現期古墳』発表要旨・資料集
- 富山考古学会 2003「富山県古墳副葬品集成」『大境』第23号
- 富山大学人文学部考古学研究室 2006「北陸の古墳編年の再検討」平成17年度富山大学人文学部公開研究会資料
- 七尾市教育委員会 1994『藤橋ゼニガミネ古墳』
- 奈良県立橿原考古学研究所 2006『3次元デジタルアーカイブ 古鏡総覧Ⅰ・Ⅱ』学生社
- 西川麻野 2005「古墳時代北陸の袋状鉄斧について」『紀要 富山考古学研究』第8号 財団法人富山県文化振興財団
- 林 大智 2005「第4節 鉄製品」『八里向山遺跡群』小松市教育委員会
- 氷見市教育委員会 2000『柳田布尾山古墳 第1次・第2次発掘調査の成果』
- 深田 浩 2006「瑪瑙製玉類の展開 鳥根県の様相を中心に」『季刊 考古学』第94号 雄山閣
- 本田光子 1995「古墳時代の赤色顔料」『考古学と自然科学』第31・32号 日本文化財科学会
- 埋蔵文化財研究会 1989『古墳時代前半期の古墳出土土器の検討』第Ⅳ分冊 東海以東篇
- 松井和幸 2001『日本古代の鉄文化』雄山閣
- 村上恭通・山村芳貴 2003「農工具」『考古資料大観7 弥生・古墳時代 鉄・金属製品』小学館

第8表 板屋谷内B・C古墳群 古墳一覧

古墳名	標高(m)	墳丘		盛土		周溝		埋葬施設			出土遺物	備考	挿図番号	図版番号	
		形	規模(m)	有無	残高(m)	幅(m)	深さ(m)	種類	規模(m)	主軸方位					
B13号墳	61	円	径26	有	0.5	-	-	木棺直葬 (組合式木棺)	SK1	3.2~×2.0~×0.24	N-3°-W	鉄斧,鉄刀,刀子,土製 勾玉,土師器,須恵器		7~10	8~10
B14号墳	60	円	短径20 長径25	有	0.7	-	-	木棺直葬 (割竹形木棺)	SK2	2.6~×1.0×0.25	N-82°-W	土師器		12~15	11~13
C1号墳	65.7	円	径24	有	0.8	4.0	0.74	木棺直葬 (割竹形木棺?)	SK5	6.4×1.9×0.2	N-51°-E	ヤリ,ガラス玉,土師器	赤色土	16~20	14~17
C2号墳	60	円	径15	有	0.7	3.0	1.40	木棺直葬?	SK4	0.7~×1.45×0.1	N-42°-W	須恵器		22~24	18・19
C4号墳	44	方	18×18	有	1.1	4.0~4.5	0.70	木棺直葬 (割竹形木棺)	SK2	4.9~×2.15×0.25	N-37°-E	方形板鏃・鏃先,水晶 勾玉,管玉,土師器,須 恵器		26~30	20~22
C6号墳	48.3	円	径17	有	0.8	4.0	1.10	木棺直葬?	SK4	-	N-32°-E	珠文鏡,内行花文鏡, 鉄剣,刀子,瑪瑙勾玉, 管玉,霽玉,ガラス管玉, ガラス小玉,琥珀丸玉		32~35・43	23~26
C7号墳	39~40	方	11.6×11.6	無	-	1.5	0.44	-	-	-	-	土師器		44・45	27

※埋葬施設の規模の数値に「~」がついているものは、残存長を計測したものである。

第9表 板屋谷内B・C古墳群 遺構一覧

地区	遺構 番号	種類	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	備考	挿図番号	写真図版
				長さ	幅	深さ					
B14	SK1	土坑?	不整形	0.19	0.08	0.20	縄文土器	縄文?	倒木痕か	13	
C1	SK2	土坑	円	1.40	1.16	0.80	珠洲(播鉢)	中世	埋葬施設と重複	18・19	
	SK3	土坑	円	0.80	0.70	0.18		不明		20	
	SK4	土坑	円	0.70	0.40	0.30	縄文土器	不明		20	
C2	SK1	土坑	楕円	0.95	0.32	0.10		不明		22	
	SK2	土坑	楕円	1.15	0.95	0.72	珠洲	中世	埋葬施設と重複	23	
	SK3	土坑?	不整形	2.50	1.00	0.20		不明	倒木痕または地震による崩落痕か	22	
C4	SK3	土坑	円	0.40	0.40	0.18		不明	SD01の底面で検出	30	
C6	SK2	土坑	楕円	2.80	0.82	0.24	土師器	不明		34	
	SK3	土坑	楕円	1.70	0.82	0.10		不明		34	
C7	SK2	土坑	楕円	1.52	1.26	0.56		不明		45	
	SD3	溝			1.20	0.20		不明		45	
	SD4	溝			1.04	0.26		不明		45	
尾根	SD101	溝			3.45	0.55	銅銭(寛永通寶)	近世		47	
	SK102	土坑	楕円	0.94	0.77	0.17		不明		47	
	SK103	土坑	円	0.72	0.64	0.09		不明		47	28
	SK104	土坑	不整形	0.80	0.65	0.23		不明		47	28

※地区は各々古墳名または尾根を示し、古墳に伴わないと考えられる遺構の一覧である。

第10表 板屋谷内B・C古墳群 土器一覧

挿図 番号	遺物 番号	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)			色調		時期	備考	分析
								口径	器高	底径	記号	色名			
11	1	31	B13		2T南	須恵器	高杯		(7.1)	10.4	5B7/1	明青灰色	TK208~23	把手付 「↑」状の記号	蛍光X線
	2		B13		X105Y98 表土	土師器	壺		(1.7)	(6.0)	25Y7/2	灰黄色	古墳前~中期	外面赤彩 5YR7/6橙色	
21	10	29	C1	SD1		土師器	壺	19.6	(8.2)		25Y7/2	灰黄色	古墳前~	外面赤彩 7.5YR7/6橙色	
	11		C1	SD1		土師器	甕	(19.8)	(3.1)		10YR7/4	にぶい黄橙色	古墳前~		
	12		C1	SD1		土師器	鉢		(4.7)	(6.2)	10YR7/4	にぶい黄橙色	古墳前~		
	13		C1	SD1		土師器	鉢		(3.3)	(5.8)	10YR6/4	にぶい黄橙色	古墳前~		
	14	29	C1	SD1		土師器	甕	(20.4)	(5.2)		10YR6/4	にぶい黄橙色	古墳前~	同一個体か?	
							(2.2)	5.4							
15	32	C1	SK2	1T	珠洲	播鉢	(27.2)	(6.8)		25Y7/2	灰黄色	II期	卸目6条一単位か		
25	20	31	C2	SD5		須恵器	杯		(2.2)	(8.3)	N7/1	灰白色			蛍光X線
	21	32	C2	SK2		珠洲	播鉢	(17.2)	(4.6)		25Y6/1	黄灰色	II期?		
	22		C2		9T	珠洲	播鉢		(3.4)		5Y7/2	灰白色	II期?	卸目9条一単位 確認調査	
	23	32	C2	SK2		珠洲	甕				25Y6/1	黄灰色			
31	26	29	C4	SD1		土師器	壺		(3.3)	7.4	7.5YR6/6	橙色	古墳前~		
46	318	31	C7	SD1	X40Y60	土師器	壺	19.1	(29.1)	6.7	7.5YR7/4	にぶい橙色	古墳前~	外面赤彩 10YR5/8赤色	

※破片が小さく計測不可能な場合、法量の欄を空白とした。

第11表 板屋谷内B・C古墳群 金属製品一覧

挿図 番号	遺物 番号	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm・g)				備考	分析
								長	幅	厚	重		
11	4	38-45	B13		X105Y106 I層	刀子	鉄	6.4	1.2	0.4	12.94		金属
	5	42-45	B13		X105Y106 I層	板状	鉄	3.3	1.5	0.3	5.24		
	6	37-43	B13		X105Y106 I層	斧	鉄	10.7	6.6	2.7	348.22		金属・年代
	7	37-43	B13		1T西	刀	鉄	6.0	2.3	0.6	30.63		金属
	8	37-43	B13		南 表土	刀	鉄	11.8	2.6	0.7	77.13		金属
	9	37-44	B13		2T	刀	鉄	42.2	3.6	1.5	278.84	確認調査・木質付着	金属・年代
21	17	38-44	C1	SK5		ヤリ	鉄	21.8	3.0	0.4	117.78	木質付着・布付着・漆附	金属
	18	42	C1		E3 I層	金具状	真鍮	0.8	0.85	0.1	0.20	土壌洗浄	蛍光X線
	19	42-48	C1	SD1		蟹	鉄	8.6	1.9	1.0	55.50		金属・年代
25	24	42-45	C2		X55Y20	環状	鉄	4.5	0.4	0.5	17.33		
	25	42-48	C2		X38Y25 I層	蓋状	鉄	9.8	4.3	0.6	63.37		金属・年代
31	29	38-45	C4		E3 I層	方形板鏃・鏃先	鉄	5.3	11.3	0.3	106.17	木質付着	金属・年代
36	30	39-47	C6		12T-2	珠文鏡	銅	径9.3		(鈕)1.0 (身)0.3	108.31	確認調査	顔料・鉛
	31	40-47	C6	SK4	X46Y53 B3	内行花纹鏡	銅	径6.9		(鈕)0.6 (身)0.2	18.67		顔料・鉛
	32	36-41・46	C6	SK4	X46Y53 B3	剣	鉄	21.6	2.8	0.4	79.79	木質付着・布付着	金属
	33	38-45	C6	SD1	X47Y48 1F層	刀子	鉄	7.6	1.3	0.3	10.40		金属
	34	38-45	C6	SD1	X47Y47 1F層	座金具状	鉄	4.7	2.5	2.7	22.12		
	35	38-45	C6	SD1	2T 北6層	蟹	鉄	2.9	1.0	0.6	5.74		
	36		C6	SD1	4層	銭	銅	2.4		0.1	2.04	嘉祐通寶	
46	319	42-48	C7		X39Y64 II上層	蟹	鉄	6.5	1.9	0.6	34.04		金属・年代
48	320	41-46	尾根		X86Y40 I層	剣	鉄	20.2	3.2	0.5	106.28	木質付着	金属
	321	42-48	B14		X114Y80 I層	鎌	鉄	10.7	2.4	0.6	57.23		金属・年代
	322		尾根	SD101	X90Y45	銭	銅	2.2		0.1	2.22	寛永通寶	
	323		尾根		X100Y60	銭	銅	2.0		0.1	1.97	咸平元寶	

※鏡の法量は径を長の欄に記してある。

第12表 板屋谷内B・C古墳群 玉類一覧(1)

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm・g)					色調		備考・分析
								長	幅	厚	孔径	重	記号	色名	
11	3	35	B13		北 表土	勾玉	土製	(2.35)	(1.40)	0.70		2.07			科学分析
21	16	36	C1	SK5	C東	小玉	ガラス	0.30	0.50	0.50	0.18/0.10	0.10	5B5.5/8.5	ターコイズブルー	成分分析
31	27	35	C4		E2 1層	勾玉	水晶	1.70	1.20	0.50	0.16	1.46		透明	
	28	35	C4		D2 1層	管玉	緑色凝灰岩	0.80	0.20	0.20	0.10	0.09	5G5/1	緑灰色	
37	37	33	C6	SK4	A3(12T)	棗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.25	5GY7/1	明オリブ灰色	
	38	33	C6	SK4	A3(12T)	棗玉	滑石	(0.80)	0.50	0.55	0.18	0.21	5GY7/1	明オリブ灰色	
	39	33	C6	SK4	A4(12T)	棗玉	滑石	(0.75)	0.45	0.45	0.18	0.23	5GY7/1	明オリブ灰色	
	40	33	C6	SK4	A4 4~6層	棗玉	滑石	0.65	0.50	0.55	0.16	0.18	10Y7/2	灰白色	
	41	33	C6	SK4	A4 4~6層	棗玉	滑石	0.60	0.45	0.50	0.16	0.33	7.5GY7/1	明緑灰色	
	42	33	C6	SK4	A4 4~6層	棗玉	滑石	0.80	0.60	0.60	0.20	0.25	5GY7/1	明オリブ灰色	
	43	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.18	0.22	5GY7/1	明オリブ灰色	
	44	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.21	5GY7/1	明オリブ灰色	
	45	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.60	0.45	0.50	0.18	0.38	5GY7/1	明オリブ灰色	
	46	33	C6	SK4	A4 4~6層	棗玉	滑石	0.80	0.60	0.60	0.20	0.20	5GY7/1	明オリブ灰色	
	47	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.70	0.55	0.55	0.21	0.25	5GY7/1	明オリブ灰色	
	48	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.80	0.55	0.50	0.20	0.27	2.5GY7/1	明オリブ灰色	
	49	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.80	0.50	0.50	0.20	0.25	5GY7/1	明オリブ灰色	
	50	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.70	0.60	0.55	0.21	0.28	7.5GY7/1	明緑灰色	
	51	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.18	0.23	5GY6/1	オリブ灰色	
	52	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.60	0.55	0.55	0.20	0.22	5GY7/1	明オリブ灰色	
	53	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.55	0.55	0.60	0.22	0.19	5GY6/1	オリブ灰色	
	54	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.60	0.60	0.60	0.21	0.28	7.5GY6/1	緑灰色	
	55	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.75	0.55	0.50	0.18	0.27	5GY7/1	明オリブ灰色	
	56	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.70	0.60	0.65	0.22	0.31	5GY7/1	明オリブ灰色	
	57	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.65	0.50	0.50	0.15	0.21	5GY7/1	明オリブ灰色	
	58	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.75	0.65	0.65	0.21	0.33	5GY7/1	明オリブ灰色	
	59	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.75	0.55	0.60	0.21	0.32	7.5GY7/1	明緑灰色	
	60	33	C6	SK4	A4 4~6層	棗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.18	0.24	7.5GY7/1	明緑灰色	
	61	33	C6	SK4	A4 4~6層	棗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.15	0.26	5GY7/1	明オリブ灰色	
	62	33	C6	SK4	A4 4~6層	棗玉	滑石	0.65	0.55	0.55	0.20	0.31	5GY7/1	明オリブ灰色	
	63	33	C6	SK4	A4 4~6層	棗玉	滑石	0.65	0.60	0.55	0.20	0.25	5GY7/1	明オリブ灰色	
	64	33	C6	SK4	A4 4~6層	棗玉	滑石	0.75	0.60	0.55	0.18	0.24	5GY7/1	明オリブ灰色	
	65	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.21	0.31	5GY7/1	明オリブ灰色	
	66	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.60	0.55	0.50	0.21	0.19	5GY7/1	明オリブ灰色	
	67	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.85	0.60	0.60	0.21	0.38	5GY7/1	明オリブ灰色	
	68	33	C6	SK4	A4 1層	棗玉	滑石	0.65	0.60	0.60	0.20	0.27	7.5GY7/1	明緑灰色	
	69	33	C6	SK4	A4 2層	棗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.18	0.26	7.5GY7/1	明緑灰色	
	70	33	C6	SK4	A4 2層	棗玉	滑石	0.65	0.65	0.60	0.21	0.28	7.5Y7/2	灰白色	
	71	33	C6	SK4	A4 2層	棗玉	滑石	0.80	0.55	0.60	0.18	0.24	5GY7/1	明オリブ灰色	
	72	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.80	0.55	0.55	0.18	0.27	2.5GY7/1	明オリブ灰色	
73	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.65	0.60	0.60	0.21	0.25	5GY7/1	明オリブ灰色		
74	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.90	0.65	0.60	0.21	0.43	5GY7/1	明オリブ灰色		
75	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.18	0.21	7.5GY7/1	明緑灰色		
76	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.18	0.21	5GY7/1	明オリブ灰色		
77	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.70	0.60	0.55	0.21	0.35	5GY7/1	明オリブ灰色		
78	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.18	0.23	5GY7/1	明オリブ灰色		
79	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.55	0.55	0.60	0.21	0.18	5GY7/1	明オリブ灰色		
80	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.80	0.50	0.50	0.18	0.23	7.5GY6/1	緑灰色		
81	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.60	0.55	0.55	0.20	0.20	5GY7/1	明オリブ灰色		
82	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.20	0.21	5GY7/1	明オリブ灰色		
83	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.80	0.55	0.45	0.16	0.21	7.5GY7/1	明緑灰色		
84	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.18	0.24	7.5GY7/1	明緑灰色		
85	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.60	0.60	0.60	0.20	0.25	5GY7/1	明オリブ灰色		
86	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.55	0.55	0.55	0.21	0.19	7.5GY7/1	明緑灰色		
87	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.80	0.60	0.60	0.21	0.35	5GY7/1	明オリブ灰色		
88	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.60	0.50	0.45	0.18	0.18	7.5GY6/1	緑灰色		
89	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.18	0.23	5GY6/1	オリブ灰色		
90	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.18	0.26	5GY7/1	明オリブ灰色		
91	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.85	0.60	0.60	0.22	0.33	5GY7/1	明オリブ灰色		
92	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.80	0.60	0.70	0.22	0.44	7.5GY7/1	明緑灰色		
93	33	C6	SK4	A3 1層	棗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.20	0.33	5GY7/1	明オリブ灰色		
94	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.75	0.55	0.50	0.16	0.28	7.5GY7/1	明緑灰色		
95	33	C6	SK4	A4 3層	棗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.16	0.21	7.5GY7/1	明緑灰色		
96	33	C6	SK4	A2 3層	棗玉	滑石	0.75	0.60	0.60	0.18	0.36	10Y7/2	灰白色		

第12表 板屋谷内B・C古墳群 玉類一覧(2)

挿図 番号	遺物 番号	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm・g)					色調		備考・分析	
								長	幅	厚	孔径	重	記号	色名		
38	97	33	C6	SK4	A4	3層	甗玉	滑石	0.70	0.60	0.50	0.21	0.25	7.5GY6/1	緑灰色	
	98	33	C6	SK4	A4	3層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.16	0.25	5GY7/1	明オリブ灰色	
	99	33	C6	SK4	A2	3層	甗玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.16	0.26	5GY6/1	オリブ灰色	
	100	33	C6	SK4	A2	3層	甗玉	滑石	0.65	0.50	0.50	0.18	0.19	5GY7/1	明オリブ灰色	
	101	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.50	0.60	0.50	0.16	0.22	7.5GY6/1	緑灰色	
	102	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.21	0.28	5GY7/1	明オリブ灰色	
	103	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.18	0.23	5GY7/1	明オリブ灰色	
	104	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.90	0.60	0.60	0.18	0.38	7.5GY7/1	明緑灰色	
	105	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.21	0.30	5GY6/1	オリブ灰色	
	106	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.80	0.60	0.65	0.21	0.33	5GY7/1	明オリブ灰色	
	107	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.60	0.60	0.60	0.21	0.27	7.5GY7/1	明緑灰色	
	108	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.80	0.50	0.45	0.18	0.24	7.5Y7/2	灰白色	
	109	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.75	0.50	0.55	0.16	0.26	5GY7/1	明オリブ灰色	
	110	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.60	0.55	0.55	0.21	0.23	7.5GY7/1	明緑灰色	
	111	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.55	0.18	0.23	5GY7/1	明オリブ灰色	
	112	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.18	0.23	7.5GY7/1	明緑灰色	
	113	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.16	0.23	7.5GY7/1	明緑灰色	
	114	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.50	0.55	0.60	0.20	0.18	5GY7/1	明オリブ灰色	
	115	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.75	0.50	0.60	0.21	0.25	5GY7/1	明オリブ灰色	
	116	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.80	0.60	0.60	0.18	0.31	7.5GY7/1	明緑灰色	
	117	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.80	0.60	0.60	0.21	0.35	10Y7/2	灰白色	
	118	33	C6	SK4	B2	3層	甗玉	滑石	0.75	0.60	0.65	0.18	0.36	7.5GY6/1	緑灰色	
	119	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.55	0.18	0.22	5GY7/1	明オリブ灰色	
	120	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.55	0.50	0.50	0.16	0.16	7.5GY7/1	明緑灰色	
	121	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.80	0.55	0.60	0.21	0.33	5GY7/1	明オリブ灰色	
	122	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.45	0.18	0.21	7.5GY7/1	明緑灰色	
	123	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.18	0.22	10Y7/2	灰白色	
	124	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.60	0.20	0.31	10Y7/2	灰白色	
	125	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.16	0.21	5GY7/1	明オリブ灰色	
	126	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.55	0.21	0.23	10Y7/2	灰白色	
	127	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.80	0.55	0.50	0.18	0.26	7.5GY7/1	明緑灰色	
	128	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.80	0.60	0.65	0.21	0.41	5GY7/1	明オリブ灰色	
	129	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.55	0.18	0.22	5GY7/1	明オリブ灰色	
	130	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.75	0.55	0.50	0.18	0.24	7.5GY7/1	明緑灰色	
	131	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.16	0.21	5GY7/1	明オリブ灰色	
	132	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.80	0.60	0.55	0.21	0.28	10Y7/2	灰白色	
	133	33	C6	SK4	A3	4層	甗玉	滑石	(0.70)	(0.60)	(0.60)	0.18	0.27	10Y7/2	灰白色	1/2
	134	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	(0.80)	0.55	0.50	0.18	0.25	7.5GY7/1	明緑灰色	
	135	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.19	5GY7/1	明オリブ灰色	
	136	33	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.50	0.18	0.24	7.5GY7/1	明緑灰色	
	137	34	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.65	0.55	0.60	0.18	0.24	7.5GY6/1	緑灰色	
	138	34	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.16	0.22	7.5GY7/1	明緑灰色	
	139	34	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.80	0.45	0.50	0.18	0.23	5GY8/1	灰白色	
	140	34	C6	SK4	A4	4層	甗玉	滑石	0.60	0.45	0.50	0.16	0.17	7.5GY7/1	明緑灰色	
	141	34	C6	SK4	B2	4層	甗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.18	0.31	7.5GY6/1	緑灰色	
	142	34	C6	SK4	A4	下層	甗玉	滑石	0.65	0.50	0.55	0.16	0.20	5GY7/1	明オリブ灰色	
	143	34	C6	SK4	A4	下層	甗玉	滑石	0.65	0.55	0.60	0.20	0.26	7.5GY6/1	緑灰色	
	144	34	C6	SK4	A3	下層	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.20	0.22	7.5GY6/1	緑灰色	
	145	34	C6	SK4	A3	下層	甗玉	滑石	0.70	0.60	0.65	0.20	0.29	7.5GY7/1	明緑灰色	
	146	34	C6	SK4	A3	下層	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.60	0.21	0.27	7.5GY6/1	緑灰色	
	147	34	C6	SK4	A4	断割	甗玉	滑石	0.85	0.55	0.50	0.18	0.27	10Y7/2	灰白色	
	148	34	C6	SK4	A4	1層	甗玉	滑石	0.50	0.50	0.50	0.21	0.15	7.5GY6/1	緑灰色	
	149	34	C6	SK4	A4	1層	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.20	0.22	5GY7/1	明オリブ灰色	
	150	34	C6	SK4	A4	1層	甗玉	滑石	0.60	0.55	0.50	0.16	0.18	7.5GY7/1	明緑灰色	
	151	34	C6	SK4	A4	1層	甗玉	滑石	0.80	0.55	0.55	0.18	0.26	7.5GY6/1	緑灰色	
	152	34	C6	SK4	北区		甗玉	滑石	0.60	0.50	0.50	0.18	0.18	7.5GY7/1	明緑灰色	
	153	34	C6	SK4	A4	サブトレ	甗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.18	0.20	5GY7/1	明オリブ灰色	
	154	34	C6	SK4	A4	サブトレ	甗玉	滑石	0.65	0.50	0.50	0.16	0.20	5GY7/1	明オリブ灰色	
	155	34	C6	SK4	A4	3層	甗玉	滑石	0.80	0.50	0.55	0.16	0.22	5GY7/1	明オリブ灰色	
	156	34	C6	SK4	A4	3層	甗玉	滑石	0.80	0.50	0.60	0.18	0.25	10Y7/2	灰白色	
39	157	34	C6	SK4			甗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.18	0.32	5GY7/1	明オリブ灰色	
	158	34	C6	SK4	B2		甗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.20	0.27	7.5GY6/1	緑灰色	
	159	34	C6	SK4	B2		甗玉	滑石	0.78	0.60	0.60	0.18	0.28	10Y7/2	灰白色	
	160	34	C6	SK4	B2		甗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.16	0.30	7.5GY6/1	緑灰色	

第12表 板屋谷内B・C古墳群 玉類一覧(3)

挿図 番号	遺物 番号	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm・g)					色調		備考・分析
								長	幅	厚	孔径	重	記号	色名	
39	161	34	C6	SK4	B2	粟玉	滑石	0.80	0.65	0.60	0.18	0.44	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	162	34	C6	SK4	B1 1層	粟玉	滑石	0.80	0.55	0.55	0.16	0.34	10Y7/2	灰白色	
	163	34	C6	SK4	A4	粟玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.22	7.5GY7/1	明緑灰色	
	164	34	C6	SK4	掘形北 サブトレ	粟玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.18	0.22	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	165	34	C6	SK4	掘形北 サブトレ	粟玉	滑石	0.50	0.50	0.50	0.21	0.15	10Y7/2	灰白色	
	166	34	C6		X46Y53 12T	粟玉	滑石	0.90	0.60	0.60	0.21	0.44	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	167	34	C6		X46Y53 12T	粟玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.20	0.27	7.5GY6/1	緑灰色	
	168	34	C6		X46Y53 12T	粟玉	滑石	0.50	(0.50)	(0.30)	(0.20)	0.08	7.5GY7/1	明緑灰色	1/2
	169	34	C6		南区	粟玉	滑石	0.55	0.60	0.60	0.21	0.24	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	170	34	C6		南北トレンチ南3層	粟玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.18	0.26	7.5GY6/1	緑灰色	
	171	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	0.65	0.50	0.50	0.18	0.20	7.5GY6/1	緑灰色	
	172	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	0.55	0.55	0.55	0.21	0.19	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	173	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	(0.60)	0.50	0.50	0.20	0.17	5GY7/1	明オリーブ灰色	1/2
	174	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	0.60	0.50	0.50	0.16	0.17	7.5GY6/1	緑灰色	
	175	34	C6	SK4	A4 サブトレ	粟玉	滑石	0.70	0.45	0.50	0.18	0.20	7.5GY6/1	緑灰色	
	176	34	C6	SK4	A4 サブトレ	粟玉	滑石	0.70	0.50	0.55	0.20	0.23	7.5GY7/1	明緑灰色	
	177	34	C6	SK4	A4 サブトレ	粟玉	滑石	0.60	0.60	0.60	0.18	0.28	7.5GY6/1	緑灰色	
	178	34	C6	SK4	A4 サブトレ	粟玉	滑石	0.60	0.50	0.50	0.21	0.19	7.5GY6/1	緑灰色	
	179	34	C6	SK4	A4 サブトレ	粟玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.16	0.23	7.5GY6/1	緑灰色	
	180	34	C6	SK4	A4 サブトレ	粟玉	滑石	0.60	0.50	0.50	0.18	0.19	7.5GY7/1	明緑灰色	
	181	34	C6	SK4	A4 サブトレ	粟玉	滑石	0.80	0.50	0.50	0.18	0.24	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	182	34	C6		12T サブトレ	粟玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.20	7.5GY6/1	緑灰色	
	183	34	C6	SK4	掘形北 サブトレ	粟玉	滑石	0.70	(0.55)	(0.30)	(0.20)	0.18	5GY7/1	明オリーブ灰色	1/2
	184	34	C6	SK4	掘形北 サブトレ	粟玉	滑石	0.65	0.50	0.50	0.16	0.18	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	185	34	C6	SK4	掘形北 サブトレ	粟玉	滑石	0.60	0.55	0.60	0.18	0.22	7.5GY7/1	明緑灰色	
	186	34	C6	SK4	掘形北 サブトレ	粟玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.18	0.31	7.5GY7/1	明緑灰色	
	187	34	C6	SK4	掘形北 サブトレ	粟玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.18	0.24	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	188	34	C6	SK4	B3 3層	粟玉	滑石	0.45	0.65	0.65	0.16	0.24	7.5GY6/1	緑灰色	
	189	34	C6		南区	粟玉	滑石	0.80	0.65	0.65	0.20	0.39	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	190	34	C6		南区	粟玉	滑石	0.75	0.55	0.60	0.21	0.30	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	191	34	C6	SK4	A4 3層	粟玉	滑石	0.60	0.60	0.55	0.21	0.23	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	192	34	C6	SK4	A3 4層	粟玉	滑石	(0.40)	(0.50)	(0.40)	(0.21)	0.06	5GY7/1	明オリーブ灰色	1/4
	193	34	C6		X45Y53 1層	粟玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.20	0.30	7.5GY7/1	明緑灰色	
	194	34	C6		12T 埋葬施設付近	粟玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.22	7.5GY6/1	緑灰色	
	195	34	C6		12T 埋葬施設付近	粟玉	滑石	0.60	0.45	0.45	0.16	0.15	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	196	34	C6		12T	粟玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.18	0.29	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	197	34	C6		12T	粟玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.16	0.21	7.5GY7/1	明緑灰色	
	198	34	C6		12T	粟玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.16	0.21	7.5GY7/1	明緑灰色	
	199	34	C6		12T	粟玉	滑石	0.75	0.55	0.50	0.16	0.25	7.5GY7/1	明緑灰色	
	200	34	C6		12T	粟玉	滑石	0.80	0.50	0.50	0.18	0.23	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	201	34	C6		12T	粟玉	滑石	(0.70)	(0.50)	(0.25)	(0.20)	0.08	5GY7/1	明オリーブ灰色	1/2
	202	34	C6		中央断面 東区 2層	粟玉	滑石	0.50	0.65	0.60	0.15	0.29	7.5GY6/1	緑灰色	
203	34	C6		南区	粟玉	滑石	0.65	0.50	0.50	0.16	0.19	5GY7/1	明オリーブ灰色		
204	34	C6		12T	粟玉	滑石	0.70	0.55	0.60	0.20	0.30	7.5GY7/1	明緑灰色		
205	34	C6		12T	粟玉	滑石	0.70	0.55	0.60	0.18	0.28	10Y7/2	灰白色		
206	34	C6		X47Y52 12T	粟玉	滑石	(0.80)	0.55	0.50	0.16	0.23	10Y7/2	灰白色		
207	34	C6		X47Y52 12T	粟玉	滑石	0.90	0.55	0.55	0.16	0.30	10Y7/2	灰白色		
208	34	C6		12T 埋葬施設付近	粟玉	滑石	0.65	0.55	0.55	0.18	0.24	7.5GY7/1	明緑灰色		
209	34	C6		12T 埋葬施設付近	粟玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.16	0.25	7.5GY7/1	明緑灰色		
210	34	C6		12T 埋葬施設付近	粟玉	滑石	0.70	0.60	0.55	0.18	0.29	7.5GY7/1	明緑灰色		
211	34	C6		12T 埋葬施設付近	粟玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.16	0.26	7.5GY7/1	明緑灰色		
212	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	(0.60)	(0.45)	(0.20)	(0.16)	0.13	5GY8/1	灰白色	破片	
213	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.18	0.26	10Y7/2	灰白色		
214	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.20	0.28	5GY7/1	明オリーブ灰色		
215	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	0.80	0.55	0.60	0.21	0.31	5GY7/1	明オリーブ灰色		
216	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.16	0.18	7.5GY7/1	明緑灰色		
40	217	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	0.65	0.55	0.50	0.18	0.19	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	218	34	C6	SK4	A4 4層	粟玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.16	0.19	5GY8/1	灰白色	
	219	34	C6		X46Y53 12T	粟玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.18	0.24	7.5GY6/1	緑灰色	
	220	34	C6		X46Y53 12T	粟玉	滑石	(0.50)	(0.50)	(0.30)	(0.20)	0.08	7.5GY7/1	明緑灰色	1/2
	221	34	C6	SK4	A4 1層	粟玉	滑石	0.60	0.55	0.55	0.18	0.17	10Y7/2	灰白色	1/2
	222	34	C6		12T-2付近	粟玉	滑石	0.60	0.55	0.55	0.20	0.24	7.5GY6/1	緑灰色	
	223	34	C6		12T-2付近	粟玉	滑石	0.80	0.65	0.60	0.20	0.35	7.5GY7/1	明緑灰色	
	224	34	C6		12T-2?	粟玉	滑石	0.50	0.60	0.60	0.18	0.22	7.5GY6/1	緑灰色	

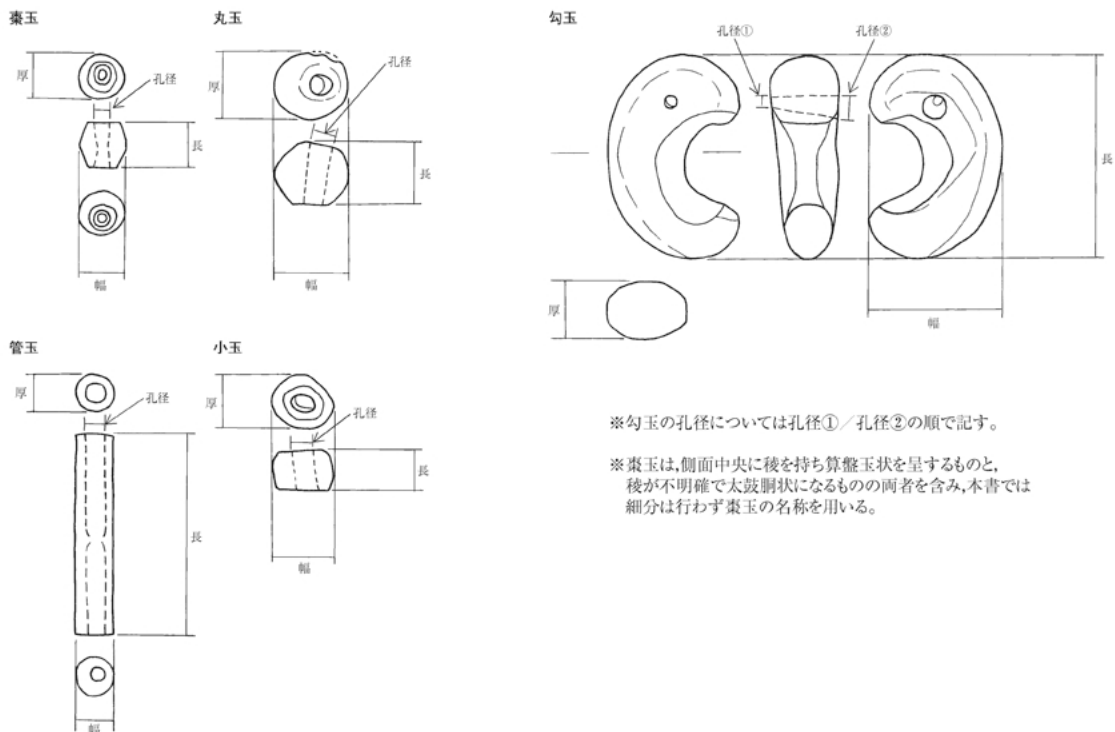
第12表 板屋谷内B・C古墳群 玉類一覧(4)

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm・g)					色調		備考・分析	
								長	幅	厚	孔径	重	記号	色名		
40	225	34	C6	SK4		甗玉	滑石	0.80	0.55	0.55	0.18	0.29	7.5GY7/1	明緑灰色		
	226	34	C6		X46Y53 12T	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.15	0.22	7.5GY6/1	緑灰色		
	227	34	C6		X46Y53 12T	甗玉	滑石	0.80	0.55	0.50	0.18	0.27	5GY7/1	明オリーブ灰色		
	228	34	C6		X46Y53 12T	甗玉	滑石	0.50	0.55	0.55	0.20	0.20	7.5GY6/1	緑灰色		
	229	34	C6		X46Y53 12T	甗玉	滑石	0.85	0.55	0.50	0.18	0.24	5GY7/1	明オリーブ灰色		
	230	34	C6		X46Y53 12T	甗玉	滑石	0.80	0.60	0.60	0.20	0.32	5GY7/1	明オリーブ灰色		
	231	34	C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.20	0.33	7.5GY7/1	明緑灰色		
	232	34	C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.65	0.55	0.55	0.18	0.25	7.5GY7/1	明緑灰色		
	233	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.75	0.45	(0.30)	(0.20)	0.14	5GY7/1	明オリーブ灰色	1/2	
	234	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	(0.65)	0.50	0.50	0.18	0.13	5GY7/1	明オリーブ灰色	1/2	
	235	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	(0.80)	(0.50)	(0.30)	(0.20)	0.13	10Y7/2	灰白色	1/2	
	236	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.16	0.21	7.5GY7/1	明緑灰色		
	237	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.23	7.5GY6/1	緑灰色		
	238	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.70	0.60	0.55	0.21	0.27	7.5GY6/1	緑灰色		
	239	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.60	0.50	0.50	0.18	0.17	7.5GY6/1	緑灰色		
	240	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.23	7.5GY6/1	緑灰色		
	241	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.80	0.50	0.50	0.18	0.21	7.5GY7/1	明緑灰色		
	242	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.80	0.60	0.60	0.20	0.35	5GY7/1	明オリーブ灰色		
	243	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.80	0.60	0.55	0.20	0.29	5GY7/1	明オリーブ灰色		
	244	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.16	0.24	7.5GY7/1	明緑灰色		
	245	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.80	0.60	0.60	0.21	0.38	7.5GY7/1	明緑灰色		
	246	34	C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.95	0.65	0.60	0.21	0.48	5GY7/1	明オリーブ灰色		
	247		C6		X46Y53 12T	甗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.18	0.23	5GY7/1	明オリーブ灰色		
	248		C6		X46Y53 12T	甗玉	滑石	0.65	0.60	0.55	0.20	0.26	7.5GY7/1	明緑灰色		
	249		C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.70	0.55	0.55	0.21	0.27	7.5GY6/1	緑灰色		
	250		C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.75	0.50	0.55	0.18	0.23	7.5GY7/1	明緑灰色		
	251		C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.65	0.65	0.65	0.20	0.33	7.5GY7/1	明緑灰色		
	252		C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.80	0.55	0.50	0.18	0.27	7.5GY6/1	緑灰色		
	253		C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.23	7.5GY7/1	明緑灰色		
	254		C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.60	0.60	0.60	0.20	0.29	7.5GY6/1	緑灰色		
	255		C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.75	0.55	0.55	0.18	0.26	7.5GY7/1	明緑灰色		
	256		C6		X47Y52 12T	甗玉	滑石	0.75	0.50	0.50	0.16	0.23	7.5GY7/1	明緑灰色		
	257		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.75	0.55	0.50	0.16	0.26	7.5GY7/1	明緑灰色		
	258		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.90	0.65	0.70	0.18	0.40	5GY7/1	明オリーブ灰色		
	259		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.65	0.55	0.55	0.21	0.25	7.5GY7/1	明緑灰色		
	260		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.75	0.65	0.60	0.20	0.34	5GY7/1	明オリーブ灰色		
	261		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.60	0.55	0.55	0.21	0.22	7.5GY7/1	明緑灰色		
	262		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.70	0.60	0.60	0.20	0.29	10Y7/2	灰白色		
	263		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.60	0.55	0.55	0.21	0.23	7.5GY7/1	明緑灰色		
	264		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.60	0.55	0.55	0.20	0.22	7.5GY6/1	緑灰色		
265		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.60	0.50	0.50	0.16	0.19	5GY7/1	明オリーブ灰色			
266		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.80	0.55	0.55	0.16	0.28	7.5GY6/1	緑灰色			
267		C6		X46Y52 12T	甗玉	滑石	0.75	0.60	0.60	0.21	0.33	7.5GY6/1	緑灰色			
268		C6		墳頂区 1層		甗玉	滑石	0.70	0.50	0.50	0.18	0.22	7.5GY7/1	明緑灰色		
269		C6		12T		甗玉	滑石	0.85	0.50	0.55	0.16	0.25	5GY7/1	明オリーブ灰色		
270		C6		12T		甗玉	滑石	0.75	0.60	0.50	0.20	0.33	5GY7/1	明オリーブ灰色		
41	271	35	C6	SK4	A3 4~6層	管玉	緑色凝灰岩	3.20	0.55	0.55	0.18	1.75	7.5GY6/1	緑灰色		
	272	35	C6	SK4	A2 1層	管玉	緑色凝灰岩	2.10	0.55	0.50	0.15	1.02	7.5GY6/1	緑灰色		
	273	35	C6	SK4	A4 1層	管玉	緑色凝灰岩	2.00	0.50	0.50	0.18	0.93	5GY6/1	オリーブ灰色		
	274	35	C6	SK4	A4 1層	管玉	緑色凝灰岩	2.45	0.50	0.45	0.18	1.09	7.5GY6/1	緑灰色		
	275	35	C6	SK4	A4 1層	管玉	緑色凝灰岩	2.15	0.50	0.50	0.18	1.08	7.5GY6/1	緑灰色		
	276	35	C6	SK4	A4 1層	管玉	緑色凝灰岩	1.65	0.50	0.45	0.18	0.76	7.5GY6/1	緑灰色		
	277	35	C6	SK4	A4 1層	管玉	緑色凝灰岩	2.35	0.50	0.50	0.15	1.28	7.5GY6/1	緑灰色		
	278	35	C6	SK4	A4 4~6層	管玉	緑色凝灰岩	2.25	0.50	0.50	0.21	1.17	7.5GY3/1	暗緑灰色		
	279	35	C6	SK4	B2 3層	管玉	緑色凝灰岩	(1.05)	(0.55)	(0.50)	0.18	0.20	5GY7/1	明オリーブ灰色	1/2	
	280	35	C6	SK4	A4 4層	管玉	緑色凝灰岩	1.90	0.55	0.55	0.16	0.91	7.5GY6/1	緑灰色		
	281	35	C6	SK4	A4 4層	管玉	緑色凝灰岩	2.80	0.50	0.50	0.15	1.49	7.5GY6/1	緑灰色		
	282	35	C6	SK4	A4 4層	管玉	緑色凝灰岩	2.90	0.50	0.50	0.20	1.33	5GY6/1	オリーブ灰色		
	283	35	C6	SK4	A4 4層	管玉	緑色凝灰岩	2.70	0.45	0.50	0.21	1.19	7.5GY6/1	緑灰色		
	284	35	C6	SK4	A4 4層	管玉	緑色凝灰岩	(1.05)	0.55	0.55	0.21	0.53	7.5GY6/1	緑灰色	277と同一個体	
	285	35	C6		12T-2?		管玉	緑色凝灰岩	2.20	0.50	0.50	0.14	1.12	7.5GY6/1	緑灰色	
	286	35	C6	SK4	A4 北サブトレ		管玉	緑色凝灰岩	1.90	0.50	0.45	0.15	0.78	7.5GY6/1	緑灰色	
	287	35	C6		中央断面 東区 2層		管玉	緑色凝灰岩	2.20	0.45	0.45	0.20	0.92	5GY6/1	オリーブ灰色	
	288	35	C6		中央断面 東区 2層		管玉	緑色凝灰岩	(1.10)	0.40	0.45	0.15	0.19	5GY7/1	明オリーブ灰色	破片

第12表 板屋谷内B・C古墳群 玉類一覧(5)

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm・g)					色調		備考・分析
								長	幅	厚	孔径	重	記号	色名	
41	289	35	C6		南区	管玉	滑石系	1.10	0.80	0.50	0.18	0.23	5GY7/1	明オリーブ灰色	
	290	35	C6		南区	管玉	緑色凝灰岩	(0.85)	(0.35)	(0.25)	(0.20)	0.10	5GY7/1	明オリーブ灰色	破片
	291	35	C6	SK4	A2 サブトレ	管玉	緑色凝灰岩	(0.85)	0.50	(0.45)	0.15	0.15	5GY7/1	明オリーブ灰色	破片
	292	35	C6	SK4	B1 1層	管玉	緑色凝灰岩	(1.10)	0.50	(0.40)	(0.20)	0.15	5GY7/1	明オリーブ灰色	破片
	293	35	C6		12T	管玉	緑色凝灰岩	2.30	0.50	0.55	0.20	1.15	7.5GY6/1	緑灰色	
	294	35	C6		X46Y53 12T	管玉	緑色凝灰岩	2.65	0.50	0.50	0.18	1.09	7.5GY6/1	緑灰色	
	295	35	C6		X47Y52 12T	管玉	緑色凝灰岩	1.85	0.50	0.50	0.15	0.88	5GY6/1	オリーブ灰色	
	296	35	C6		X47Y52 12T	管玉	緑色凝灰岩	1.80	0.50	0.50	0.18	0.78	7.5GY6/1	緑灰色	
	297		C6		X47Y52 12T	管玉	緑色凝灰岩	2.45	0.60	0.60	0.22/0.16	1.34	7.5GY6/1	緑灰色	287と同じ個体
42	298	35	C6		X47Y52 12T	勾玉	滑石系	2.15	1.40	0.75	0.18/0.28	3.10	7.5Y8/2	灰白色	
	299	35	C6		X46Y53 12T	勾玉	翡翠	2.70	1.75	0.80	0.15/0.31	6.50	5GY8/1	灰白色	
	300	35	C6		X47Y52 12T	勾玉	瑪瑙	2.85	1.70	0.80	0.20/0.30	4.64	7.5YR6/8	橙色	
	301	35	C6	SK4	A3 3層	丸玉	琥珀	0.85	1.00	0.85	0.28	0.42			科学分析
			C6	SK4	A3 4層	丸玉	琥珀					(0.12)			破片,科学分析
	302	35	C6	SK4	A2 3層	管玉	ガラス	(1.85)	0.70	0.60	0.16	(1.29)	3PB3.5/10/0	コバルトブルー	破片,成分分析
	303	36	C6	SK4	A2 3層	小玉	ガラス	0.50	0.70	0.60	0.24	0.38	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	304	36	C6	SK4	A3 4層	小玉	ガラス	0.70	0.70	0.70	0.26	0.41	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	305	36	C6	SK4	A3	小玉	ガラス	0.55	0.80	0.70	0.25	0.40	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	306	36	C6		12T-2	小玉	ガラス	0.50	0.75	0.60	0.18	0.25	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	307	36	C6		12T	小玉	ガラス	0.70	0.65	0.70	0.20	0.44	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	308	36	C6		12T	小玉	ガラス	0.60	0.75	0.65	0.16	0.41	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	309	36	C6		12T	小玉	ガラス	0.65	0.60	0.55	0.21	0.38	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	310	36	C6		12T	小玉	ガラス	0.45	0.80	0.70	0.21	0.35	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	311	36	C6		X46Y53 12T	小玉	ガラス	(0.45)	(0.60)	(0.30)		(0.09)	3PB20/5.0	濃藍色	破片,成分分析
	312	36	C6	SK4	A2 1層	小玉	ガラス	(0.40)	(0.45)	(0.25)		(0.04)	5B5.5/8.5	ターコイズブルー	破片,成分分析
	313	36	C6	SK4	A2 3層	小玉	ガラス	0.40	(0.35)	(0.30)		(0.07)	5B5.5/8.5	ターコイズブルー	1/2,成分分析
	314	36	C6		X46Y52 12T	小玉	ガラス	0.40	0.65	0.60	0.18	0.26	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	315	36	C6		X46Y52 12T	小玉	ガラス	0.55	0.70	0.60	0.21	0.30	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
	316		C6		X46Y53 12T	小玉	ガラス	0.55	0.80	0.70	0.25	0.46	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析
317		C6		12T	小玉	ガラス	0.50	0.65	0.65	0.15	0.28	3PB20/5.0	濃藍色	成分分析	

※法量の()付数値は残存部を計測したものを示す。残存部が小さく計測不可能な場合は空欄とした。



※勾玉の孔径については孔径①/孔径②の順で記す。

※素玉は、側面中央に稜を持ち算盤玉状を呈するものと、稜が不明確で太鼓胴状になるものの両者を含み、本書では細分は行わず素玉の名称を用いる。

玉類の名称及び計測の位置

第Ⅳ章 堂前遺跡

1 遺跡の概要

(1) 概要

堂前遺跡は、西山丘陵内の東西方向に発達した解析谷の谷間に立地する。調査区の南東が山側で、北西には小河川が流れている。現況は山側の高い部分を削平して低い部分に約2mの盛土を行い、小規模な段々畑が形成されている。また、山側には斜面を削って敷設した林道が通っており、この林道が遺跡の南限である。表土・盛土及び包含層を剥ぐと、遺構面は北側の河川に向かって傾斜しており、古代遺構面の標高は山側で57.0m、谷側で54.8mを測る。

A 縄文時代

遺構はⅢb層・Ⅳa層上で自然流路2条を確認した。自然流路内と肩付近から後期前葉の気屋Ⅰb式併行期の土器が出土しているが、住居等は検出されなかった。周辺でも同時代の遺跡は未確認であり、土器の出土量も多くはないため、集落は離れた場所にあると考えられる。これらの遺構を検出した遺構面より下位の包含層からも、中期中葉の古府式併行期の土器、中期後葉～後期初頭の串田新Ⅱ式～前田式併行期の土器等が出土したが、これらに伴う遺構は検出されなかった。また、中期中葉から後期初頭にかけての土器の新旧関係は土層の上下関係に関わらず混在した状況で、これは山の斜面が崩落して二次堆積した結果と考えられる。

B 古代

遺構はⅢa層上面で掘立柱建物1棟と土坑6基を検出した。遺構確認面は緩やかな谷斜面であるが、建物周辺は比較的平坦に近くなっており、斜面を削って整地を行ったとみられる。掘立柱建物は四面庇付きの大型建物で、柱穴は深いもので約70cmと深く、高床式の建物と考えられる。建物周辺の古代包含層から7世紀第4四半期の須恵器の他、赤彩の黒色土器高杯、袋状鉄斧、刀子が出土しており、須恵器の年代が建物の帰属年代を示す可能性が高い。建物の構造、立地条件、出土遺物から、特殊な性格の建物と推測される。

(2) 土層(第54図)

基本層序は、Ⅰ層：表土(耕作土・盛土)、Ⅱa層：2.5Y3/2黒褐色シルト質ローム(中世包含層)、Ⅱb層：2.5Y2/1黒色粘土質ローム(古代包含層)、Ⅲa層：10YR3/3暗褐色シルト質ローム(古代遺構面・縄文包含層)、Ⅲb層：10YR4/4褐色砂質ローム(縄文時代後期前葉遺構面・縄文包含層)、Ⅳa層：10YR4/4褐色砂質ローム(縄文時代後期前葉遺構面・縄文包含層)、Ⅳb層：10YR5/4にぶい黄褐色砂質ローム・2.5Y6/3にぶい黄色砂他(縄文包含層・河川堆積層)、Ⅴa層：10YR4/4褐色ローム(縄文包含層)、Ⅴb層：10YR5/4にぶい黄褐色砂質ローム(縄文包含層)、Ⅵ層：10YR6/6明黄褐色砂質ローム・5Y6/3オリーブ黄色砂、Ⅶ層：2.5Y6/4にぶい黄色砂礫である。

遺構面は古代(7世紀後期)・縄文時代後期前葉の上下2面を確認した。Ⅱa層から珠洲が数点出土したが、中世の遺構は検出されなかった。調査区西半はⅢ層がほとんど削平されていたが、東半ではⅢa層上で古代の遺構、Ⅲb層またはⅣa層の上面で縄文時代の遺構を確認した。北東端ではⅣ層から土器が出土したため、Y15以東の範囲をⅥ・Ⅶ層まで掘り下げた。その結果、Ⅳa層～Ⅴb層から縄文時代中期中葉～後期初頭の土器が出土したが、当該期の遺構は検出されなかった。



第54図 堂前遺跡 基本層序

2 遺構と遺物

(1) 縄文時代

A 遺構

主な遺構はⅢb層・Ⅳa層上で検出した自然流路2条である。他に小規模な土坑が2基あるが、単層で遺物はなく、人為的なものか不明である。調査区北東端ではⅣ～Ⅴ層から土器が集中して出土し、土の違いから当初土坑かと考えたが、内部の礫はⅦ層の礫層の一部と判明し、包含層の一部と考えるに至った。

101号自然流路 (S D 101, 第56図)

遺構面の傾斜に従って北から南へ流れる自然流路で、最大幅68cm、深さ34cmである。埋土はにぶい黄褐色ロームの単層である。遺物は流路内から縄文土器の小片が数点出土している。

102号自然流路 (S D 102, 第56図, 図版50・51)

遺構面の傾斜に従って北から南へ流れる自然流路で、最大幅88cm、深さ38cmである。埋土はにぶい黄褐色ローム・褐色砂質ロームを基調とし、一部ににぶい黄褐色砂等が混じる。遺物は流路内部や肩部から後期前葉の縄文土器が多く出土しており、該期の遺構と推定される。(越前慎子)

B 遺物

出土した縄文土器は、中期中葉～後期前葉の時期のものである。土器の主要な時期は、中期中葉(古府式併行期)、中期後葉～後期初頭(串田新Ⅱ～前田式併行期)、後期前葉(気屋Ⅰb式併行期)の3時期である。これらの土器は、気屋Ⅰb式のものが自然流路から、その他のものは下層の斜面に棄てられたように見つかった。つまり、中期中葉～後期初頭までは斜面に土器片が見られる土器捨て場、その後地滑りなどでこれらが埋まり、後期前葉になるとその上に南から北に流れる小川程度の自然流路ができたようである。これらの土器を残した人々の住居等集落は、非常に少ない土器と遺構と周辺に同時代の遺跡がないことから、当該地域から離れているものと見られる。よって縄文時代の堂前遺跡は、集落ではなく、山間の谷地で狩猟や採集に訪れた人々の痕跡を示すものと言えよう。

a 中期中葉 (第58・59図, 図版52・53)

1は舟形鉢。欠損しているが台付きのものと見られる。文様は口縁部に半隆起線による渦巻文を施し、ヘラ状工具で刻む。渦巻文の空白部には櫛歯状工具で刺突を充填する。渦巻文の下には半隆起線4条を波状に施す。用途は、口縁部外面と体部下半内面にススが付着していたため、煮炊きを行っていたものと見られる。2は深鉢の口縁～体部上半。文様は1と同類であるが、刻みの工具を半隆起線と同様な半截竹管とし、空白部の充填刺突をヘラ状工具とする。3は3条、4は4条以上の半隆起線を口縁部に施す破片。5は斜縄文を施す台付鉢で、内外面共にススが付着し、特に体部下半～底部内面には炭化物が付着する。6はくの字状の口縁を持つ鉢。文様は頸部に幅広で低平な2条の半隆起線、体部に撚りのあまい斜縄文を施すが、非常に粗雑な作り。7は深鉢だが、6と同様な文様。

時期は、1～5が半隆起線で渦巻文や波状文を施す古府式^{註1}、6・7は半隆起線の衰退していく形で古府式と次の串田新式との間の古串田新式^{註2}に相当しようか。

b 中期後葉～後期初頭 (第60～63図, 図版53～57)

8～11は貝殻腹縁文を施すもので、8・10・11は隆帯上、8・9は沈線間を刻む。12～17は葉脈状文系。12・13・16は縦位に隆帯を貼り付け、その左右に櫛歯状工具で綾杉状とする。14は横位の隆帯に上下から刺突、隆帯で連弧・縦方向の貼り付け、櫛歯状工具で斜方向の条線を施す。15は口縁部下

に横位に隆帯（突線状）を貼り、上から連続刺突し、体部を沈線で葉脈状とする。破損後に炭化物が付着している。16の底面には網代痕が残り、2本越え2本潜り1本送りで見られる^{注3}。17は縦方向の隆帯を2本貼り、その間を上方から刺突、その外を貝殻腹縁で葉脈状文とする。18は口縁部に2条の隆帯を貼り付けるもの。19～25はナデ調整の無文のもの。19・21・22は深鉢。19は外面に吹きこぼれ状のススが付着し、2孔の補修孔が見える。22は口縁部にユビナデ凹線を2条施す。20は輪積み痕の残る浅鉢。富山市東黒牧上野遺跡^{注4}に類例がある。23・24は鉢。23は口縁部下に隆帯を持つ。24は口縁端部をユビオサエにより小波状とし、体部には補修孔がある。25は台付鉢で、台部を欠損する。26～28は双頭波頂波状口縁部で、隆帯を貼り付けるもの。29は縄文のみのもので、口縁端部を面取りする。30～36は底部。調整は30・34が無節縄文、31～33が斜縄文、35・36がナデ。30・31・33・35・36は底面に網代痕が残り、33・36が2本越え2本潜り1本送りで、その他はスダレ状圧痕^{注5}。37～44は沈線文・列点文を施すもの。37は口縁部に棒状工具で平行沈線を2条施し、口縁端部をユビオサエする。38は波状口縁の突起部で、内外面に隆帯を貼り付け、棒状工具で刺突する。39・40はU字状の沈線文を施すもので、同一個体と見られ、外面に赤彩痕が残る。41は双頭波頂波状口縁部で、平行沈線間に列点、その下に連弧文^{注6}を施す。42～44は矢羽状の沈線文を施す。42は双頭波頂波状口縁部で、隆帯を貼り付け、貝殻腹縁で刻む。

45～47は縦方向の条線を施すもの。45は底部で、条線の後にナデ。底面にはスダレ状圧痕が残る。46は平行沈線間に列点を施す。48～50は縦方向の縄文に平行沈線を施すもの。48・49は口縁部に指頭による沈線を1条、50は2条施す。51～55は薄い器面で平行沈線間に列点を施す、いわゆる前田式^{注6}と言われるもの。51は強い列点のため、内面が起伏状となる。52・53は体部に縦方向に条線を施す。54は頸部に2条の平行沈線、体部に縦方向の縄文を施す。55は54の底部と見られる。56・57は無文の鉢。58～60は縄文のみを施すもの。58は口縁部で、端部に内外面から刻む。59は内外面にススが付着。60は口縁端部を面取りする。

時期は8～44が串田新Ⅱ式^{注7}、45～55が前田式に相当しようか。なお、串田新Ⅱ式と気屋式との間に、富山県では突線文を施す岩畷野式^{注8}、石川県では列点・沈線文を施す前田式という型式が用いられている^{注9}。ここでは岩畷野式に見られるような顕著な突線文がないことや、富山県でも石川県に近い西部にあることから前田式としたい。

c 後期前葉（第64・65図、図版57・58）

61～66は三角刺突文を施すもの。61・62は口縁部に末端刺突を持つ沈線を施す。64は口縁部の沈線内に三角刺突文、頸部に三角刺突文をそれぞれ2条施す。65・66は頸部に三角刺突文を施す。67～72は口縁部に円形の刺突文を施すもの。67は口縁部に2個1単位のユビオサエによる円形刺突を施し、突起部とする。68は沈線間に短沈線を縦位に施す。69は口縁部に円形刺突と末端刺突を持つ沈線を施す。70は口縁部に円形刺突と斜位に三角刺突文を施す。72は口縁部に棒状工具で斜位の刺突を入れ、頸部に竹管による刺突を連続して施す。73～77は口縁端部を刻むもの。73はヘラ状工具で矢羽状に、74～76は棒状工具で斜位に、77はヘラ状工具で縦位に刻む。78～82は頸部に沈線文を施すもの。78は口縁部を斜縄文、頸部を平行沈線2条、体部を縦方向の縄文を施す。79は口縁部に隆帯を貼り付け、斜縄文を施す。82は頸部に長方形区画の沈線文を施す。83は頸部に指頭による列点を施すもの。84・85は縄文のみを施すもので、口縁部に斜位、体部に縦位の縄文を施す。86～88は縦位に縄文を施す底部。88は底面に網代痕が残るが摩滅している。61～88の時期は気屋Ⅰb式^{注10}に相当しよう。

（町田賢一）

注

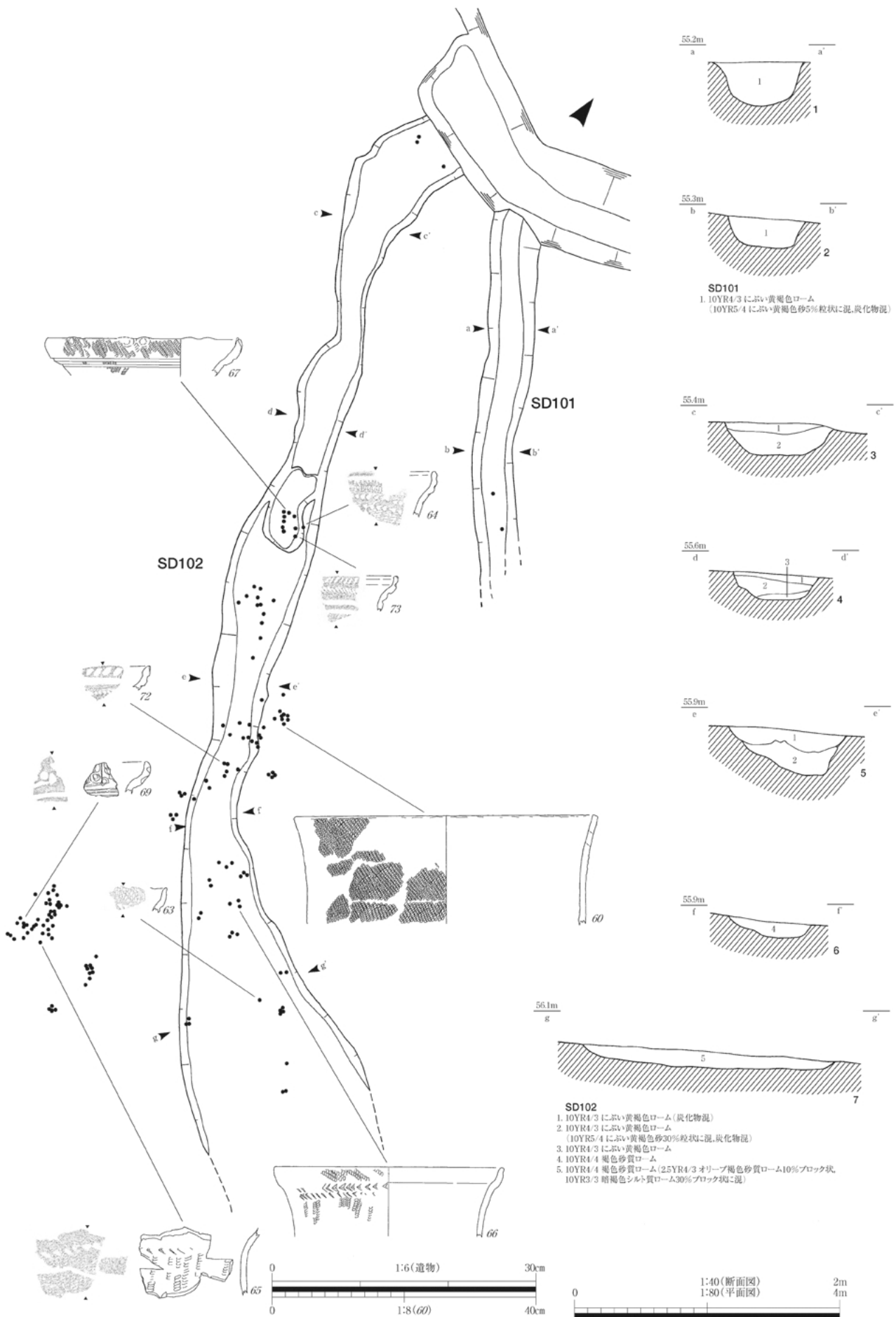
- 注1 南 久和 1974「遺物 土器」『金沢市古府遺跡』金沢市教育委員会
- 注2 小島俊彰 1972「縄文中期」『富山県史 考古編』富山県
- 注3 渡辺 誠 1975「縄文土器」『京都府舞鶴市桑飼下遺跡発掘調査報告書』舞鶴市教育委員会
- 注4 狩野 睦・神保孝造 1995『東黒牧上野遺跡A地区』富山県大山町教育委員会
- 注5 渡辺 誠 1976「スダレ状圧痕の研究」『物質文化26』物質文化研究会
- 注6 斎藤道保 1964「一剣前田遺跡」『富山県氷見地方考古学遺跡と遺物－氷高歴史クラブ報告書No11－』富山県立氷見高等学校歴史クラブ
- 注7 小島俊彰 1964『高岡公園小竹藪縄文遺跡』高岡市教育委員会
- 注8 柳井 睦 1976『富山県立山町岩峠野遺跡緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
- 注9 加藤三千雄 1986「串田新式・宇出津式期」「前田式期」『石川県能都町真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団
- 注10 米沢義光 1989「気屋式土器様式」『縄文土器大観 第4巻 後期 晩期 続縄文』小学館

参考文献

- 加藤三千雄 1999「北陸地方 後期」『縄文時代10 縄文時代文化研究の100年 第2分冊 土器形式編年研究(2)』
縄文時代文化研究会
- 小島俊彰 1999「北陸地方 中期」『縄文時代10 縄文時代文化研究の100年 第2分冊 土器形式編年研究(2)』
縄文時代文化研究会
- 布尾和史 2004「北陸縄文中期土器編年の概要－遺構出土資料を中心に－」『シンポジウム縄文集落研究の新地平3
－勝坂から曾利へ－ 発表要旨』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 南 久和 1985「北陸の縄文時代中期の編年について」『北陸の縄文時代中期の編年他9編－南久和著作集第1集－』転形書房
- 南 久和 1986「古府式期」『石川県能都町真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団
- 南 久和 2001『編年－その方法と実際－』南書会
- 米沢義光 1986「気屋式期」『石川県能都町真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団



第55図 堂前遺跡 縄文時代面全体図 (1/300)

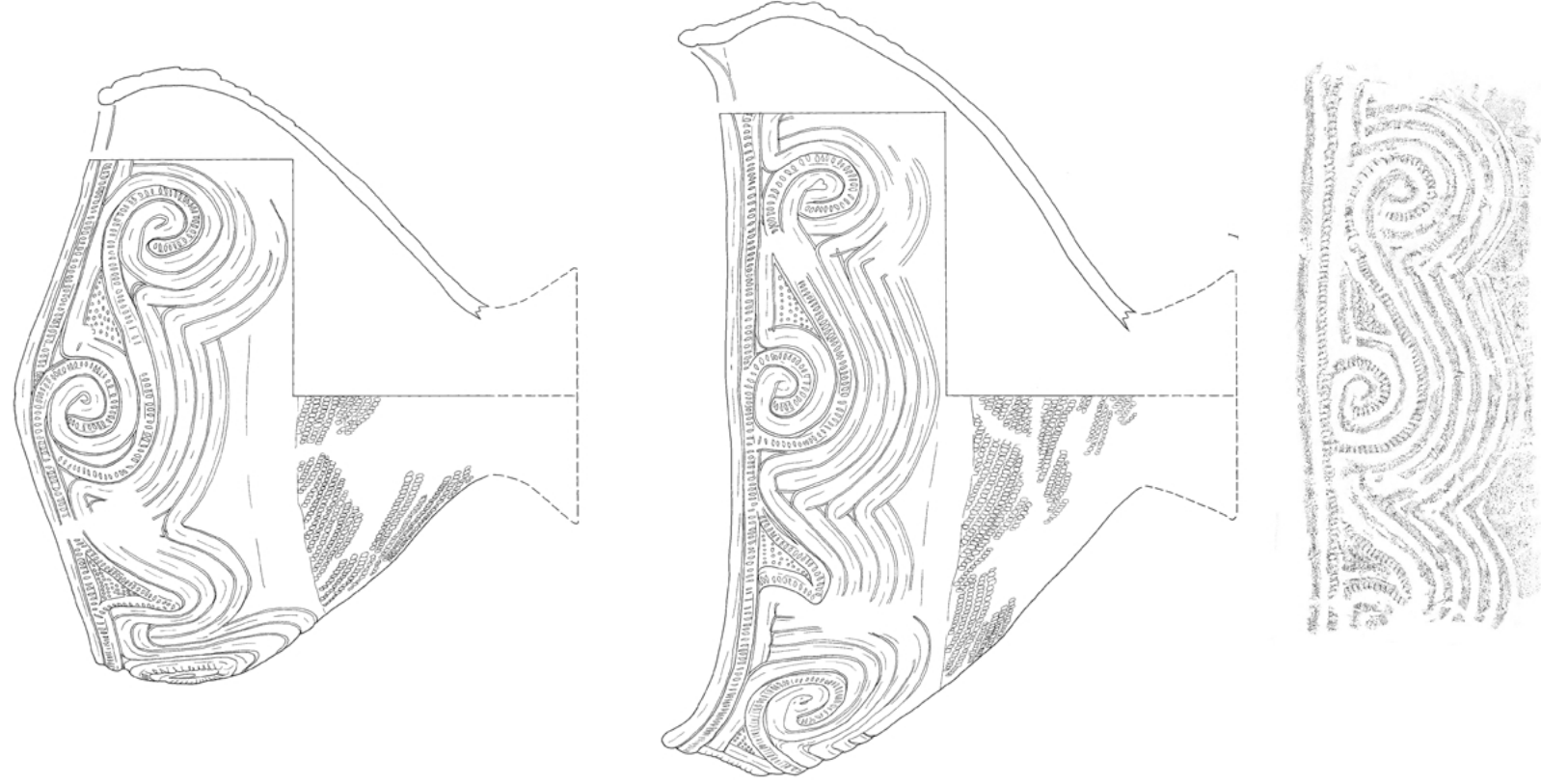


第56図 堂前遺跡 遺構実測図 (1/6, 1/8, 1/40, 1/80)

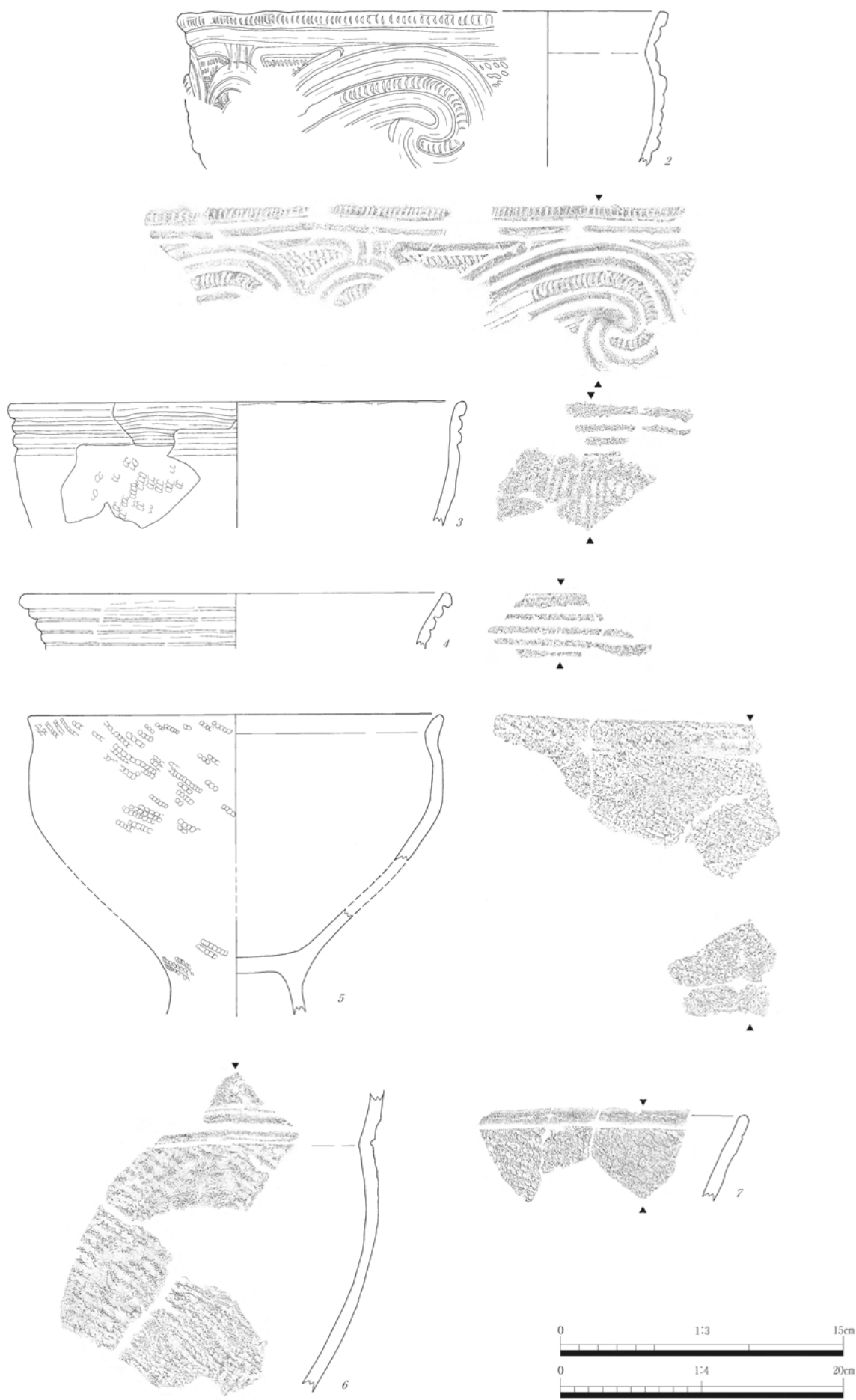
1・2. SD101 3~7. SD102



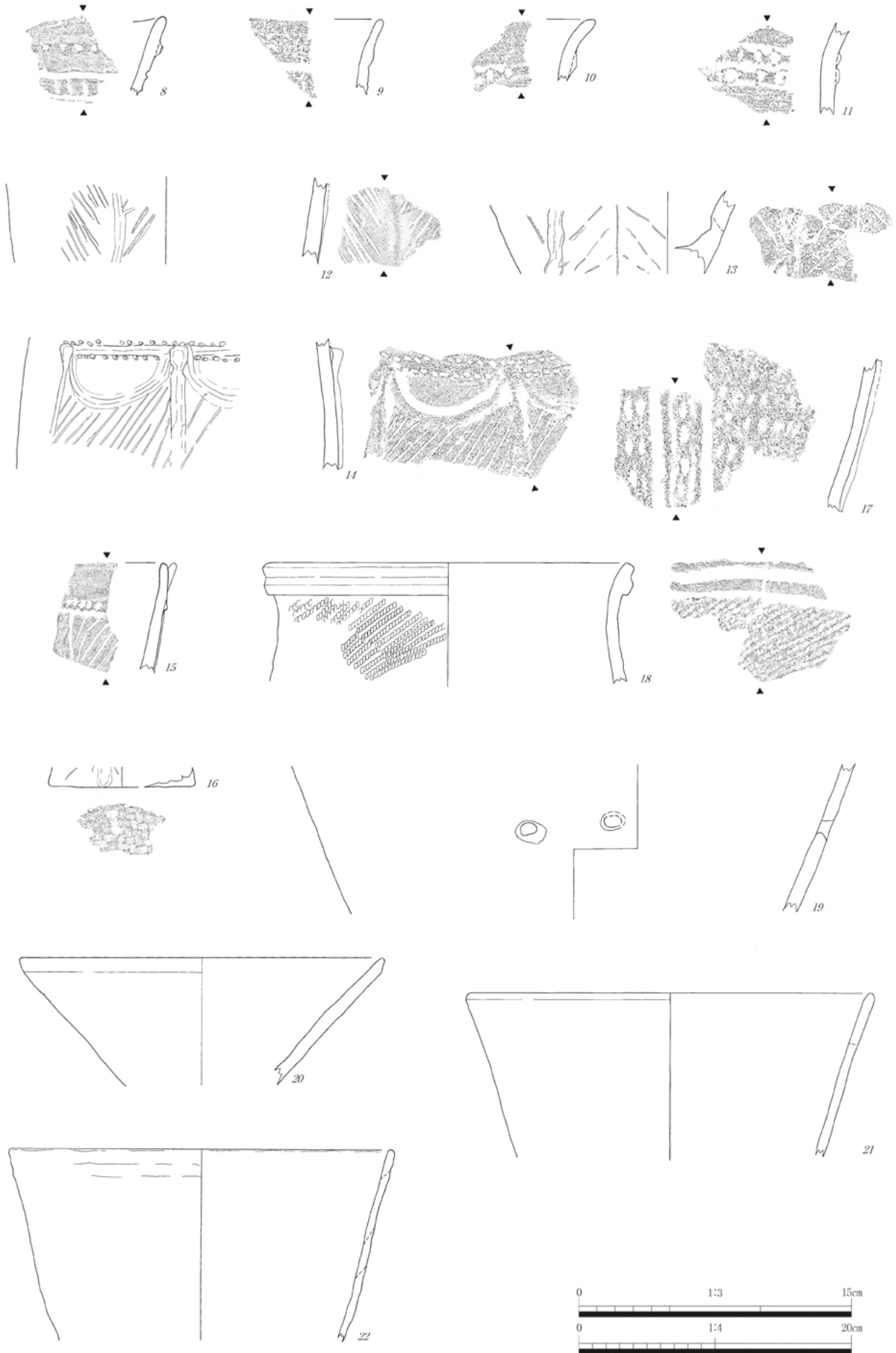
第57図 堂前遺跡 遺構実測図 (1/40)
包含層 土器出土狀況



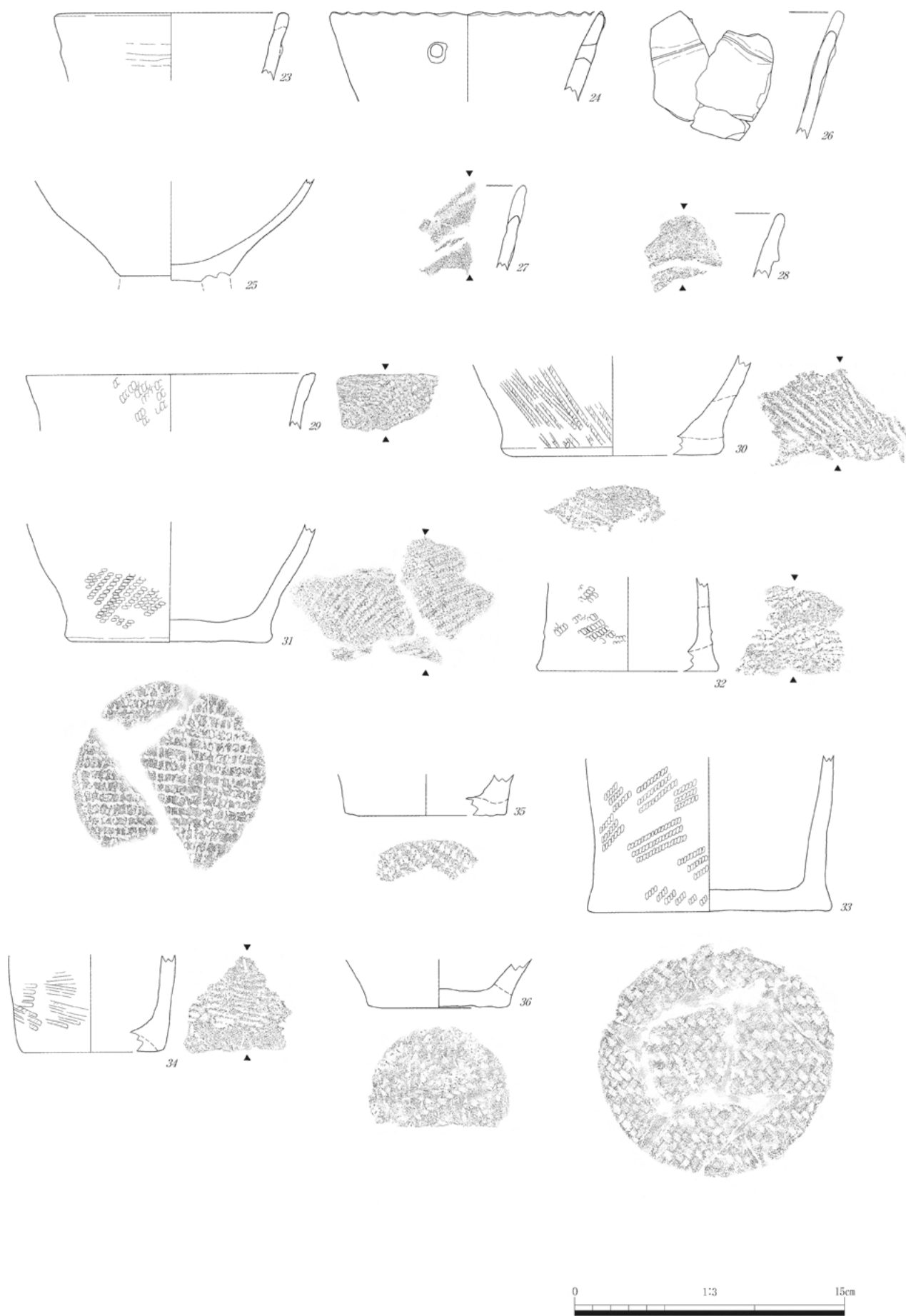
第58図 堂前遺跡 遺物実測図 (1/4)
縄文土器 (中期中葉) 包含層



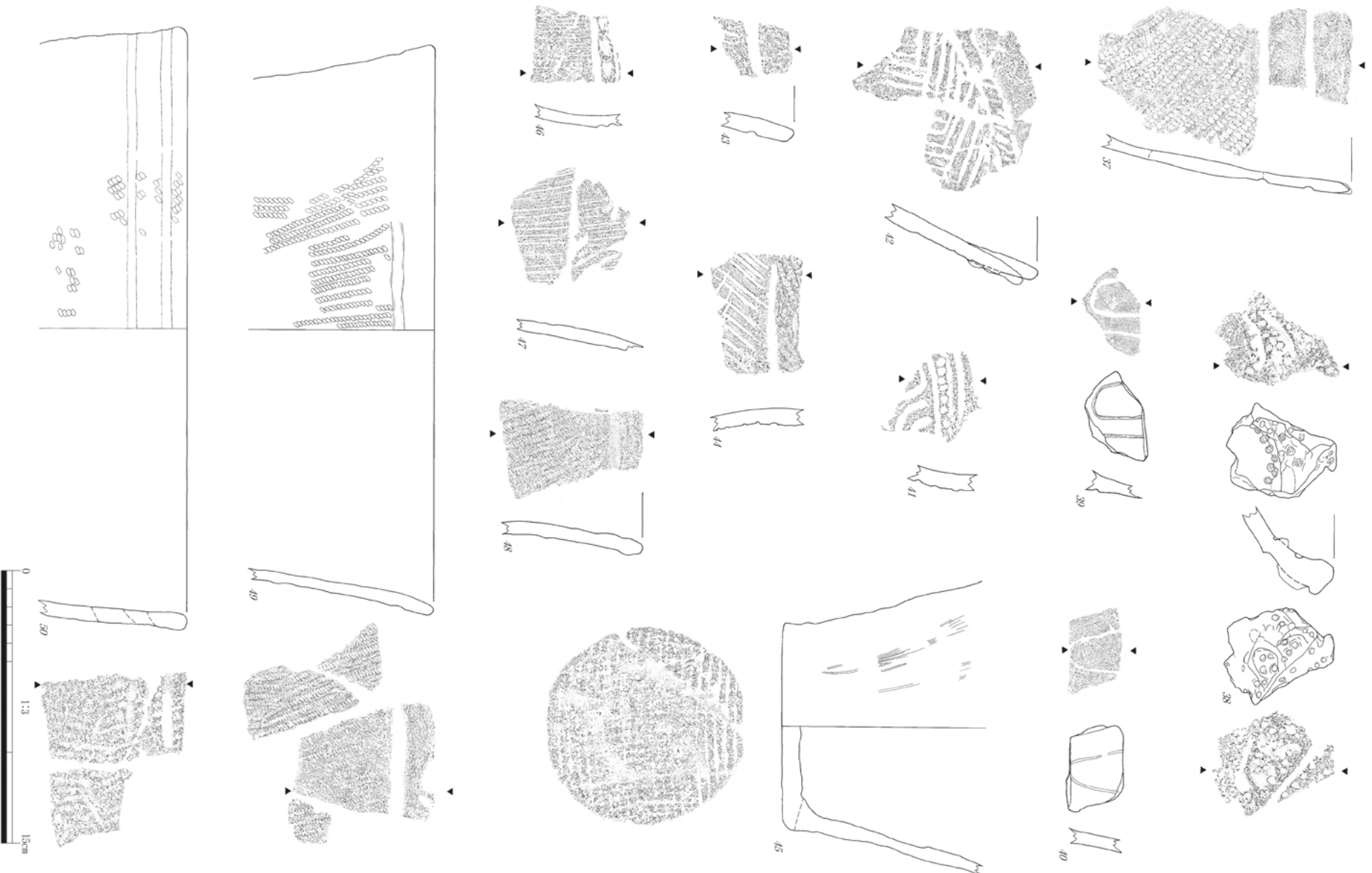
第59図 堂前遺跡 遺物実測図 (3~7 1/3, 2 1/4)
 縄文土器 (中期中葉) 包含層



第60図 堂前遺跡 遺物実測図 (8~20 1/3, 21・22 1/4)
 縄文土器 (中期後葉~後期初頭) 包含層

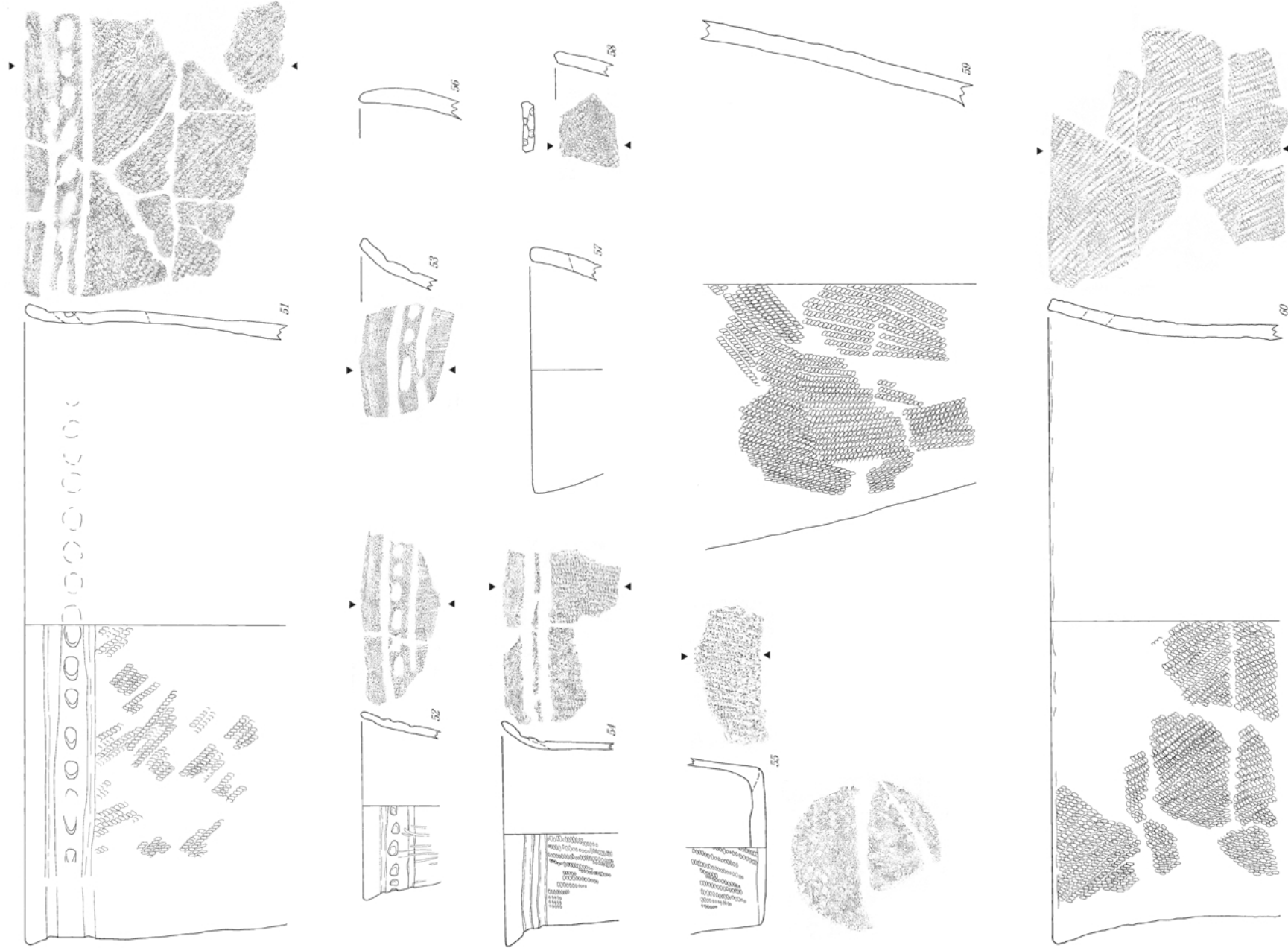


第61図 堂前遺跡 遺物実測図 (1/3)
 縄文土器 (中期後葉~後期初頭) 包含層

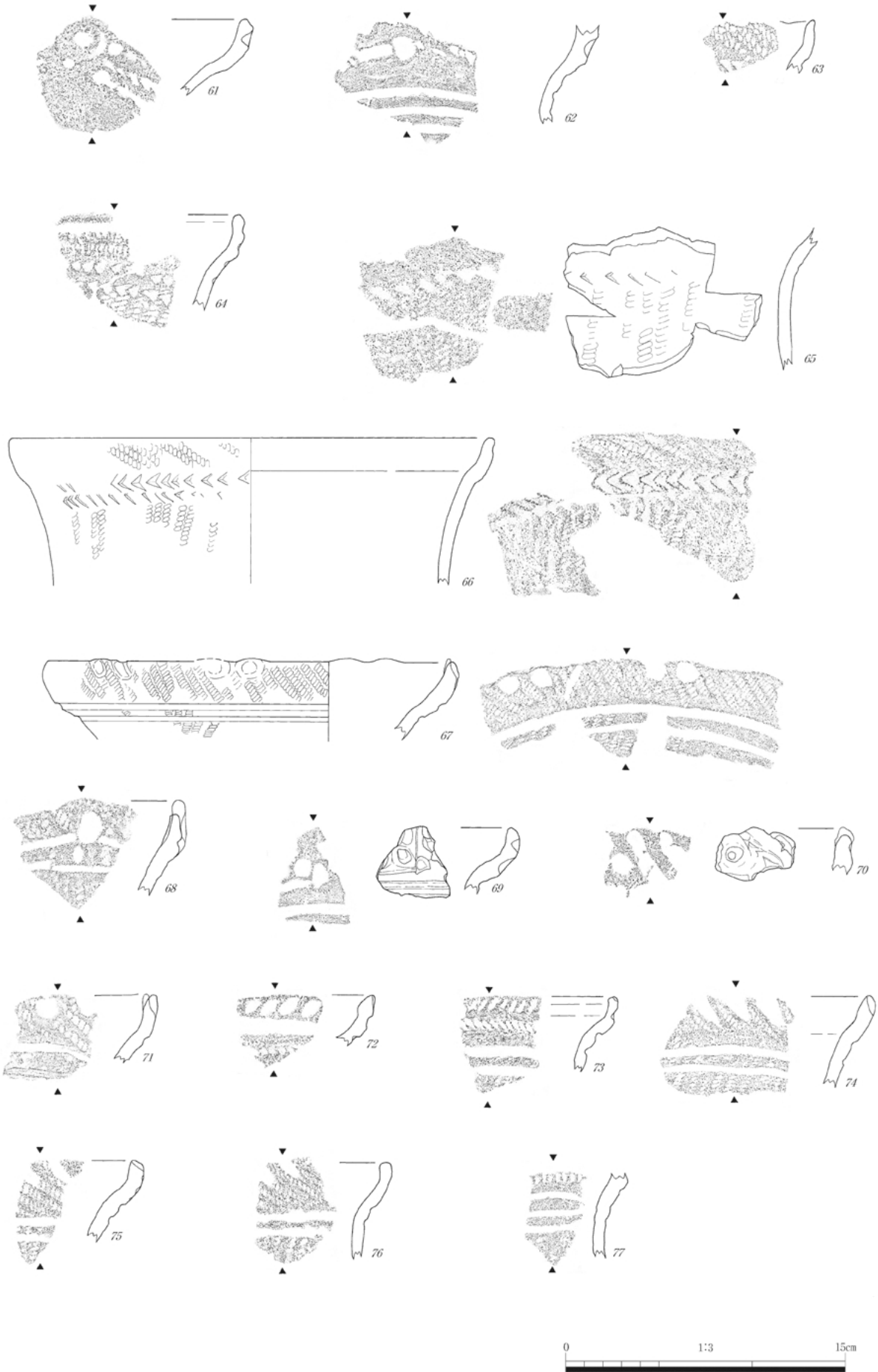


第62図 堂前遺跡 遺物実測図 (1/3)

縄文土器 (中期後葉～後期初頭) 包含層



第63図 堂前遺跡 遺物表測図 (51~59 1/3, 60 1/4)
 縄文土器 (中期後葉~後期初頭) SD102 (60) 包含層 (51~59)



第64図 堂前遺跡 遺物実測図 (1/3)

縄文土器 (後期前葉) SD102 (63~67・69・72・73) 包含層 (61・62・68・70・71・74~77)



第65図 堂前遺跡 遺物実測図 (1/3)

縄文土器 (後期前葉) SD102 (78・82~84・86・87) SP5 (81) 包含層 (79・80・85・88)

(2) 古代

A 遺構

遺構は掘立柱建物1棟と小規模な土坑6基である。土坑の中には柱穴状の掘形をもつものもあるが、付近に並ぶ柱列はない。遺物は遺構からは出土していないが、掘立柱建物周辺の包含層(Ⅱb層)を中心として出土しており、建物に関連するものと考えられる。

1号掘立柱建物(SB1, 第67図, 図版60・61)

調査区の東側に位置する。遺構検出面であるⅢ層面は建物の南側で一段低くなっており、建物の周辺を削平して平坦面をつくり出そうとしたものとみられるが、それでもなお若干の傾斜がある。各柱穴の底面の標高が傾斜に沿って低くなっていくことから、遺構面の傾斜は後世に削り取られたものではなく、当時も緩やかな斜面であったと推測される。ただし北縁の幅2.5~3mの範囲は、段々畑を造成する際に40cm前後削り取られている。

身舎は2間×1間で、四面に4間×3間の庇が付く。主軸はN-45°-Eである。桁行10.75m、梁行7.3mで、面積は76.85㎡である。柱間距離は、身舎の梁行は4.2m、それ以外の梁行は2.3~2.55m、桁行は2.15~3.07mである。柱穴はすべて円形を呈し、柱穴規模は直径32~56cm、深さは削平を受けているものも含めて16~68cmである。柱穴の規模には身舎と庇で差がなく、深さがあり、四面庇であることなどから、この建物は高床式の建物と推定する。埋土はすべてⅡb層である黒色粘土質ロームを基調とし、にぶい黄褐色ロームが粒状に混じる土で、単層で柱痕はない。掘形は円筒形が多いが、底部が細くすぼむものもある。

柱穴からの出土遺物には縄文土器があるが、周辺の古代包含層(Ⅱb層)から7世紀第4四半期の須恵器のほか、赤彩のある黒色土器高杯、袋状鉄斧、刀子が出土しており、これらが建物に伴うものと考えられる。

この建物の性格については、規模・形態および立地状況や周辺の遺物組成からみて、一般的な住居または官衙とは考えにくく、特殊な建物であった可能性が高い。

16号土坑(SK16, 第68図)

SB1内に位置し、柱穴状の掘形をもつが、性格は不明である。直径42cmの円形を呈し、深さ30cmである。埋土はにぶい黄褐色ローム混じりの黒色粘土質ロームの単層である。

17号土坑(SK17, 第68図)

SB1内に位置し、柱穴状の掘形をもつ。直径30cmの円形を呈し、深さ28cmである。埋土はにぶい黄褐色ローム混じりの黒色粘土質ロームの単層である。

23号土坑(SK23, 第68図)

SB1内に位置し、半円状の掘形をもつ。長さ120cm、幅68cmの楕円形を呈し、深さ35cmである。埋土は暗灰黄色砂混じりの黒色シルトの単層である。

25号土坑(SK25, 第68図)

SB1内に位置し、柱穴状の掘形をもつ。直径32cmの円形を呈し、深さ32cmである。埋土はにぶい黄色砂混じりの黒色粘土質ロームの単層である。

26号土坑(SK26, 第68図)

SB1内に位置し、柱穴状の掘形をもつ。直径36cmの円形を呈し、深さ23cmである。埋土は黒色粘土質ローム混じりのにぶい黄色砂の単層である。

B 遺物

遺物は、古代の包含層であるⅡb層から須恵器・土師器・黒色土器・袋状鉄斧・刀子が出土しており、Ⅱb層の出土遺物としては、図示したもの以外に縄文土器の破片が数点ある。古代の遺物はS B 1周辺からの出土で、Ⅱb層は安定した表土層をもつと考えられる黒色粘土質ロームであることから、これらの遺物が他からの流れ込みとは考えにくく、建物に伴うものと推定する。

中世以降の遺物は、表土及び中世の包含層であるⅡa層から出土している。珠洲・中国製青磁・越中瀬戸があるが、点数は僅少である。また、中世以降の遺構は検出されなかった。

a 土器・陶磁器（第69図，図版62・63）

89～92は須恵器杯蓋で、内面にかえりをもつ。法量は口径18.7cm（89）、12.2～13.1cm（90・91）、10.2cm（92）の大・中・小に分けられる。頂部はすべて右回転のヘラケズリを施し、全体に扁平なもの（89）、頂部からなだらかに傾斜するもの（90）、頂部が平坦で肩で屈曲するもの（92）がある。かえりの先端は、口縁端部と同一の高さに垂下するもの（89・90）とやや短いもの（91・92）があり、かえりの形態は、89は細く端部が鋭いが、90～92は断面三角形を呈し、形骸化が進んでいる。頂部には扁平な擬宝珠状のつまみが付く。頂部内面は仕上げナデを施す。89には、外面に直径7cm及び11cm前後の別の2個体を重ねて焼成した痕跡がある。90～92にも重ね焼きの痕跡があり、内面を上にして杯等の上に重ねて焼成したとみられる。7世紀第4四半期のものである。また、89・90・92は蛍光X線分析の結果、射水平野の窯群の製品である可能性が高いことがわかった^{注1}。

93～95は土師器碗である。ロクロ成形で、95の底外面は回転糸切りである。口縁端部の形態は、93は内面に面を取り、94は丸く収める。

96は黒色土器高杯である。内面は黒色処理され、外面は赤彩を施す。脚部は短く、裾部は扁平に広がる。脚部から裾部にかけて、縦位のヘラケズリを施す。胎土には雲母・骨針が多く含まれる。

97は越中瀬戸皿である。口径9.7cm、器高2.1cm、底径4.1cmで、外面の体部上半から内面にかけてはロクロナデ、外面は体部下半から底部にかけて回転ヘラケズリを施す。見込みには菊の印花があり、重ね焼きの痕跡が残る。口縁部内外面に灰釉がかかる。

98は中国製青磁碗である。高台内部の削りが浅く、底部は肉厚である。外面に片彫りの鎬連弁をもち、内面見込みに圈線と花文を有する。胎土はやや粗い。釉はオリーブ灰色を呈し、半濁している。高台の外側までかかり、畳付の部分は剥ぎ取る。太宰府分類の龍泉窯系碗Ⅱb類に相当し、13世紀前半のものである。

b 金属製品（第69図，図版63）

99は刀子である。鉄製の本体のみで柄はなく、切先と関部は欠損している。

100は袋状鉄斧である。刃部と袋部が一体でつくられた無肩袋状鉄斧で、長さ8.7cm、基部幅3.4cm、基部厚1.8cm、刃部幅4.0cmを測る。袋部の断面形は丸みを帯びた長方形を呈する。また、金属成分組成の調査の結果、低温還元直接製鋼法にもとづく塊煉鉄を素材とし、製鉄原料は砂鉄もしくはチタン磁鉄鉱が想定された^{注2}。形態・規格からは、7世紀のものである可能性も考えられる^{注3}。（越前慎子）

注

注1 第V章 自然科学分析「2 堂前遺跡（1）堂前遺跡・岩坪岡田島遺跡出土須恵器の蛍光X線分析」に詳しい。

注2 第V章 自然科学分析「2 堂前遺跡（2）袋状鉄斧の金属学的調査」に詳しい。

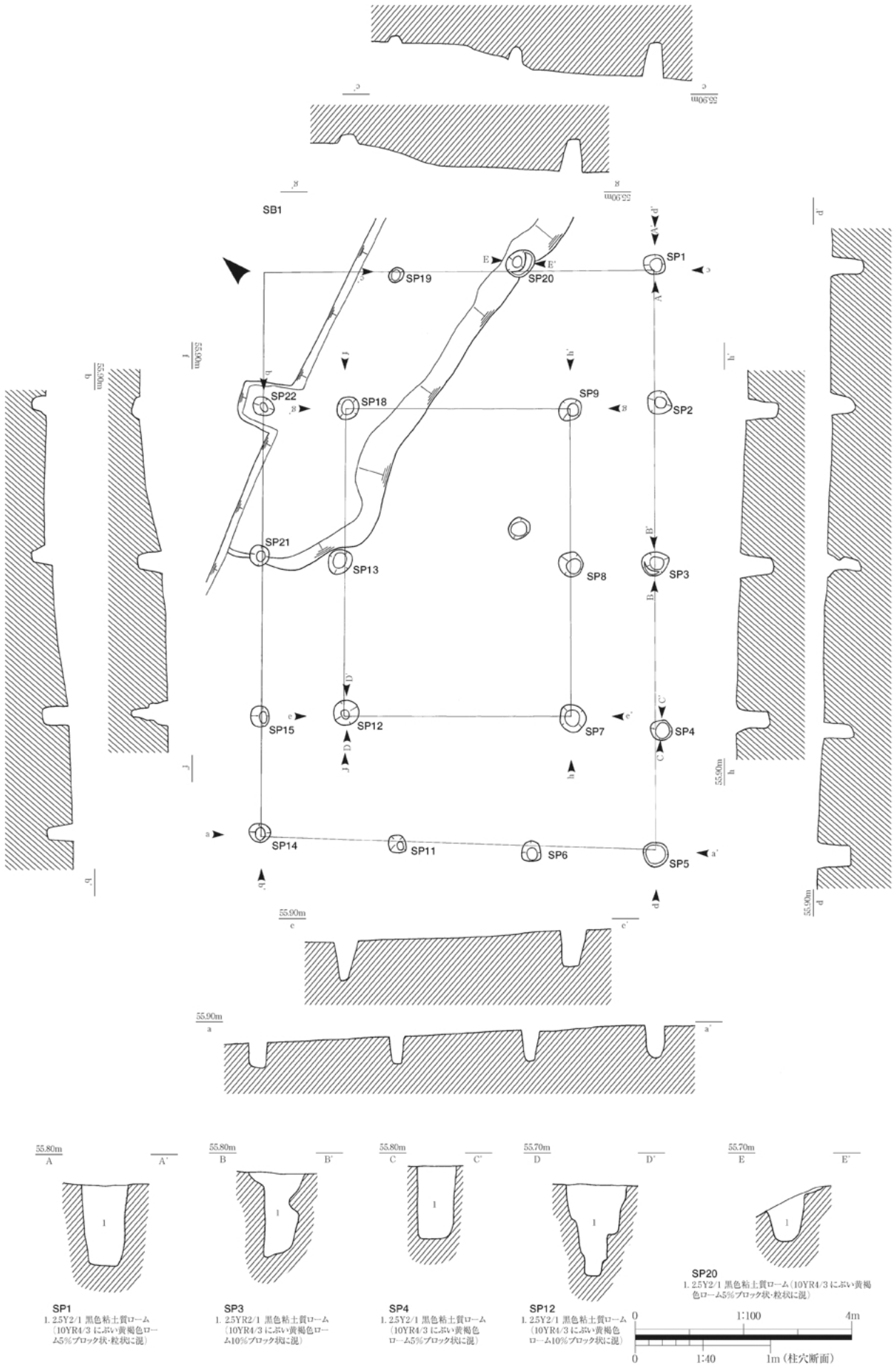
注3 野島 永氏の御教示による。

参考文献

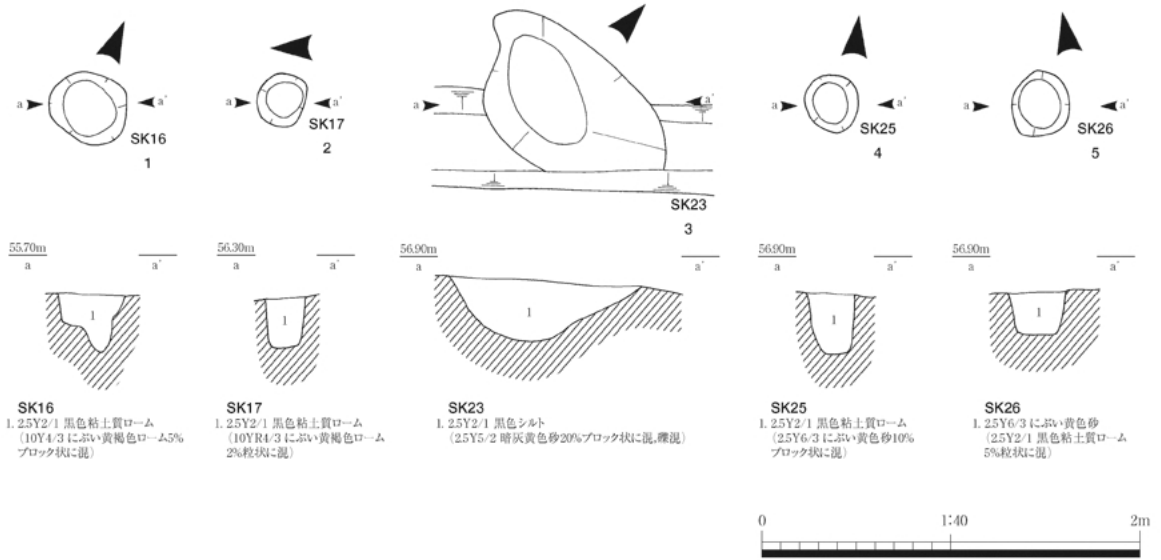
- 青柳泰介 2000「家形埴輪と大型掘立柱建物の関係について—平面形態の比較を中心に—」『古代学研究』第150号
古代学研究会
- 浅川滋男編 1998『先史日本の住居とその周辺』同成社
- 石川考古学会・北陸古代土器研究会 1988『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』
- 池野正男 1986「富山市平岡窯採取遺物の紹介」『大境』第10号 富山考古学会
- 植木 久 1991「第7章 高床式建築の変遷」『クラと古代王権』ミネルヴァ書房
- 上野 章 2005「越中の7世紀の須恵器変遷について」『ふくおか歴史文化フォーラム「ふくおかの飛鳥時代を考える」資料集』
福岡町教育委員会・富山考古学会
- 内田亜紀子 2002「富山県の黒色土器—6～8世紀の県内資料を中心として」『富山考古学研究』第5号
財団法人富山県文化振興財団
- 大林太良編 1975『日本古代文化の探究 家』社会思想社
- 大場磐雄 1957「上代祭祀遺物の特質」『國學院雑誌』58-4 國學院大学
- 佐野大和 1983「宗教考古学の諸相 神道」『季刊考古学』第2号 雄山閣
- 田島明人 1997「北陸での7世紀の土器」『古代の土器研究会 第5回シンポジウム 古代の土器研究—律令的
土器様式の西・東5 7世紀の土器—』古代の土器研究会
- 田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店
- 北陸古代土器研究会 1993『北陸古代土器研究』第3号
- 北陸古代土器研究会 1995『北陸古代土器研究』第5号
- 細江真理 2004「中谷内遺跡出土の袋状鉄斧」『富山考古学研究』第7号 財団法人富山県文化振興財団
- 松井和幸 2001『日本古代の鉄文化』雄山閣
- 丸山 茂 2001『神社建築史論』中央公論美術出版
- 丸山陽一 坂本和俊 1996「埼玉県美里町・上野遺跡の柱穴列と掘立柱建物群—古代の神社かと思われる掘立柱建物址—」
『情報 祭祀考古』第7号 祭祀考古学会
- 宮田進一 1988「越中瀬戸の窯資料（1）」『大境』第12号 富山考古学会
1997「第4章第4節 越中瀬戸の変遷と分布」『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』桂書房
- 宮本長二郎 1983「古代の住居と集落」『講座日本技術の社会史 第7巻 建築』日本評論社
1996「大型建物と祭祀」『情報 祭祀考古』第5号 祭祀考古学会
1996「第5章第6節 庇付建物」『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版
- 安田良栄 1988「越中瀬戸四百年の変遷」『越中瀬戸四百年記念誌』越中瀬戸発祥四百年記念顕彰会実行委員会
- 山本信夫 2000「太宰府の文化財 第49集 太宰府条坊跡 XV—陶磁器分類編—」太宰府教育委員会
- 吉川金次 1984「ものと人間の文化史51 斧・鑿・鉋」法政大学出版局
- 吉野健志 1996「広島県西本6号遺跡—飛鳥時代の大規模祭殿跡—」『情報 祭祀考古』第5号 祭祀考古学会



第66図 堂前遺跡 古代面全体図 (1/300)

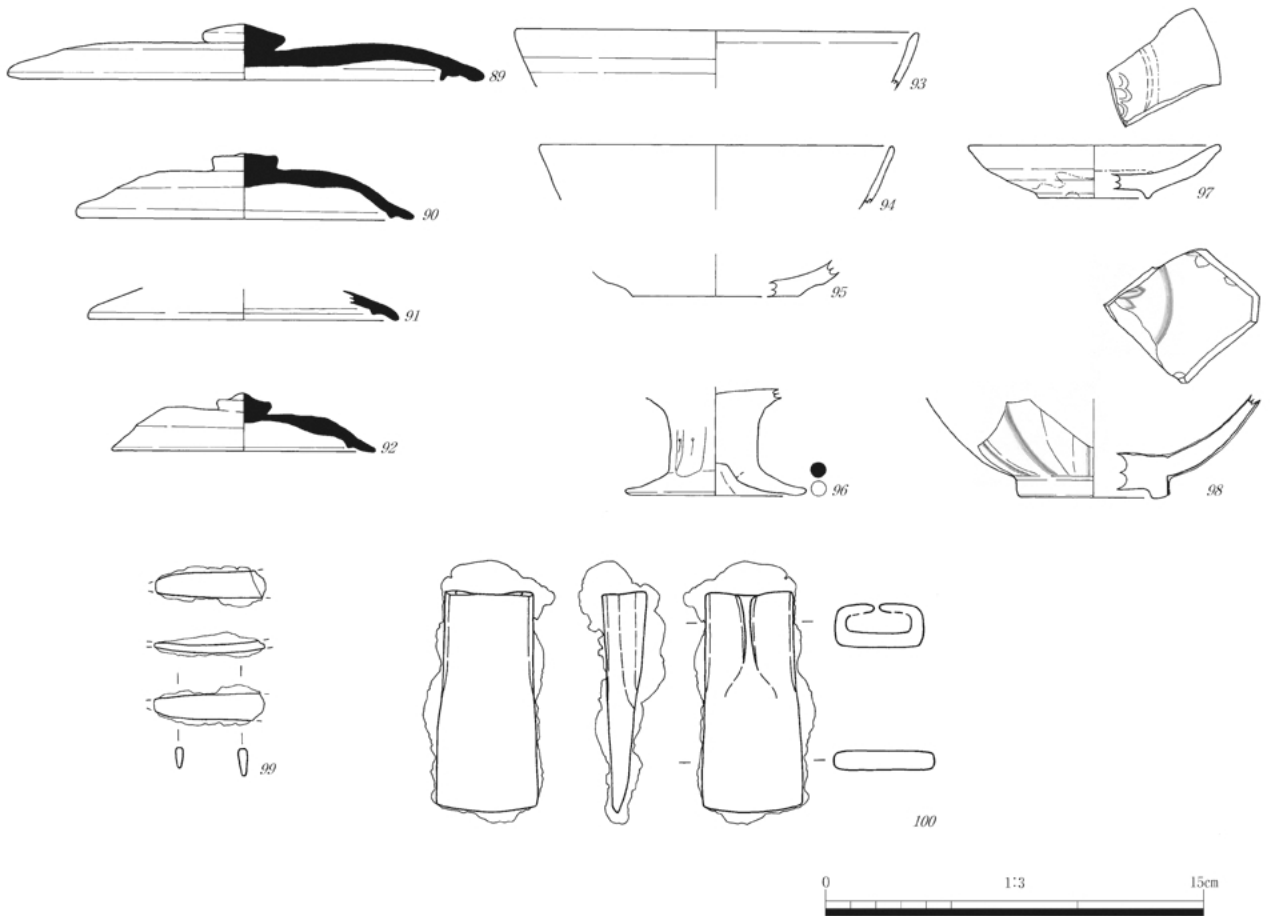


第67図 堂前遺跡 遺構実測図 (1/40, 1/100)
SBI



第68図 堂前遺跡 遺構実測図 (1:40)

1. SK16 2. SK17 3. SK23 4. SK25 5. SK26



第69図 堂前遺跡 遺物実測図 (1/3)

土器・陶磁器・金属製品 包含層

3 小結

堂前遺跡の調査では、上層面で白鳳時代の掘立柱建物、下層面で縄文時代の流路や土器捨て場を検出した。ここでは、まとめとして遺跡の変遷やその成り立ちについて考えてみたい。

(1) 遺跡の変遷 (第70～73図・第13表)

遺跡の変遷は、第Ⅰ期：縄文時代中期中葉，第Ⅱ期：縄文時代中期後葉～後期初頭，第Ⅲ期：縄文時代後期前葉，第Ⅳ期：白鳳時代の大きく4時期に区分して周囲の遺跡ともあわせて見ていくこととする。周囲の遺跡については、堂前遺跡の立地が山間部にあることからその行動範囲を広範囲ではなく、仮に近隣の半径10km圏内^{注1}とその周囲の半径15km圏内とした。また、縄文土器の年代測定については(山本・小田2001)文献から引用した。

A 第Ⅰ期

a 時期及び年代

縄文時代中期中葉で、土器型式では古府式～古串田新式に相当する。年代は石川県金沢市北塚遺跡出土の古府Ⅱ式土器で¹⁴C年代を4840±90 B P，古串田新式土器で¹⁴C年代を4636±237 B Pと測定されており、暦年較正^{注2}するとB C 3700～3000年に相当する。

b 遺構及び層位

遺構はなく、包含層ではⅣ b～Ⅴ b層が相当する。

c 遺物とその分布

遺物は北東端を中心とする狭い範囲から、縄文土器が出土している。出土土器は数少ないものの、古府式の舟形鉢のように大型の破片が出土しており、小範囲ながら谷に向かって一括廃棄していた様子が窺える。

d 同時期の遺跡

半径10km圏内には、朝日貝塚や岩上遺跡や桑ノ院吉谷遺跡などがあるが、遺跡数は少なく、建物を持つ集落は朝日貝塚の他には見られない。半径15km圏内外になると、東方にある射水丘陵の水上谷遺跡や小杉流団No.3・19遺跡、西南にある臼谷岡村遺跡のように建物を伴う集落が存在し、なかでも水上谷遺跡は竪穴建物10数棟からなる大集落となっている。このように、堂前遺跡周辺にはこの時期の本格的な集落は開かれず、海沿いの朝日貝塚や東方や南西部の射水丘陵に集落が営まれたようである。

B 第Ⅱ期

a 時期及び年代

縄文時代中期後葉～後期初頭で、土器型式では串田新～前田式に相当する。年代は、石川県金沢市北塚遺跡出土の大杉谷式土器で¹⁴C年代を4012±86 B Pと測定されており、暦年較正するとB C 2670～2400年に相当する。

b 遺構及び層位

遺構はなく、包含層ではⅢ b～Ⅴ a層が相当する。

c 遺物とその分布

遺物は北東端を中心としながらも、全域で小破片が出土している。また、土器が出土する層はⅤ a層を中心としながらも、Ⅲ b層からⅤ層までの幅広い層がある。

d 同時期の遺跡

第Ⅰ期に比べて遺跡数が増加する。半径10km圏内には、海沿いに朝日貝塚・岩上遺跡、宝達丘陵周辺に上久津呂中屋遺跡・四十塚遺跡・勝木原遺跡などがあるが、いずれも谷や散布地で、建物を伴う集落は見られない。半径15km圏内には、宝達丘陵周辺に沢川北遺跡・一勿前田遺跡・桜町遺跡、海沿いに大境洞窟、射水丘陵に串田新遺跡・黒河尺目遺跡などがあり、標識遺跡である串田新遺跡では建物を伴う集落が見られるものの、他にはない。

C 第Ⅲ期

a 時期及び年代

縄文時代後期前葉で、土器型式では気屋式に相当する。年代は、石川県宇ノ気町気屋遺跡出土の気屋式土器で¹⁴C年代を3619±135 B P, 3481±110 B Pと測定されており、暦年較正するとB C 1880～1770年に相当する。

b 遺構及び層位

遺構は南側の山地から北側の川へと注ぐ小さな自然流路S D 101・102のみで、包含層ではⅢ層が相当する。

c 遺物とその分布

遺物は南側の山地から北側の川へと注ぐ小さな自然流路S D 102を中心とした範囲と、西端の谷部付近から、いくつかのまとまりをもって土器が出土している。

d 同時期の遺跡

第Ⅱ期から続く遺跡が多い。半径10km圏内には、海沿いに朝日貝塚、宝達丘陵周辺に惣領浦之前遺跡・四十塚遺跡、平野部に小竹藪遺跡などがある。半径15km圏内外には、海沿いに大境洞窟、宝達丘陵周辺に一勿前田遺跡・沢川ヌゲダ遺跡・桜町遺跡、扇状地に久泉遺跡などがある。いずれの圏内でも建物を検出したところは見られず、谷肩部に廃棄された土器捨て場などを主体としている。

D 第Ⅳ期

a 時期及び年代

白鳳時代で、出土した須恵器から7世紀後半という年代を示す。

b 遺構及び層位

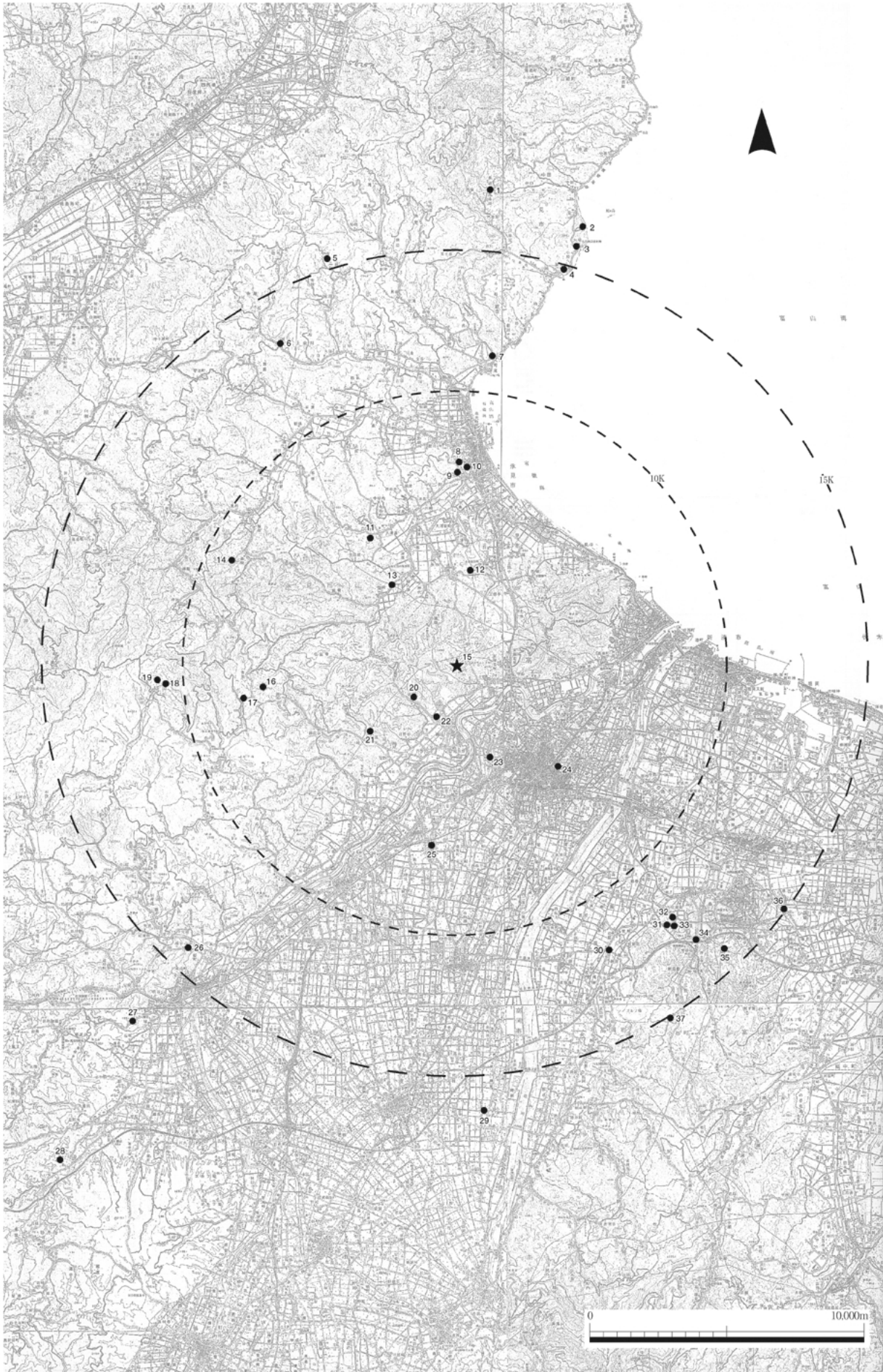
調査区東側の掘立柱建物S B 1のみで、包含層ではⅡ b層が相当する。

c 遺物とその分布

遺物はS B 1を中心にⅡ b層から出土している。

d 同時期の遺跡

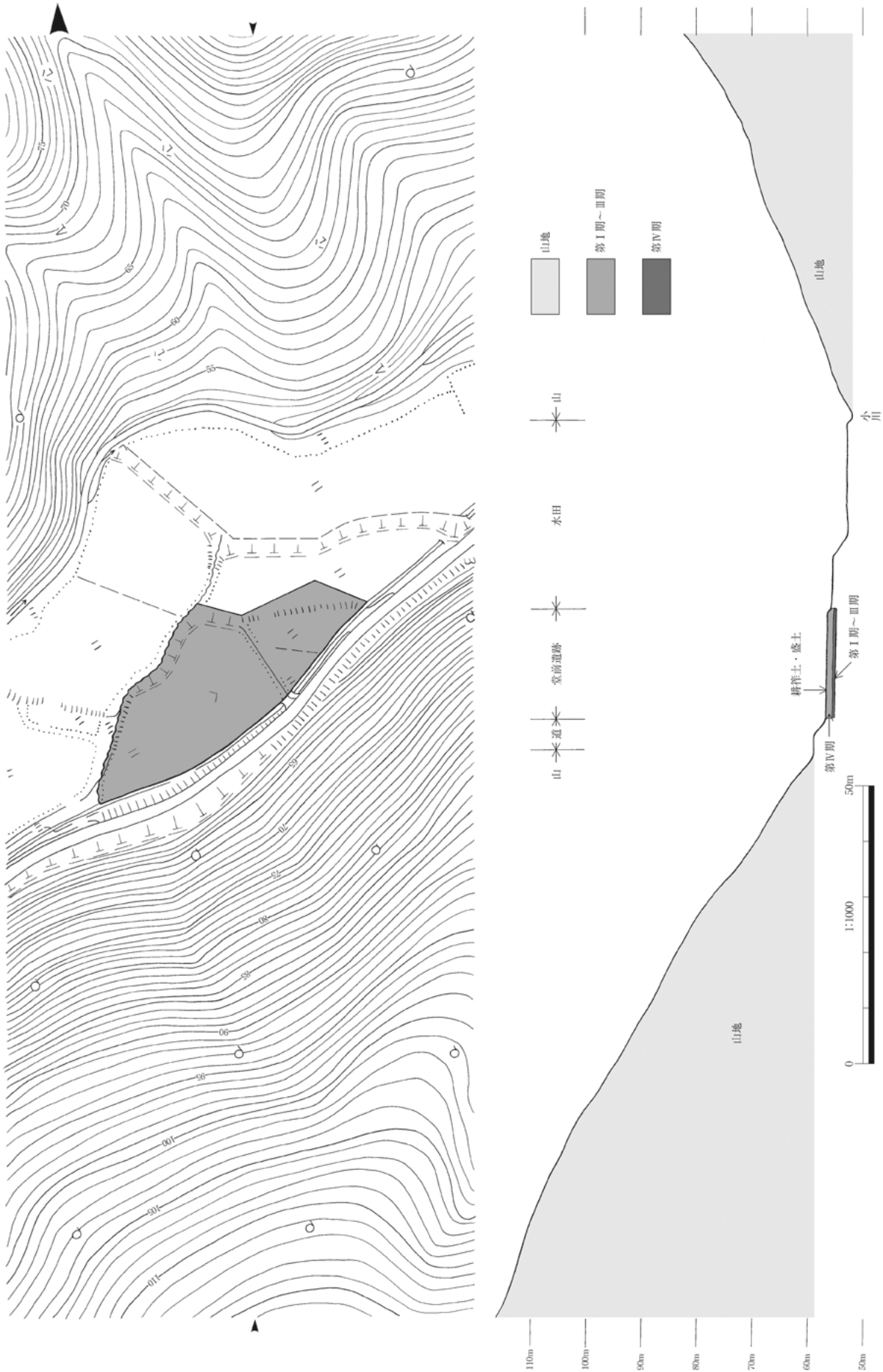
第Ⅲ期までとは生活領域が異なるため、同じ範囲で遺跡を見ることは難しいが、参考までに見てみると、半径10km圏内には、西山丘陵に墓域の頭川城ヶ平横穴墓群・江道横穴墓、生活域の岩坪岡田島遺跡、平野部に集落と見られる中保B遺跡・瑞穂町遺跡などがあるものの、遺跡数は少ない。なお、中保B遺跡では、3×2間で4面庇をもつ大型の掘立柱建物が確認されており、S B 1との関係が窺える^{注3}。半径15km圏内外では、海沿いに生産域の九殿浜遺跡、墓域の脇方横穴墓群・阿尾瀬戸ヶ谷内横穴墓群、射水丘陵に生産域の小杉丸山遺跡・天池C遺跡などがある。海沿いには横穴墓などの墓域、射水丘陵には須恵器窯などの生産域が営まれているが、集落域は見つかっていない。



第70図 堂前遺跡とその周辺の遺跡 (1/200,000)

番号	遺跡名	所在地	主な遺構	時期				
				第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	第Ⅳ期	
1	長坂貴船	水見市	長坂	-		○		
2	九殿浜		姿	製塩				○
3	大境洞窟		大境	洞窟	○	○	○	
4	脇方横穴墓群		脇方	横穴墓				○
5	一勿前田		一勿	谷		○	○	
6	一ノ瀬		一ノ瀬番場	-			○	
7	阿尾瀬戸ヶ谷内横穴墓群		阿尾瀬戸ヶ谷内	横穴墓				○
8	朝日水源地		朝日丘	谷		○	○	
9	朝日貝塚		朝日丘	貝塚	○	○	○	
10	岩上		伊勢大町	-	○	○	○	
11	上久津呂中屋		上久津呂	谷	○	○	○	○
12	四十塚		下田子	貝塚		○	○	
13	惣領浦之前		惣領	自然流路			○	
14	桑ノ院吉谷		桑ノ院	-	○	○		
15	堂前	高岡市	西海老坂	谷	○	○	○	○
16	勝木原オジャラ		勝木原	-		○		
17	勝木原宮之前		勝木原	-		○		
18	沢川ヌゲダ		福岡町沢川	建物・土坑			○	
19	沢川北		福岡町沢川	土坑	○	○		
20	頭川城ヶ平横穴墓群		頭川	横穴墓				○
21	江道横穴墓群		江道	横穴墓				○
22	岩坪岡田島		岩坪	土坑・溝				○
23	瑞穂町		瑞穂町	溝				○
24	小竹藪		古城公園	-		○	○	
25	中保B		中保	建物				○
26	桜町	小矢部市	桜町	建物・土坑・谷	○	○	○	○
27	埴生上野		埴生	炉		○	○	
28	白谷岡村		白谷	建物・土坑	○	○	○	
29	久泉	砺波市	久泉	自然流路			○	
30	串田新	射水市	串田新	建物	○	○	○	
31	小杉丸山		青井谷	窯				○
32	小杉流団No.3		水戸田	建物	○			
33	小杉流団No.19		青井谷	建物	○			
34	上野		上野	建物		○		
35	天池C		天池	須恵器窯				○
36	黒河尺目		黒河	粘土採掘坑		○		
37	水上谷		青井谷	建物群	○			

第13表 堂前遺跡とその周辺の遺跡一覧



第71図 堂前遺跡の地形 (1/1,000)

(2) 遺跡のあり方

以上のようなことを踏まえて、堂前遺跡の形成について考えてみたい。

A 形成前

西山丘陵の谷間で、西方の上流から上田子層と呼ばれる礫・泥・砂からなる地層を削って流れた礫や土砂（VI層）が堆積する。

B 縄文時代

中期中葉から後期前葉までの期間に西山丘陵を伝ってやってきた人々が、狩猟や北側の小川で漁労などを行う。ただし、居住はせず、狩猟等が終わればまた元の集落に戻っていく。ようするにキャンプサイトのようなものであろう。この間には、土層堆積からみて、何度も土砂崩れや洪水などが起こり、土砂が堆積し、断絶があったようである。土砂の堆積の落ち着く度に人々がやってきたのであろう。

C 白鳳時代

縄文時代後期以降、遺物は見られず、土砂が堆積する。これによって谷部が埋まり、平坦地が作られる。この上に掘立柱建物が作られる。この建物は単独であることと、四面庇をもつことから、通常の居宅とは趣きが異なり、特殊な施設と見られる。この南側には、東方の平野部から西方の山間部に向けて、現道のような道が開かれていたのかもしれない。そうすれば、“堂前”という字名の由来に係るのかもしれない。すなわち、山間部に開かれた祭祀関連の建物（堂）であったのだろうか。

D 奈良時代以降

白鳳時代より後では、中世の遺物が散見できる程度で、遺構は見られない。そのため、集落が開かれることはなかった。ただ、荒蕪地であったかという点もそうでもないようである。それは南側の西山丘陵から小川に向かって舌状にせり出した台地となっており、耕作に適したところとみられ、調査前の現況のような畑地または水田であった可能性がある。つまり、白鳳時代以降は居住域ではなく、生産地となっていたのであろう。

堂前遺跡は山間部にある約800㎡という小さな遺跡で、遺構遺物共に数少ない。しかし、縄文時代では古府式期の舟形台付鉢がほぼ完形で出土し、また、中期中葉（串田新式期）から後期前葉（気屋式期）という過渡期の土器がまとまって出土し、白鳳時代では四面庇のつく特殊な掘立柱建物を検出した。これらは、県内では類例の少ないもので貴重な資料である。このようなことから堂前遺跡は、単に小さな山間部の遺跡ということだけではなく、今後の調査研究、また西山丘陵を含む地域の歴史解明に重要なものとなるであろう。

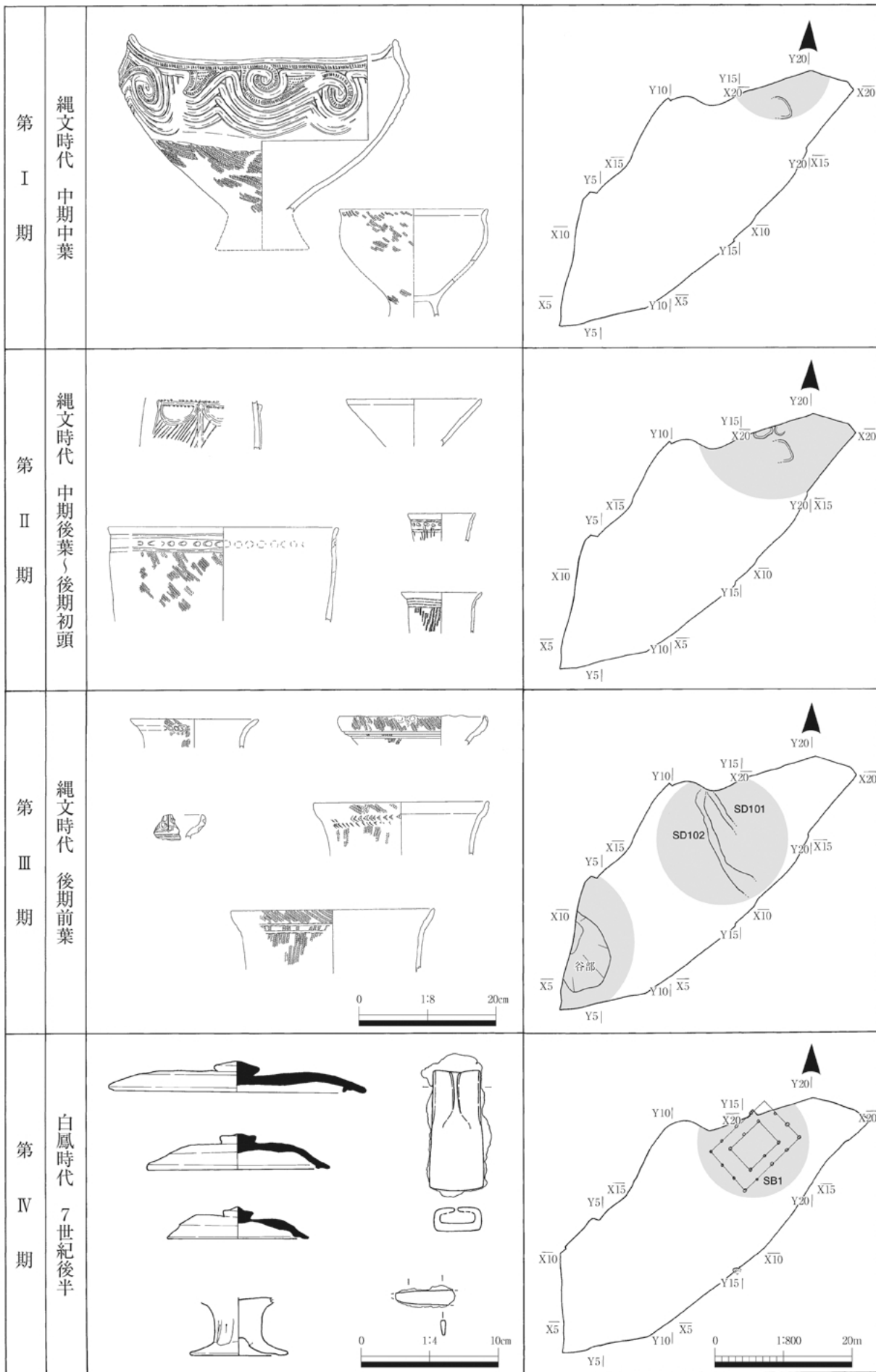
（町田賢一）

注

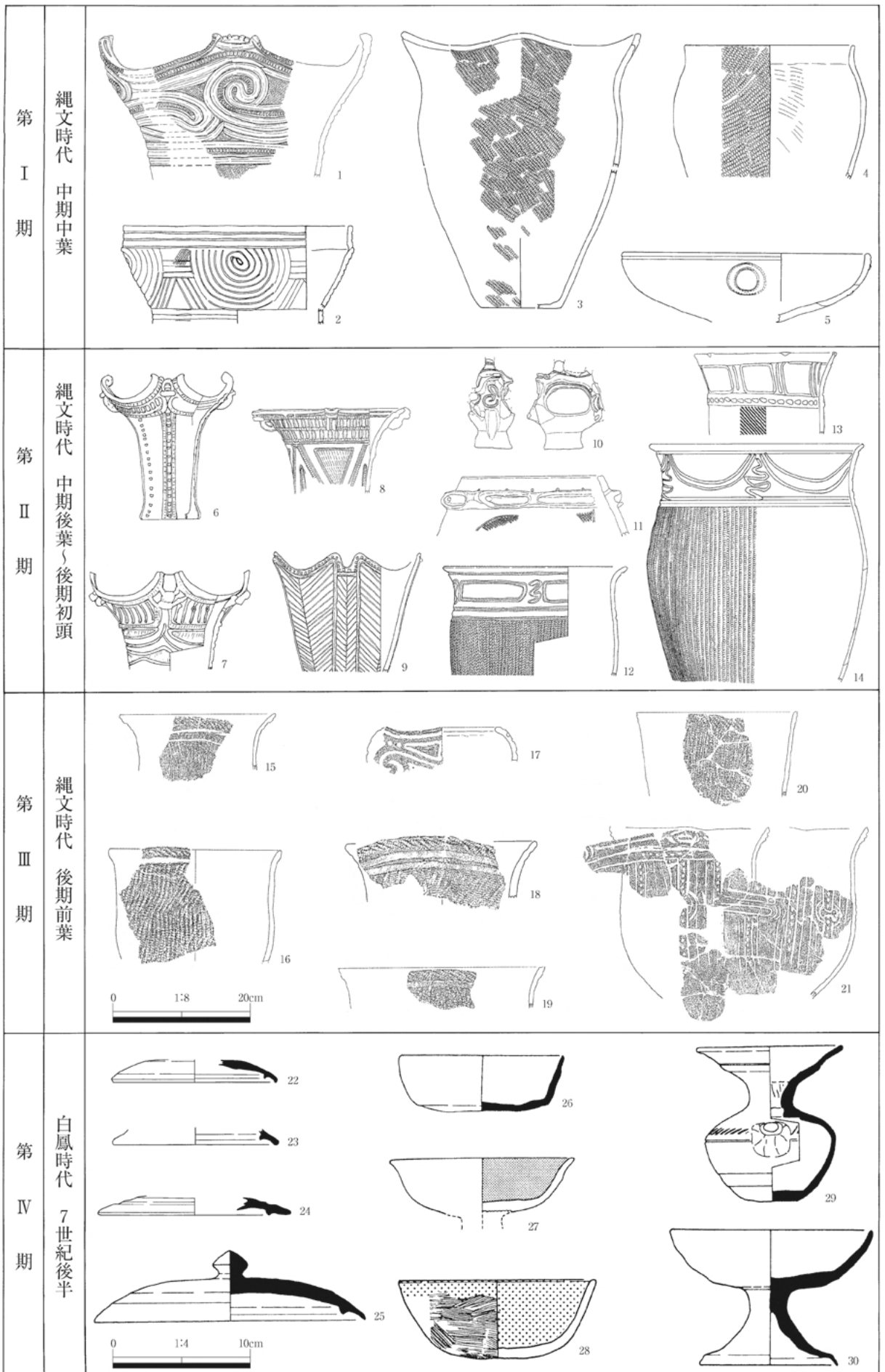
注1 半径10km圏内とは、藤本強氏によれば世界の原生採集民の平均的な生活領域とされ、これを準用した。（藤本1994）

注2 ¹⁴C年代の暦年較正については、オックスフォード大学のプログラムOxcal v3.9 (<http://rlaha.ox.ac.uk/orau/oxcal/html>)を使用した。

注3 中保B遺跡を調査した根津明義氏は、この建物を「豪族の居宅と考えることも一案にのぼると思われる」としている。（高岡市教育委員会2002）



第72図 堂前遺跡の変遷 (縄文土器1/8, 白鳳時代の遺物1/4, 遺構図1/800)



第73図 堂前遺跡と同時期の遺物 (1~21 1/8, 22~30 1/4)

上久津呂中屋遺跡 (1・8・10・11) 流団No.19遺跡 (2~5) 串田新遺跡 (6・7・14)
 一勿前田遺跡 (9・12・16・17) 長坂貴船遺跡 (13) 惣領浦之前 (15・19~21) 大境洞窟住居跡 (18)
 岩坪岡田島遺跡 (22~24) 小杉丸山遺跡 (25・27~30) 天池C遺跡 (26)

引用・参考文献

- 小矢部市史編纂委員会 2002 「白谷岡村遺跡」「桜町遺跡」「埴生上野遺跡」「小矢部市史—おやべ風土記—」
- 小矢部市教育委員会 1994 「白谷岡村遺跡」
- 川西健治 1999 「地形と地質」「氷見市史 9 資料編七 自然環境」氷見市史編纂委員会
- 小林謙一 2004 「縄紋社会研究の新視点—炭素14年代測定の利用—」六一書房
- 財団法人富山県文化振興財団 2002 「能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告 NEJ-13・NEJ-14・NEJ-20・NEJ-21・中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡」
- 財団法人富山県文化振興財団 2004 「黒河尺目遺跡」「黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡発掘調査報告」
- 桜町遺跡発掘調査団 2001 「桜町遺跡 調査概報」学生社
- 高岡市教育委員会 1998 「江道横穴墓群調査報告」
- 高岡市教育委員会 2001 「頭川城ヶ平横穴墓群調査報告Ⅲ」
- 高岡市教育委員会 2002 「中保B遺跡調査報告」
- 高岡市教育委員会 2003 「小竹藪遺跡 調査概報」
- 高岡市教育委員会 2003 「瑞穂町遺跡」「市内遺跡調査概報XⅢ」
- 谷口康浩 2005 「環状集落と縄文社会構造」学生社
- 砺波市教育委員会 2004 「久泉遺跡発掘調査報告Ⅰ」
- 砺波市教育委員会 2005 「久泉遺跡発掘調査報告Ⅱ」
- 富山県教育委員会 1973 「串田新遺跡 発掘調査概報」
- 富山県教育委員会 1974 「小杉町上野遺跡—記録写真編—」
- 富山県教育委員会 1982 「No.3遺跡」「小杉流通業務団地内遺跡群 第3・4次緊急発掘調査概要」
- 富山県教育委員会 1986 「小杉流通業務団地内遺跡群 第8次緊急発掘調査概要—小杉丸山遺跡—」
- 富山県埋蔵文化財センター 1989 「小杉流通業務団地内遺跡群 第9次緊急発掘調査概要」
- 富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブ 1967 「勝木原遺跡Ⅰ」
- 布尾和史 2004 「北陸縄文中期土器編年の概要—遺構出土資料を中心に—」「シンポジウム縄文集落研究の新地平3—勝坂から曾利へ— 発表要旨」縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 氷見市史編纂委員会 2002 「長坂貴船遺跡」「九殿浜遺跡」「大境洞窟」「脇方横穴墓群」「一ノ瀬前田遺跡」「一ノ瀬遺跡」「阿尾瀬戸ヶ谷内遺跡」「朝日水源地遺跡」「朝日貝塚」「岩上遺跡」「四十塚遺跡」「桑ノ院吉谷遺跡」「氷見市史 7 資料編五 考古」
- 福岡町教育委員会 2001 「沢川ヌゲダ遺跡」「沢川北遺跡」「沢川地区に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書」
- 藤本 強 1994 「モノが語る日本列島史—旧石器から江戸時代まで—」同成社
- 堀沢祐一 2003 「富山県内の縄文時代堅穴住居について—前期から中期にかけて—」「富山市北押川C遺跡発掘調査報告書」富山市教育委員会
- 町田賢一 2006 「下老子笹川遺跡の年代について」「下老子笹川遺跡発掘調査報告 第五分冊 自然科学分析・考察編」財団法人富山県文化振興財団
- 山本直人・小田寛貴 2001 「縄文土器のAMS¹⁴C年代(5)」「名古屋大学加速器質量分析計業績報告(XⅡ)」名古屋大学年代測定総合研究センター

第14表 堂前遺跡 縄文時代 溝一覧

遺構	種類	規模 (m)		出土遺物	挿図番号	写真図版	時期
		幅	深さ				
SD101	自然流路	0.68	0.34	縄文土器	56		後期前葉
SD102	自然流路	0.88	0.38	縄文土器 (60・63~67・69・72・73・78・82~84・86・87)	56	50・51	後期前葉

第15表 堂前遺跡 古代 建物一覧

建物	桁行 (m)	梁行 (m)	面積 (m ²)	棟方位	柱穴規模・径 (m)	柱穴規模・深さ (m)	柱間距離・桁 (m)	柱間距離・梁 (m)	挿図番号	写真図版
SB 1	10.75	7.30	76.85	N-45°-E	0.32~0.56	0.16~0.68	2.15~3.07	2.30~4.20	67	60・61

第16表 堂前遺跡 古代 柱穴一覧

建物	遺構	平面形	規模 (m)			出土遺物	挿図番号	写真図版	時期
			長さ	幅	深さ				
SB1	SP1	円	0.40	0.37	0.60		67		7世紀 第4四半期
	SP2	円	0.48	0.44	0.45			61	
	SP3	円	0.52	0.44	0.63		67	61	
	SP4	円	0.41	0.38	0.54		67		
	SP5	円	0.48	0.46	0.60	縄文土器 (81)			
	SP6	円	0.38	0.36	0.56				
	SP7	円	0.54	0.50	0.62	縄文土器		61	
	SP8	円	0.48	0.45	0.62				
	SP9	円	0.48	0.42	0.63				
	SP11	円	0.38	0.34	0.52				
	SP12	円	0.50	0.46	0.68		67	61	
	SP13	円	0.48	0.44	0.46				
	SP14	円	0.40	0.34	0.48				
	SP15	円	0.40	0.36	0.50	縄文土器			
	SP18	円	0.46	0.40	0.16				
	SP19	円	0.32	0.26	0.16				
	SP20	円	0.56	0.50	0.42		67		
	SP21	円	0.40	0.36	0.29				
	SP22	円	0.42	0.35	0.30				

第17表 堂前遺跡 古代 土坑一覧

遺構	平面形	規模 (m)			出土遺物	挿図番号	写真図版	時期
		長さ	幅	深さ				
SK16	円	0.42	0.40	0.30		68		7世紀か
SK17	円	0.30	0.28	0.28		68		7世紀か
SK23	楕円	1.20	0.68	0.35		68		7世紀か
SK25	円	0.32	0.28	0.32		68		7世紀か
SK26	円	0.36	0.30	0.23		68		7世紀か

第18表 堂前遺跡 金属製品一覧

挿図番号	遺物番号	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量 (cm・g)				分析
						長	幅	厚	重	
69	99	63		X13Y14 II b 層	刀子	4.3	1.1	0.35	5.4	
69	100	63		X18Y19 II b 層	袋状鉄斧	8.7	4.0	1.8	164.0	金属・年代

第19表 堂前遺跡 土器一覽(1)

挿図 番号	遺物 番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			残存率 (%)	口縁内面調整	口縁外面調整	体部内面調整	体部外面調整	底部内面調整	底部外面調整	胎土色調	胎土の特徴	時期	型式 詳細時期	備考	
							口径	器高	底径													
58	1	52		X19Y20 Va層 No1	縄文土器	舟形鉢	長径約44 短径35	(23.0)		70	ナデ	半隆起線による 渦巻文, 櫛歯状工 具刺突, ヘラ状工 具刻み, スス附着	ナデ, 黒斑	LR縄文, 黒斑, スス附着	スス附着			7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒, 白色粒, 骨針, 石英, 雲母	中期中葉	古府式	
59	2	53		X18Y18 Va層 No3	縄文土器	深鉢	34.0	(11.2)		35	ナデ	半隆起線による 渦巻文, 半截竹 管刻み, ヘラ状 工具刺突, スス 附着						7.5Y6/4 にぶい橙色	赤色粒, 白色粒, 骨針, 石英	中期中葉	古府式	
	3			X19Y18 V層 No10~12	縄文土器	深鉢?	24.0	(6.6)		8		半隆起線3条		LR縦縄文 (磨滅)				2.5Y3/2 黒褐色	白色粒, 骨針	中期中葉	古府式	
	4			X18Y18 Va層 No5	縄文土器	深鉢?	22.0	(3.0)				半隆起線4条 以上(磨滅) スス附着						7.5YR6/4 にぶい橙色	砂粒, 骨針, 石英	中期中葉	古府式	
	5	52		X18Y18 Va層 No12	縄文土器	台付鉢	22.0	(15.8)	7.3	22	ミガキ	斜縄文, スス 附着	ナデ, スス・炭 化物附着	斜縄文, スス 附着	ナデ, スス・炭 化物附着	ナデ		2.5YR5/6 明赤褐色(胎土) 全体に黒く煤け ている	白色粒, 骨針, 石英, 雲母	中期中葉	古府式	
	6			X18Y20 V層	縄文土器	鉢					ナデ	半隆起線2条, 縄文, 粗雑	ナデ	斜縄文				10YR5/4 にぶい黄褐色	赤色粒	中期中葉	古田新式	くの字状口縁
	7			X18Y16 Va層 No14, 18, 19	縄文土器	深鉢						ナデ, 折返し	浅い半截竹管 による半隆起線		縄文(無節?)			5YR4/6 赤褐色	白色粒, 石英, 雲母	中期中葉	古田新式	
	8			X18Y16 Va層 No17	縄文土器	深鉢						ナデ	隆帯を貝殻腹 縁で刻む・平行 沈線					10YR5/2 灰黄褐色	白色粒, 石英, 雲母	中期後葉	串田新Ⅱ式	波状口縁
60	9			X20Y19 V層 No2	縄文土器	深鉢					ナデ	隆帯を貝殻腹縁 で刻む・平行沈線					10YR5/4 にぶい黄褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式		
	10			X11Y10	縄文土器	深鉢					ナデ, スス附着	隆帯を貝殻腹縁 で刻む					7.5YR6/3 にぶい褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式		
	11	55		X16Y18 II層	縄文土器	深鉢							スス附着	隆帯2条を貝殻 腹縁で刻む, 貝 殻条痕文			7.5YR7/3 にぶい橙色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式		
	12	55		X20Y17~18 V層	縄文土器	深鉢		(4.7)						葉脈状文系			7.5YR7/6 橙色	赤色粒	中期後葉	串田新Ⅱ式		
	13	55		X18~19Y17~ 19 V層	縄文土器	深鉢		(4.6)	10.0				ナデ	葉脈状文系			5YR4/8 赤褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	16と同一個体か	
	14	55		X19Y18 V層 No3	縄文土器	深鉢								葉脈状文系, 横隆帯→連弧 文隆帯→縦隆 帯→条線・刺 突, スス附着			10YR6/3 にぶい黄褐色	白色粒, 石英, 雲母	中期後葉	串田新Ⅱ式		
	15	56		X15Y11 II層	縄文土器	深鉢						ナデ, 炭化物附着	葉脈状文系, 隆 帯を連続刺突				7.5YR5/3 にぶい褐色	白色粒, 石英, 雲母	中期後葉	串田新Ⅱ式	波状口縁	
	16			X18~19Y17~ 19 V層	縄文土器	深鉢		(1.1)	7.9	(底)20				葉脈状文系		網代痕	10YR7/4 にぶい黄褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	13と同一個体か 2本越え2本潜り1本送り	
	17	55		X20Y19 V層 No2	縄文土器	深鉢							ナデ	葉脈状文系, 2 条の隆帯間刺 突, 貝殻腹縁文			7.5YR6/4 にぶい橙色	砂粒, 骨針	中期後葉	串田新Ⅱ式		

第19表 堂前遺跡 土器一覽(2)

挿図 番号	遺物 番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)			残存率 (%)	口縁内面調整	口縁外面調整	体部内面調整	体部外面調整	底部内面調整	底部外面調整	胎土色調	胎土の特徴	時期	型式 詳細時期	備考
							口径	器高	底径												
60	18	55		X17Y20 Va層	縄文土器	深鉢	19.6	(6.7)		10		隆帯2条,ナデ		LR斜縄文			5YR6/8 橙色	赤色粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	19	56		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢		(8.2)				ナデ	無文,補修孔(2 つ),スス附着			7.5YR6/3 にふい褐色	赤色粒,砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式		
	20			X19Y21 Va層 No1	縄文土器	浅鉢	19.8	(7.0)		20	ナデ	輪積み→ナデ				10YR6/3 にふい黄褐色	白色粒,石英,雲母 にふい黄褐色	中期後葉	串田新Ⅱ式	東黒牧上野遺跡に 類例	
	21	56		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢	29.4	(12.1)		9	ナデ(無文)	ナデ(無文)	ナデ(無文)	ナデ(無文)			10YR5/3 にふい黄褐色	赤色粒,砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	22	56		X19Y19 V層 No1	縄文土器	深鉢	28.0	(14.1)		約10		ユビナデ凹線 2条		ナデ(無文)			10YR6/3 にふい黄褐色		中期後葉	串田新Ⅱ式	
61	23			X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	鉢	12.9	(3.75)		10		隆帯1条, スス附着					7.5YR6/3 にふい褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	24	56		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	鉢	14.9	(4.9)		11	ナデ	端部ユビオサエ (小波状),ナデ		補修孔			7.5YR5/2 灰褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	25			X18Y18 Va層 No4	縄文土器	台付鉢		(5.6)					摩滅	摩滅			5YR5/6 明赤褐色	骨針	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	26			X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢					ナデ	隆帯1条,ナデ					7.5YR6/3 にふい褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	双頭波頂波状口縁部
	27			X18~19Y17~ 19 V層	縄文土器	深鉢						沈線,摩滅					2.5Y5/3 黄褐色		中期後葉	串田新Ⅱ式	双頭波頂波状口縁部
	28			X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢						隆帯					7.5YR6/3 にふい褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	双頭波頂波状口縁部
	29			X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢	16.0	(3.1)		12	ケズリ→ナデ スス附着	端部面取り, LR斜縄文, ナデ,スス附着					10YR3/2 黒褐色		中期後葉	串田新Ⅱ式	
	30			X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢		(5.6)	12.3	(底)15		ナデ	無節縄文			スタレ状圧痕, ナデ	7.5YR6/4 にふい褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	31	53		X19Y18 V層 X20Y20 Va層	縄文土器	深鉢		(6.6)	10.9	(底)87		ナデ,スス附着	LR斜縄文	ナデ	スタレ状圧痕		10YR7/4 にふい黄褐色	白色粒,骨針,石英	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	32			X20Y17~18 V層	縄文土器	深鉢		(5.2)	9.8	(底)20		スス附着	RL斜縄文, ナデ				10YR6/4 にふい黄褐色	砂粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	33	54		X20Y18 V層 No3	縄文土器	深鉢		(8.6)	13.1	(底)100		ナデ	LR斜縄文		網代痕		5YR5/6 明赤褐色	白色粒,石英,雲母	中期後葉	串田新Ⅱ式	2本超え2本潜り1本 送り
	34			X19Y18 V層	縄文土器	深鉢		(5.4)	7.3	(底)20			無節縄文, 粗雑なつくり				7.5YR6/2 灰褐色	砂粒,赤色粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	35			X19Y18 V層	縄文土器	深鉢		(2.3)	9.0	(底)21			ナデ		スタレ状圧痕		7.5YR6/4 にふい褐色	砂粒,赤色粒	中期後葉	串田新Ⅱ式	
36			X20Y17~18 V層	縄文土器	深鉢		(2.7)	7.8	(底)65			ナデ		網代痕		7.5YR7/6 褐色	砂粒(大形)	中期後葉		2本超え2本潜り1本 送り	
62	37	55		X19Y18 V層 No13,14	縄文土器	深鉢					ナデ, 端部ユビオサエ	端部ユビオサエ, 平行沈線2条, スス附着	ナデ	RL斜縄文, スス附着			10YR5/3 にふい黄褐色	白色粒,石英,雲母	中期後葉	串田新Ⅱ式	
	38	54		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢					隆帯,刺突	隆帯,刺突, ユビオサエ					10YR7/4 にふい黄褐色	赤色粒,白色粒, 雲母	中期後葉	串田新Ⅱ式	波状口縁突起部
	39	55		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢							U字状沈線文, 赤彩痕				10YR6/4 にふい黄褐色		中期後葉	串田新Ⅱ式	40と同一個体か
	40			X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢						ナデ	U字状沈線文, 部分的に赤彩				7.5YR7/4 にふい褐色		中期後葉	串田新Ⅱ式	39と同一個体か

第19表 堂前遺跡 土器一覽(3)

挿図 番号	遺物 番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			残存率 (%)	口縁内面調整	口縁外面調整	体部内面調整	体部外面調整	底部内面調整	底部外面調整	胎土色調	胎土の特徴	時期	型式 詳細時期	備考
							口径	器高	底径												
62	41			X15Y13 IIb層	縄文土器	深鉢					連弧文?、 列点					7.5YR6/3 にふい褐色	赤色粒,砂粒	中期後葉	串田新II式	双頭波頂波状口縁	
	42	55		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢					隆帯を貝殻腹縁 文で刻む,矢羽 状沈線,スス付着					7.5YR7/4 にふい橙色	赤色粒,砂粒	中期後葉	串田新II式	双頭波頂波状口縁	
	43			X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢				ナデ	平行沈線, 矢羽状沈線					7.5YR7/4 にふい橙色	赤色粒,砂粒	中期後葉	串田新II式		
	44	55		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢				ナデ	平行沈線, LR縄文	ナデ	矢羽状沈線文			10YR6/4 にふい黄褐色	赤色粒,白色粒, 石英,雲母	中期後葉	串田新II式		
	45	54		X19Y19 V層 No2	縄文土器	深鉢	(11.2)	11.2	(底) 約100			スス付着	条線,ナデ, スス付着		スタレ状圧痕	10YR6/4 にふい黄褐色	砂粒	後期初頭	前田式		
	46	55		X19Y18 V層	縄文土器	深鉢					平行沈線間 列点		櫛状工具による 条線			10YR7/4 にふい黄褐色	白石粒,石英	後期初頭	前田式		
	47			X17Y16 Va層No6 X18Y16 Va層No5	縄文土器	深鉢						スス付着	条線			2.5Y6/3 にふい黄色	砂粒	後期初頭	前田式		
	48	57		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢					指頭沈線1条		RL縦縄文			5YR7/3 にふい橙色	骨針	後期初頭	前田式	49と同一個体か	
	49	55		X20Y18 V層 No3,X19Y17 V層No2, X18Y18 V層	縄文土器	深鉢	30.8	(10.1)	7	ナデ	指頭沈線1条	ナデ	RL縦縄文			7.5YR6/6 橙色	白色粒,石英,雲母	後期初頭	前田式	48と同一個体か	
	50			X17Y13 IIIb層 X20Y13 IIIa層	縄文土器	深鉢	33.0		4.5		指頭沈線2条, RL縦縄文					10YR7/3 にふい黄褐色	砂粒	後期初頭	前田式		
63	51	55		X20Y19 V層 No2	縄文土器	深鉢	33.6	(13.9)	10		平行沈線間列点		RL縄文			10YR5/2 灰黄褐色	白色粒,石英,雲母	後期初頭	前田式		
	52	56		X19Y18 V層No5, X19Y17 V層No3	縄文土器	深鉢	9.8	(4.2)	28	ユビオサエ, 炭化物付着	平行沈線間列点		縦条線(摩滅)			10YR6/3 にふい黄褐色	白色粒,石英,雲母	後期初頭	前田式		
	53	56		X18Y16 Va層 No19	縄文土器	深鉢				ナデ	平行沈線間 列点,縦条線, スス付着					10YR6/2 灰黄褐色	白色粒,石英,雲母	後期初頭	前田式		
	54	56		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢	11.8	(6.0)	45	ナデ,スス付着	平行沈線2条		縦縄文			5YR4/6 赤褐色	白色粒,石英,雲母	後期初頭	前田式	55と同一個体か	
	55	54		X20~21Y18~ 19 V層	縄文土器	深鉢	(4.2)	8.0	(底)83			ナデ,スス付着	縦縄文	ナデ,放射状 ユビオサエ	網代痕か(摩 滅)	5YR4/6 赤褐色(かなり 煤が付着)	白色粒,石英,雲母	後期初頭	前田式	54と同一個体か	
	56			X17Y16 Va層	縄文土器	鉢				ナデ	ナデ					7.5YR5/4 にふい褐色	砂粒,骨針	中期後葉~ 後期初頭	串田新 前田式		
	57			X12Y10 Ib層	縄文土器	鉢	13.0	(3.8)	8	ナデ	ナデ(摩滅)					7.5YR7/4 にふい橙色	砂粒	中期後葉~ 後期初頭	串田新 前田式		
	58			X13Y15 IIb層	縄文土器	深鉢					端部刻み	端部刻み, RL縄文				10YR6/3 にふい黄褐色	砂粒	中期後葉~ 後期初頭	串田新 前田式		
	59			X20Y20 Va層	縄文土器	深鉢	(14.5)					スス付着	上位LR斜縄文,下 位縦縄文,スス付着			10YR7/4 にふい黄褐色	赤色粒	中期後葉~ 後期初頭	串田新 前田式		
	60		SD102	No28,X19Y16 Va層No20, X19Y17 Va層 No21,22	縄文土器	深鉢	44.6	(16.4)	約8		端部面取り, RL斜縄文		RL斜縄文			5YR3/6 暗赤褐色	白色粒	中期後葉~ 後期初頭	串田新 前田式		

第19表 堂前遺跡 土器一覽(4)

挿図 番号	遺物 番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)			残存率 (%)	口縁内面調整	口縁外面調整	体部内面調整	体部外面調整	底部内面調整	底部外面調整	胎土色調	胎土の特徴	時期	型式 詳細時期	備考
							口径	器高	底径												
64	61	57		X7Y4 Ⅱa層 (西端谷部)	縄文土器	深鉢										5YR5/6 明赤褐色	白色粒,石英,雲母	後期前葉	気屋 I b式		
	62	57		X14Y13 Ⅱb層	縄文土器	深鉢?										7.5YR5/3 にぶい褐色	白色粒,石英,雲母	後期前葉	気屋 I b式		
	63		SD102	X13Y14 №1	縄文土器	深鉢										5YR5/4 にぶい赤褐色	赤色粒,砂粒	後期前葉	気屋 I b式		
	64	58	SD102	№7	縄文土器	深鉢							縦縄文			7.5YR5/4 にぶい褐色	白色粒,骨針,雲母	後期前葉	気屋 I b式		
	65		SD102	X12Y14 Ⅱa層 №3,X13Y16 Ⅱa層	縄文土器	深鉢						スス附着	三角刺突文, RL縦縄文(摩滅)			5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒,砂粒	後期前葉	気屋 I b式		
	66	58	SD102	X13Y15 Ⅱa層 №60	縄文土器	深鉢	25.8	(7.9)		10			斜縄文,三角 刺突文2条	RL縦縄文		10YR5/3 にぶい黄褐色	白色粒,石英,雲母	後期前葉	気屋 I b式		
	67	57	SD102	X13Y15 №1, X12Y14	縄文土器	深鉢	21.7	(4.2)		23	ナデ		ユビオサエ,RL斜 縄文,平行沈線	縦縄文		7.5YR6/4 にぶい橙色		後期前葉	気屋 I b式		
	68			X10Y16 Ⅱa層	縄文土器	深鉢							ユビオサエ,RL 斜縄文,平行沈 線間に短沈線	RL縦縄文		7.5YR6/4 にぶい橙色	骨針	後期前葉	気屋 I b式		
	69	57	SD102	X12Y14 Ⅱa層 №3	縄文土器	深鉢					スス附着		円形刺突文, 平行沈線, 末端刺突の沈線			7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒,砂粒	後期前葉	気屋 I b式		
	70	57		X14Y13 Ⅱb層	縄文土器	深鉢							円形刺突文, 三角刺突文, スス附着			7.5YR6/6 橙色	砂粒	後期前葉	気屋 I b式		
	71	57		X8Y4 Ⅱa層 (西端谷部)	縄文土器	深鉢					ナデ		斜縄文,指頭 による突起部, 平行沈線2条			7.5YR6/6 橙色	白色粒,骨針,雲母	後期前葉	気屋 I b式		
	72	58	SD102	№48	縄文土器	深鉢							端部棒状工具 で斜位の刺突, 竹管で刺突			5YR6/6 橙色	骨針	後期前葉	気屋 I b式		
	73	58	SD102	№7	縄文土器	深鉢?							端部ヘラ状工 具で矢羽状刺 突,平行沈線			5YR6/4 にぶい橙色	白色粒,石英,雲母	後期前葉	気屋 I b式	受口状口縁	
	74	58		X8Y4 Ⅱa層 (西端谷部)	縄文土器	深鉢					ナデ,スス附着		斜縄文,棒状工 具で斜刻み, 平行沈線2条	縦縄文		10YR6/3 にぶい黄褐色	白色粒,骨針,石英, 雲母	後期前葉	気屋 I b式		
	75	58		X7Y4 Ⅱa層	縄文土器	深鉢							端部棒状工具 で斜刻み,RL斜 縄文,平行沈線2条	RL縦縄文		5YR6/4 にぶい橙色	砂粒,赤色粒	後期前葉	気屋 I b式		
	76	58		X8Y4 Ⅱa層	縄文土器	深鉢							端部棒状工具 で斜位刺突,RL 斜縄文,平行沈 線2条,スス附着	RL縦縄文,ス ス附着		2.5YR6/8 橙色	骨針	後期前葉	気屋 I b式		
	77	57		X15Y19 Ⅱa層	縄文土器	深鉢							端部縦刻み, 平行沈線3条			7.5YR6/6 橙色		後期前葉	気屋 I b式		

第19表 堂前遺跡 土器一覽(5)

挿図 番号	遺物 番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			残存率 (%)	口縁内面調整	口縁外面調整	体部内面調整	体部外面調整	底部内面調整	底部外面調整	胎土色調	胎土の特徴	時期	型式 詳細時期	備考	
							口径	器高	底径													
65	78	58	SD102	No50	縄文土器	深鉢	29.8	(8.7)		13		斜縄文, 平行沈線2条, 縦縄文			RL縦縄文		7.5YR6/4 にふい橙色	白色粒,雲母,長石	後期前葉	気屋 I b式		
	79			X16Y18 IIa層	縄文土器	深鉢						隆帯にLR斜縄 文,平行沈線				10YR6/3 にふい黄褐色	骨針	後期前葉	気屋 I b式			
	80			X13Y15 IIa層	縄文土器	深鉢						RL斜縄文,平 行沈線,沈線 間縦縄文				5YR5/6 明赤褐色	骨針	後期前葉	気屋 I b式			
	81		SP5		縄文土器	深鉢						RL斜縄文,指 頭沈線,スス付着			RL縦縄文, スス付着		10YR5/3 にふい黄褐色		後期前葉	気屋 I b式		
	82	58	SD102	No51	縄文土器	深鉢							棒状工具による長 方形区画の沈線文			7.5YR4/6 褐色	白色粒,石英,雲母	後期前葉	気屋 I b式			
	83	57	SD102	No13	縄文土器	深鉢	18.8	(4.3)		5		RL斜縄文,指 頭による列点			縦縄文		5YR5/4 にふい赤褐色	砂粒	後期前葉	気屋 I b式		
	84		SD102	X12Y14 No1	縄文土器	深鉢						RL斜縄文			縦縄文		7.5YR6/3 にふい褐色	赤色粒	後期前葉	気屋 I b式		
	85			X8Y4 IIa層	縄文土器	深鉢	19.8	(2.8)		8	ナデ	RL斜縄文					5YR5/6 明赤褐色	砂粒	後期前葉	気屋 I b式		
	86	57	SD102	X15Y13	縄文土器	深鉢		(3.3)	9.0	(底)32		ナデ,スス付着		RL縦縄文			5YR5/4 にふい赤褐色	赤色粒,砂粒	後期前葉	気屋 I b式		
	87	57	SD102	No28,45	縄文土器	深鉢		(8.8)				ナデ		RL縦縄文			5YR6/4 にふい橙色	赤色粒,砂粒	後期前葉	気屋 I b式		
	88			X21Y19 V層 No1	縄文土器	深鉢		(15.1)	15.4	(底)26		ナデ		RL縦縄文(摩 滅)		網代痕	5YR7/4 にふい橙色	砂粒	後期前葉	気屋 I b式		
	69	89	62		X17Y15 IIb層	須恵器	杯蓋	(口径)15.4 18.7	2.2		85	ロクロナデ	ロクロナデ			(頂部)仕上げ ナデ	(頂部)回転 ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰色	白色粒	古代	7C第4四半期	胎土分析NO.1, 重ね焼き
90		62		X5Y6 IIb層 X15Y15 IIb層	須恵器	杯蓋	(口径)11.6 13.1	2.6		40	ロクロナデ	ロクロナデ			(頂部)仕上げ ナデ	(頂部)回転 ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰色	白色粒	古代	7C第4四半期	胎土分析NO.2, 重ね焼き	
91				X19Y16 IIb層	須恵器	杯蓋	(口径)10.2 12.2	(1.2)		15	ロクロナデ	ロクロナデ			(頂部)仕上げ ナデ	(頂部)回転 ヘラケズリ	7.5Y6/1 灰色		古代	7C第4四半期	重ね焼き	
92		63		X15Y13 IIb層 (II層上面)	須恵器	杯蓋	(口径)8.2 10.2	2.3		85	ロクロナデ	ロクロナデ			(頂部)仕上げ ナデ	(頂部)回転 ヘラケズリ	N5/0 灰色	白色粒	古代	7C第4四半期	胎土分析NO.3, 重ね焼き	
93				X19Y18 IIb層	土師器	碗	15.8	(2.25)		5	ロクロナデ	ロクロナデ					7.5YR7/6 褐色		古代			
94				X13Y13 IIb層	土師器	碗	13.8	(2.5)		3	ロクロナデ	ロクロナデ					7.5YR6/6 褐色	赤色粒,骨針	古代			
95				X16Y18 IIb層	土師器	碗		(1.4)	6.5	(底)20					ロクロナデ	回転糸切り	10YR7/6 明黄褐色	赤色粒	古代			
96		63		X13Y13 IIb層	黒色土器	高杯		(4.2)	7.2	(底)28		ミガキ	ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ	7.5YR7/6 褐色	白色粒,骨針,雲母	古代	7C	外面赤彩,内面黒色
97		63		X13Y17 I層	越中瀬戸	皿	9.7	2.1	4.1	10	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄色		近世	16C末~17C	釉色調:2.5Y8/3 淡黄色,釉薬:灰釉, 重ね焼き	
98		63		X19Y18 I層	中国製 青磁	碗		(4.1)	5.9	(底)18			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	7.5Y7/1 灰白色		中世	13C前半	釉色調:2.5GY6/1 オリープ灰色,釉薬: 青磁釉,龍泉窯系	

第V章 自然科学分析

板屋谷内B・C古墳群，堂前遺跡では，現地調査期間（平成16年度）および整理期間（平成16～18年度）に広い分野からの遺跡の理解を深めることを目的とし，様々な自然科学分析を実施した。

現地調査期間の分析は，板屋谷内C古墳群を対象とし，花粉並びに植物珪酸体の分析，赤色土の顔料分析，放射性炭素年代測定等を行った。整理期間の分析は，出土遺物を対象として，ガラス玉成分分析，琥珀玉の産地同定，須恵器胎土分析，銅鏡の鉛同位体比分析並びに付着顔料分析，金属製品の成分分析および放射性炭素年代測定等を行い，それぞれ結果を得た。

但し，堂前遺跡出土金属製品の放射性炭素年代測定については，袋状鉄斧1点の分析を実施したが，試料中の炭素含有量がごく微量であり，測定不可という結果であったため，本書には掲載していない。

各分析の目的，種類，対象，分析者等は以下に一覧表で示す。

目的	分析試料	分析名	分析者	年度	遺跡名	遺構	対象
古植生の復元	花粉	花粉分析	(株)パリオ・サーヴェイ	平成16	板屋谷内B・C古墳群	C1・C2・C4・C6	旧表土及び整地土
	珪酸体	植物珪酸体分析					
赤色顔料の特定	赤色顔料	X線回折分析・蛍光X線分析				C1	埋葬施設検出赤色土
帰属年代の検討	炭化物	放射性炭素年代測定	C2	土坑埋土(炭化物混土)			
材質の検討	ガラス	ガラス玉成分分析(蛍光X線分析)	(株)パレオ・ラボ	平成17	板屋谷内B・C古墳群	C1・C6	ガラス小玉・管玉 17点
材質の検討・産地同定	琥珀	赤外分光分析・熱分析・蛍光X線分析	(財)元興寺文化財研究所	平成17	板屋谷内B・C古墳群	B13・C6	琥珀玉 3点
産地同定	須恵器	蛍光X線分析	胎土分析研究会	平成17	板屋谷内B・C古墳群	B13・C2	須恵器 4点
				平成18	堂前・岩坪岡田島遺跡		須恵器 8点
顔料の特定	鏡	付着顔料の蛍光X線分析	(財)元興寺文化財研究所	平成16	板屋谷内B・C古墳群	C6	珠文鏡 1点
鉛同位体比測定							
原材料及び製品の検討		付着顔料の蛍光X線分析		平成17			内行花纹鏡 1点
原材料及び製品の検討		鉛同位体比測定					
材質・帰属年代の検討	金属製品	金属学的分析・成分分析	(財)元興寺文化財研究所	平成16	板屋谷内B・C古墳群	B13	鉄刀 1点
					堂前遺跡		鉄斧 1点
				平成18	板屋谷内B・C古墳群	B13・C1・C4・C6・C7・尾根	金属製品 13点
材質の検討	金属製品	蛍光X線分析	(財)元興寺文化財研究所	平成18	板屋谷内B・C古墳群	C1	金属製品 1点
帰属年代の検討	金属製品	金属製品の放射性炭素年代測定	(財)元興寺文化財研究所	平成16	板屋谷内B・C古墳群	B13	鉄刀 1点
					堂前遺跡		鉄斧 1点
				平成18	板屋谷内B・C古墳群	B13・C1・C4・C7・尾根	金属製品 6点

第20表 自然科学分析一覧

1 板屋谷内B・C古墳群

(1) 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

A はじめに

富山県高岡市五十里地区に所在する板屋谷内B・C古墳群は、小矢部川左岸の二上丘陵に連なる西山丘陵上に立地している。本古墳群はA～D支群からなり、過去に行われた分布調査によれば27基の古墳の所在が明らかとされている。

本報告では、C古墳群において新たに確認されたC1・C2・C4・C6号墳より採取された土壌試料や炭化物試料を対象に自然科学分析を行い、遺構の年代や古植生、赤色顔料の由来について検討する。

B 試料

試料は、炭化物混じり土壌、調査所見から旧表土・盛土とされる土層から採取された土壌、さらに、赤色土とされる土壌からなる。以下に、各古墳の調査所見と合わせて試料の概要を示す。

C1号墳

径24mの円墳と推定され、墳丘西側からは周溝が検出されている。墳丘は、地山（旧表土）の整形と、黄褐色或は褐色の砂・砂質土からなる盛土によって築造されている。埋葬施設は、墳丘中心部よりやや西側に位置し、掘形は長さ6.4m、幅1.9m、深さ0.2mを測る。この掘形北側の棺外に相当する底面からは40×80cm程の範囲で赤色土が堆積する状況が確認されている。

試料は、墳丘上に南北方向に設定されたトレンチの土層断面に認められた盛土或は整地層と考えられる土層である南北断面8・9・10層より採取された土壌3試料（土6～8）と、上述した埋葬施設掘形に認められた赤色土1試料（土1）である。

これらの試料のうち、土6～8については花粉分析・植物珪酸体分析、土1については蛍光X線分析を行う。

C2号墳

周溝を有する古墳であり、墳丘は旧表土の整地及び盛土によって築造されている。埋葬施設は、墳丘のほぼ中央に位置するが、棺床のごく一部が検出されたのみとされる。また、埋葬施設のほぼ中心部と考えられる地点からは中世の土坑（SK2）が検出されている。

試料は、上記したSK2から採取された炭化物混じり土壌（土2～4）、埋葬施設から採取された炭化物混じり土壌（土5）、墳丘上に南西－北東方向に設定されたトレンチの土層断面に認められた22層（旧表土：土9）と24・32層（盛土：土10・11）より採取された土壌3試料である。

これらの試料のうち、炭化物混じり土壌4試料については放射性炭素年代測定、旧表土及び盛土より採取された土壌試料については花粉分析・植物珪酸体分析を行う。

C4号墳

隅丸の方墳であり、墳丘は地山（旧表土）の削出しと盛土によって築造される。埋葬施設は、墳丘のほぼ中心部に位置し、掘形は長さ4.9m、幅2.1～2.2mを測る。

試料は、墳丘上に設定されたトレンチの土層断面に認められた南北断面28層（旧表土：土13）、及び13層（盛土：土12）より採取された土壌2試料である。これらの試料を対象に花粉分析・植物珪酸

体分析を行う。

C 6号墳

周溝を有する円墳であり、周溝内側から墳丘裾部まで17mを測る。墳頂部には約8mの平坦面があり、当箇所より埋葬施設と考えられる落ち込みと中世の土坑2基が検出されている。

試料は、墳丘上に北西-南東方向に設定されたトレンチの土層断面に認められた地山（旧表土）とされる土層より採取された土壌1試料（土14）である。当試料を対象に花粉分析・植物珪酸体分析を行う。

C 分析方法

a 放射性炭素年代測定

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N）により、不純物を取り除き、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器はNEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

b 花粉分析

試料約10gについて、水酸化ナトリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9，濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、出現する全ての種類について同定・計数する。結果は同定・計数結果の一覧表として示す。

c 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリユウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下，短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下，機動細胞珪酸体と呼ぶ），およびこれらを含む珪化組織片を近藤（2004）の分類に基づいて同定し，計数する。結果は，検出された種類とその個数の一覧表で示す。

d X線回折分析・蛍光X線分析

赤色顔料として利用される代表的な顔料鉱物は，ベンガラ（赤鉄鉱；hematite [α -Fe₂O₃])をはじめとして，水銀朱（辰砂；cinnabar [HgS])，鉛丹（鉛丹；minium [Pb₃O₄])が挙げられる。これら無機顔料の科学的調査法としては，蛍光X線分析法により検出される鉄（Fe）や水銀（Hg），硫黄（S）あるいは鉛（Pb）を指標として識別する手法と，X線回折法を利用して得られる結晶構造の特徴から赤鉄鉱，辰砂，鉛丹を同定する手法がある。

蛍光X線分析法では土壤に混在する赤色顔料を測定した場合，土壤に含まれる鉄も検出され，ベンガラか否かの判断が難しいこと，検出された元素から顔料鉱物を推定する間接的な定性法であることから，仮に鉄が検出されたとしても広義の「ベンガラ」と位置付けられるのみである。したがって，得られる情報に制限があることから，ここではX線回折法を併用し，顔料同定を行っている。

蛍光X線分析は、セイコーインスツルメンツ(株)製エネルギー分散型蛍光X線分析装置 (SEA2120L) を利用し、微粉碎した赤色土をマイラー膜 (2.5 μ m) (ケンプレックス製CatNo106) 上に固定し、測定を実施する。なお、得られた特性X線スペクトルは元素定性を実施した後、マイラー膜による吸収補正を施し、ノンスタンダードによるFP法 (ファンダメンタルパラメーター法) により、酸化物として定量演算を行い、相対含有率 (質量%) を算出する。ただし、本装置による検出可能元素は11Naから92U範囲にある元素であること、算出された相対含有率は半定量的なものであることに留意しておかなければならない。X線回折分析は、微粉碎した赤色土をアルミニウムホルダーに充填し、X線回折試験を実施する。

検出された物質の同定解析は、Materials Data,Inc.のX線回折パターン処理プログラムJADEを用い、該当する化合物または鉱物を検索する。

D 結果

a 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果は、SK2の土2は900 \pm 25, 同土3は895 \pm 25, 同土4は865 \pm 25, 埋葬施設 (SK4) 土5は測定に十分な炭素が回収されず測定不能であった (表1)。一方、暦年較正結果 (測定誤差を2 σ として計算させた結果) は、SK2の土2はcalAD1042-1209, SK2の土3はcalAD1043-1213, SK2土4はcalAD1050-1223を示す (表2)。

なお、暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い (¹⁴Cの半減期

表1 放射性炭素年代測定結果

試料名			分析手法	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	Code No.
02IY-C2	SK2	土2	AMS法	900 \pm 25	-25.85 \pm 0.11	8910-18
02IY-C2	SK2	土3	AMS法	895 \pm 25	-25.71 \pm 0.12	8910-19
02IY-C2	SK2下層	土4	AMS法	865 \pm 25	-24.85 \pm 0.11	8910-20
02IY-C2	埋葬施設	土5	AMS法	測定不能	-	8910-21

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

表2 暦年較正結果

試料名		補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)						相対比	Code No.	
02IY-C2	SK2	901 \pm 23	σ	cal AD 1.047	-	cal AD 1.088	cal BP 903	-	862	0.524	8910-18
				cal AD 1.122	-	cal AD 1.139	cal BP 828	-	811	0.183	
				cal AD 1.149	-	cal AD 1.174	cal BP 801	-	776	0.293	
			2 σ	cal AD 1.042	-	cal AD 1.107	cal BP 908	-	843	0.472	
				cal AD 1.117	-	cal AD 1.209	cal BP 833	-	741	0.528	
02IY-C2	SK2	894 \pm 23	σ	cal AD 1.050	-	cal AD 1.083	cal BP 900	-	867	0.421	8910-19
				cal AD 1.125	-	cal AD 1.136	cal BP 825	-	814	0.119	
				cal AD 1.151	-	cal AD 1.185	cal BP 799	-	765	0.434	
			2 σ	cal AD 1.203	-	cal AD 1.205	cal BP 747	-	745	0.025	
				cal AD 1.043	-	cal AD 1.103	cal BP 907	-	847	0.396	
				cal AD 1.118	-	cal AD 1.143	cal BP 832	-	807	0.134	
02IY-C2	SK2下層	866 \pm 23	σ	cal AD 1.146	-	cal AD 1.213	cal BP 804	-	737	0.470	8910-20
				cal AD 1.164	-	cal AD 1.210	cal BP 786	-	740	1.000	
				cal AD 1.050	-	cal AD 1.082	cal BP 900	-	868	0.089	
02IY-C2	埋葬施設	測定不能		cal AD 1.124	-	cal AD 1.136	cal BP 826	-	814	0.018	
				cal AD 1.151	-	cal AD 1.223	cal BP 799	-	727	0.893	

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。
- 2) 計算には、表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%, 2 σ は95%である。
- 5) 相対比は、 σ , 2 σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

5730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算や再検討に対応するため1年単位で表記する。また、本試料は、 $\delta^{13}\text{C}$ の値から大気由来の炭素によって構成されていることから北半球の大気中炭素用の較正曲線を用いる。

暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算し、表に併記する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

b 花粉分析

結果を表3に示す。いずれの試料も保存状態は不良であり、花粉化石・シダ類胞子がほとんど検出されない。また、検出された個体も、いずれも風化が進んでいる状態である。

c 植物珪酸体分析

結果を表4に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、検出個数は100個未満と少ない。また、保存状態も不良であり、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。いずれの試料からも、クマザサ属を含むタケ亜科、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科等が僅かに認められる。これらの分類群中では、概してタケ亜科の産出が目立つ。

表3 花粉分析結果

種 類	O2IY-C1			O2IY-C2			O2IY-C4		O2IY-C6
	8層 盛土 試料番号 土6	9層 盛土 土7	10層 盛土 土8	22層 旧表土 土9	24層 盛土 土10	32層 盛土 土11	13層 盛土 土12	28層 旧表土 土13	旧表土 土14
木本花粉									
マツ属	-	-	-	-	-	1	-	-	1
草本花粉									
イネ科	-	-	-	-	-	-	-	1	-
キク亜科	1	-	-	-	-	-	-	-	-
不明花粉	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シダ類胞子									
ゼンマイ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-
他のシダ類胞子	1	7	-	8	-	9	1	5	4
合 計									
木本花粉	0	0	0	0	0	1	0	0	1
草本花粉	1	0	0	0	0	0	0	1	0
不明花粉	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シダ類胞子	1	7	0	9	0	9	1	5	4
総計(不明を除く)	2	7	0	9	0	10	1	6	5

表4 植物珪酸体分析結果

種 類	O2IY-C1			O2IY-C2			O2IY-C4		O2IY-C6
	8層 盛土 試料番号 土6	9層 盛土 土7	10層 盛土 土8	22層 旧表土 土9	24層 盛土 土10	32層 盛土 土11	13層 盛土 土12	28層 旧表土 土13	旧表土 土14
イネ科葉部短細胞									
タケ亜科クマザサ属	9	25	1	35	1	16	6	14	11
タケ亜科	1	8	-	2	-	2	-	1	-
ウシクサ族ススキ属	1	4	1	-	-	-	-	-	7
イチゴツナギ亜科	-	-	-	-	-	-	3	4	2
不明キビ型	3	7	3	5	-	3	2	3	6
不明ヒゲシバ型	-	3	-	-	-	-	-	1	-
不明タンク型	3	12	1	1	-	1	4	4	4
イネ科葉身機動細胞									
タケ亜科クマザサ属	12	15	2	21	1	14	2	12	10
タケ亜科	1	2	-	2	-	-	-	-	-
不明	5	5	-	4	1	2	3	4	2
合 計									
イネ科葉部短細胞珪酸体	17	59	6	43	1	22	15	27	30
イネ科葉身機動細胞珪酸体	18	22	2	27	2	16	5	16	12
総 計	35	81	8	70	3	38	20	43	42

d X線回折分析・蛍光X線分析

蛍光X線分析の測定条件を表5に、X線回折分析の測定条件を表6に示す。また、蛍光X線スペクトル図を図1、定性・定量結果を表7、X線回折図を図2に示す。

蛍光X線分析によって検出された元素は、一般的な珪酸塩鉱物の構成元素であるケイ素 (Si)、アルミニウム (Al)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、カルシウム (Ca)、マグネシウム (Mg)、カリウム (K)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr)のほか、水銀 (Hg) である。これら検出元素の中で赤色顔料に由来すると考えられる元素は、水銀、鉄の2元素であり、予測される顔料鉱物としては、水銀朱とベンガラ (赤鉄鉱) が挙げられる。ただし、鉄については赤色土中の土壌鉱物に由来するところが多いと考えられ、赤鉄鉱に由来するか否か判断は困難である。

一方、X線回折分析によって試料に含まれる鉱物種を調査した結果、検出された鉱物は一般的な造岩鉱物である石英 (quartz)、曹長石 (albite)、微斜長石 (microcline)、白雲母 (muscovite)、緑泥石 (clinochlore) のほか、赤鉄鉱 (hematite) の存在を示す微弱な回折が認められる。なお、回折図中には水銀朱の回折は確認されていないが、仮に水銀朱として存在していたとしても、量的な問題で検出することは難しいと推察される。

表5 蛍光X線測定条件

測定装置	SEA2120L	
管球ターゲット元素	Rh	
コリメータ	φ10.0mm	
フィルター	なし	
マイラー	ON	
雰囲気	真空	
励起電圧 (kV)	15	50
管電流 (μA)	自動設定	自動設定
測定時間 (秒)	300	300
定性元素	Na~Ca	Sc~U

表6 X線回折測定条件

装置	理学電気製MultiFlex
Target	Cu (Ka)
Monochrometer	Graphite湾曲
Voltage	40KV
Current	40mA
Detector	SC
CalculationMode	cps
DivergencySlit	1°
ScatteringSlit	1°
ReceivingSlit	0.3mm
ScanningSpeed	2° /min
ScanningMode	連続法
SamplingRange	0.02°
ScanningRange	2~45°

表7 蛍光X線定性・定量結果

成分名	定量結果 (wt%)	積分強度 (cps)
MgO	2.24	8.891 (±0.269)
Al ₂ O ₃	22.2	212.262 (±0.991)
SiO ₂	64.21	1101.611 (±2.229)
K ₂ O	2.25	108.856 (±0.739)
CaO	0.31	27.751 (±0.425)
TiO ₂	0.83	16.960 (±0.325)
MnO	0.08	4.566 (±0.240)
Fe ₂ O ₃	7.76	520.982 (±1.552)
Rb ₂ O	0.02	7.190 (±0.339)
SrO	0.02	9.778 (±0.370)
Y ₂ O ₃	0.01	4.563 (±0.347)
ZrO ₂	0.04	20.749 (±0.445)
HgO	0.04	3.461 (±0.268)

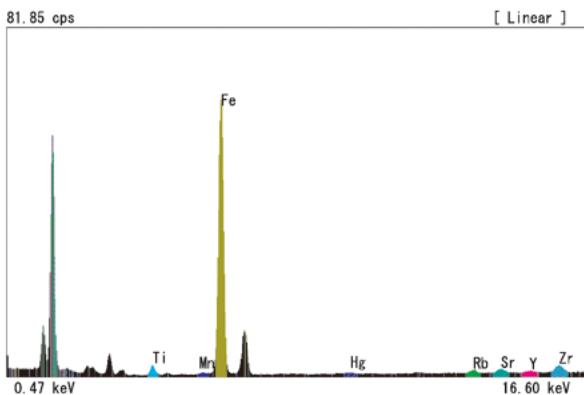
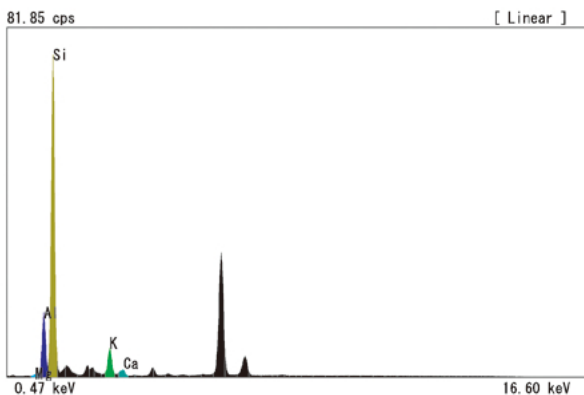


図1 蛍光X線スペクトル(上:励起電圧15kV,下:50kV)